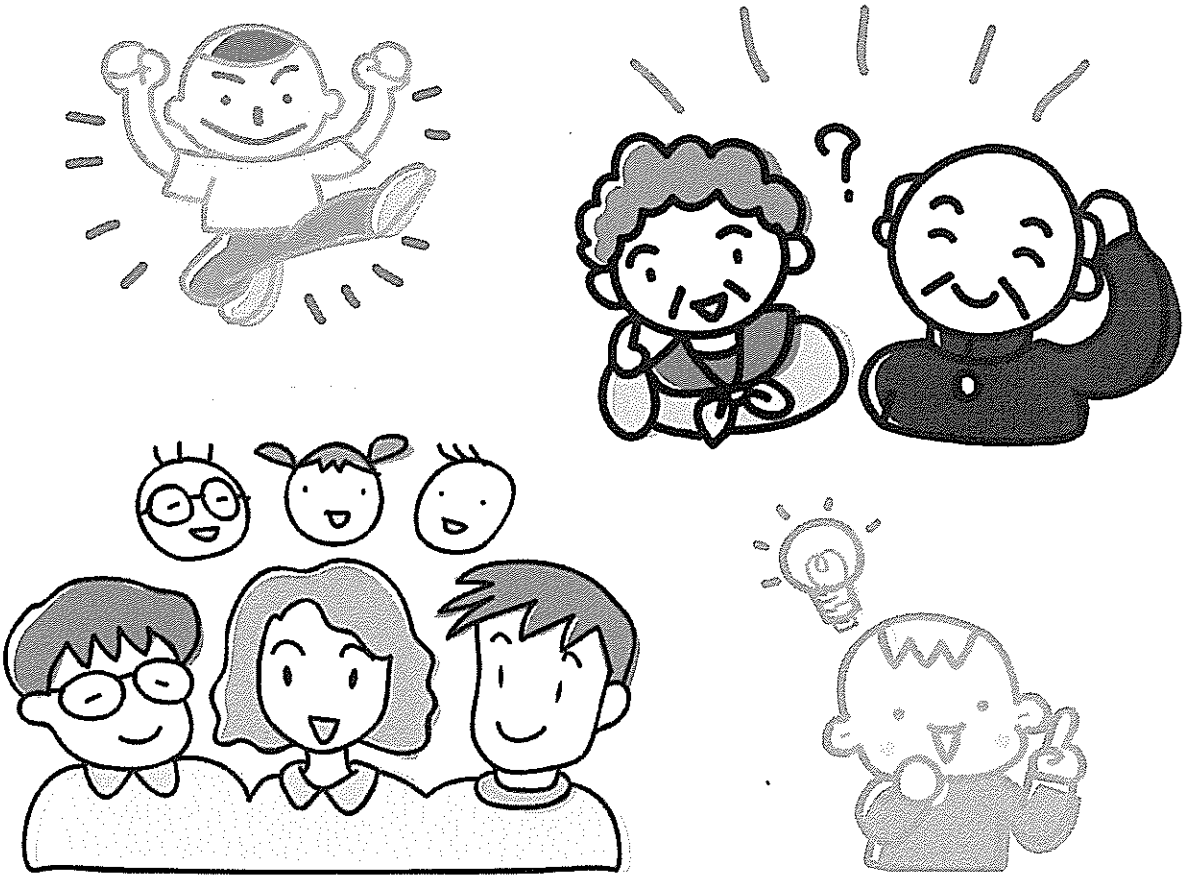
平成23年度 研修報告書　第38号

大河原教育事務所管内社会教育60年のあゆみ

～変わり続ける時代を生きる～



【大河原地区社会教育主事研究協議会】

発　刊　に　あ　た　っ　て

平成２３年３月１１日。この日は，多くの方にとって忘れることのできない，いや，絶対忘れてはいけない日となりました。あの大震災。個人一人ひとりの力ではどうすることもできませんでした。家族や住む家など，多くのものを失ってしまった方々もいます。

しかし，あの大震災を経験して，我々は，忘れてかけていた「絆」「感謝」など，大切なことを再認識できたことは誰もが感じたことでしょう。

我々，社会教育に携わる者にとっては，地域の人々が幸せに生きるため，今こそ社会教育の力を最大限に発揮しなければならないのではないでしょうか。

大河原地区社会教育主事研究協議会は，それぞれの市町等から各１名の研修委員を選出し，毎年研修テーマを決めて，月１回のペースで１年間かけて研修委員会を開催しています。今年度の研修テーマは「大河原教育事務所管内社会教育６０年のあゆみ～変わり続ける時代を生きる～」です。特に直近の１０年間を振り返ると，平成１８年には教育基本法の全面改正があり，平成２０年には社会教育法の一部改正，中央教育審議会の答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～」，国の教育振興基本計画の策定など，一連の大きな改正等がありました。

その根本にあるものは，「地域・家庭・学校による協働教育」です。

これに伴い，宮城県，各市町村等においても，「協働教育」に取り組むという流れが見られています。地域・家庭・学校が，子どもたちを地域全体で育てていくという一つの目標を共有しながら推進していくことは，それに関わることによって，自らの能力等を発揮するということにもつながります。そして，地域全体の教育力の向上につながっていくのです。

その中で発生した，あの大震災。今こそ，地域・家庭・学校による協働教育を充実させていく時です。復興に向けて，そして，輝かしい未来に向かって，みんなの力を結集して，「協働教育」に取り組んでいきましょう！

最後になりますが，この研修報告書を発行するにあたり，１年間ご指導いただいた大河原教育事務所の皆様をはじめ，先進地研修視察や座談会にご協力をいただきました多くの皆様に感謝申し上げますと共に，本年度研修に取り組まれた各市町等の研修委員の皆さんのご努力に対し，心から敬意を表し発刊のことばといたします。

平成２４年３月

大河原地区社会教育主事研究協議会
会　長　柴田町社会教育主事　大川原　真一

発　刊　を　祝　し　て

宮城県大河原教育事務所長　桂　島　　晃

東日本大震災から１年が過ぎました。改めまして震災によりお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表しますとともに，被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて，大河原地区社会教育主事研究協議会の皆様が，研修事業の一環として取り組まれた研修報告書第３８号「大河原教育事務所管内社会教育６０年のあゆみ」を発刊されましたことに心からお祝いを申し上げます。また，昭和５３・５４年度の「管内社会教育３０年のあゆみ」を皮切りに，１０年おきに，社会教育に係る予算や事業の変遷，社会教育施設一覧等についてまとめてこられたことは，管内の社会教育行政の推進において非常に意義のある取り組みであると思います。皆様の熱意とご努力に深く敬意と感謝を申し上げます。

我が国の教育界のこの１０年を振り返りますと，平成１８年の教育基本法改正による「生涯学習の理念（第３条）」及び「学校，家庭教育及び地域住民等の相互の連携協力（第１３条）」の新設をはじめ，平成１３・２０年の社会教育法，平成１５年の地方自治法の改正と，これまでに例を見ないほどの社会教育行政に関連する法改正等が行われました。

このように社会の枠組みが大きく変化していく中，宮城県は，平成２２年３月に宮城県教育振興基本計画を策定し，

1　夢と志を持ち，その実現に向けて自ら考え行動し，社会を生き抜く人間を育む。

2　次代を支える社会の一員として，歴史が培ってきた文化や規範を尊重し，思いやりの心に富んだ人間を育む。

3　学校・家庭・地域の教育力の充実と連携の強化を図り，宮城の豊かな教育資源を生かしながら，社会全体で子どもを守り育てる環境をつくる。

4　生涯にわたり学び，互いに高め合い，充実した人生を送ることができる地域社会をつくる。

の４つの目標を掲げ，具体的な施策を展開しております。上記の３と４につきましては，各市町におかれましても，社会教育推進のための目標として共有できるものと思われますので，県や市町職員という枠を超え，社会教育を推進する立場にある仲間として，今後も連携を深め，管内の社会教育の振興を図って参りたいと考えております。また，次年度は，宮城県協働教育プラットフォーム事業を管内全市町で実施していただく予定となっておりますので，今年度の先進地視察や座談会での成果を，次年度の事業展開に大いに活かしていただけるものと期待しております。

結びに，本書を発行されるにあたり，多くのご努力を払われました研修委員の皆様と貴協議会及びに，会員の皆様を支えていただいている各市町教育委員会の皆様に対し，心から感謝を申し上げますとともに，大河原地区の生涯学習の振興と貴協議会の一層の発展を祈念し，お祝いのことばといたします。

目　　次

発刊にあたって　……　大河原地区社会教育主事研究協議会　会長　大川原　真一

発刊を祝して　……　宮城県大河原教育事務所　所長　桂島　晃

◇ はじめに　……　1

◇ 研修テーマと経過　……　3

◇ 各市町等の社会教育の移り変わり（平成１２～平成２２年度）　…　5

白　石　市　……　5
角　田　市　……　8
蔵　王　町　……　11
七　ヶ　宿　町　……　14
大　河　原　町　……　17
村　田　町　……　20
柴　田　町　……　23
川　崎　町　……　26
丸　森　町　……　29
仙南地域広域行政事務組合　……　33

◇ 先進地研修視察報告　……　37

◇ 講話及び座談会「震災によって見えた協働教育の重要性」　……　49

◇ 歴代社会教育主事名簿　……　61

◇ まとめと課題　……　69

◇ おわりに　……　70

はじめに

社会教育法が昭和２４年に施行されてから早くも６０年以上の月日が経過し，この大河原地区社会教育主事研究協議会の研修報告書も今年で第３８号を数えることとなりました。過去の管内社会教育主事の諸先輩方も，１０年ごとの節目の年にその変遷をまとめ発行してきたことにならい，今年度の大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会は，「大河原教育事務所管内社会教育６０年のあゆみ～変わり続ける時代を生きる～」というテーマを掲げ，およそ月１回のペースで研修に取り組んできました。

ここ１０年間の社会教育に関する法規や制度の主な変化としては，平成１３年１月に中央省庁の再編に伴い，文部省と科学技術省が統合して文部科学省が発足。また同年７月には社会教育法が改正され，家庭教育に関する講座の実施や青少年に対する社会奉仕体験活動，自然体験活動の実施が教育委員会の事務として規定されました。また，平成１４年度からは，子どもたちに様々な体験活動を経験させ，自ら学び考える力や豊かな人間性などの「生きる力」を育成することなどを目的に，完全学校週５日制が実施。さらに，平成１８年に「生涯学習の理念」や「学校，家庭及び地域住民等の相互の連携協力」が新たに盛り込まれた改正教育基本法の成立，それを受けて平成２０年，再び改正された社会教育法等々・・・。振り返ってみると，これらの動きは，いかに現在の世の中がすさまじいスピードで変化しているかを物語っています。

また，昨年３月に起きた未曾有の東日本大震災では，当大河原教育事務所管内は直接的な津波の被害こそなかったものの，社会教育施設等は建物や設備が被災したことに加え，福島原子力発電所の放射能の影響等もあり，通常の社会教育事業の実施に大きな支障をきたしました。

このような状況の中，あらためて地域コミュニティや人と人との絆の重要性が叫ばれている昨今，「学校，家庭，地域による協働教育」の展開は，今の社会が抱えている課題を解決する施策の一つになるのではと考えます。

これらのことを踏まえ，本報告書は，「管内各市町等の１０年間の社会教育事業・予算・施設等の変遷」，「協働教育をテーマにした研修視察の報告」，そして，「震災によって見えた協働教育の重要性をテーマとした座談会の報告」の３部構成でまとめました。

最後になりますが，この「社会教育６０年のあゆみ」が，生涯学習の推進に携わる多くの方々の目に触れ，少しでもご活用いただけることを願いはじめの言葉とさせていただきます。それでは我々の一年間の研修の成果をご覧ください。

平成２４年３月

大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会
研修副委員長　　柴田町派遣社会教育主事　後藤　忠宏

研修テーマと経過について

1　研修テーマ

大河原教育事務所管内社会教育６０年のあゆみ

～変わり続ける時代を生きる～

2　研修テーマ設定の理由

（１）研修の目的

①研修報告書第２７号（平成１３年３月発行）で取りまとめた「５０年のあゆみ」以降，管内の社会教育行政が，市町等において，どのように移り変わってきたのかを調査し，その結果から読み取れる変化の要因や対処方法を考察することで，今後の社会教育事業展開の指針とする。

②現在全国的に展開されている協働教育について情報収集等を行い，管内において当事業を推進する上での参考とする。

（２）研修テーマ設定の理由

大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会では，例年，年度毎に管内において推進すべき事業や，調査を要すると判断した内容を研修テーマとし，時には年度をまたいで研修を行っているが，昭和５３年度～５４年度に「大河原教育事務所管内社会教育３０年のあゆみ」を研修テーマにして以降，１０年区切りで管内の社会教育行政の変遷について研修報告書をまとめてきていた。

区切りとしては，平成２２年度が「６０年のあゆみ」をテーマとする該当年度であったが，平成２１年度のテーマ「生涯スポーツの振興をめざして」を継続する必要があり，当テーマは見送られる結果となった。

しかし，これまでの経緯からも一定期間毎に管内各市町等の社会教育行政の変遷を調査・研究することは，そこに学ぶべき事例等を見出すことのほかに，後世にその軌跡を残す意味からも重要であると考え，１年遅れることにはなるが，平成１２年度から平成２２年度の実質１１年間の大河原教育事務所管内における社会教育の変遷について取りまとめることを，今年度の研修テーマとして設定した。

ただし，当テーマのメインとなるのは各市町等単位の調査であり，研修委員が参集し共に学習する機会が少なくなるため，現在管内でも推進が図られている「協働教育」について情報収集等を並行して行い，より充実した研修とすることと共に，昨年３月１１日に発生した東日本大震災を悲劇として終わらせないためにも，避難や復旧を通して生まれた「絆」や「支え合い」に協働教育を推進する上でのヒントを見出すべく，被害の大きかった沿岸部の状況を把握することも含んだ研修とすることとした。

副題を「変わり続ける時代を生きる」とした理由は，過去１０年間，激しく変化し続けた社会に対し，その都度迅速に対応してきた当時の社会教育関係職員に対する敬意の表れであり，また，今我々が試行錯誤を繰り返しながらも社会教育の推進に臨んでいる姿を，「研修報告書」の中で表現することを目標としたことによるものである。

（３）研修日程と経過

月　日 （曜日）	会　議　名	会　場	内　　容
４月２２日 （金）	第１回主管課長･社会教育主事合同会議 社会教育主事研究協議会総会	合同庁舎	平成２２年度事業，会計決算報告， 平成２３年度事業，予算・役員改選等
５月１１日 （水）	第１回研修委員会 第１回社会教育主事研究協議会	蔵王町	研修委員会役員の選出，研修内容の検討， 年間の研修計画（合同研修を含め）等 話題提供（柴田町）
６月　３日 （金）	第２回研修委員会 第１回社会教育主事会議	合同庁舎	研修テーマ，基本構想や方向性， 先進地視察について，座談会について 社会協会大河原支部総会
７月１５日 （金）	第３回研修委員会 第２回社会教育主事研究協議会	白石市	テーマ，内容，方法等の決定 研修視察地の選定（依頼），座談会について，話題提供（蔵王町）
９月　７日 （水）	第４回研修委員会 第１回社会教育主事等研修会	合同庁舎	資料の収集，研究内容の検討，研修視察について，座談会について
１０月　７日 （金）	第５回研修委員会 第３回社会教育主事研究協議会	村田町	研修視察の反省，研究の推進，座談会について，話題提供（白石市）
１０月１２日 （水）	社会教育主事研究協議会 先進地研修視察	富谷町	先進地視察 富谷町生涯学習課，成田公民館
１１月１６日 （水）	第６回研修委員会 社会教育主事研究協議会座談会	合同庁舎	研究の推進，「座談会」テーマ：「震災から見えた協働教育に重要性」
１１月２５日 （金）	第２回主管課長･社会教育主事合同会議	合同庁舎	平成２２・２３年度事業等について
１２月　７日 （水）	第７回研修委員会 第２回社会教育主事等研修会 （協働教育実践事例研修会）	合同庁舎	研究課題の追求，研究紀要の検討
１月２７日 （金）	第８回研修委員会 第４回社会教育主事研究協議会	丸森町	研究課題の追求，研究紀要の検討 話題提供（村田町）
２月１０日 （金）	第９回研修委員会	合同庁舎	研究課題の追求，研究紀要の検討
３月　２日 （金）	第１０回研修委員会 第５回社会教育主事研究協議会	川崎町	研究のまとめと研究紀要の原稿作成 研修のまとめと反省 話題提供（丸森町）

白石市

◆社会教育事業の変遷

分類	特徴的なことがら	事業名	事業実施年度
少年教育	野外活動，集団活動等体験学習と通じて協調性と創造性を養い，仲間づくりやジュニア・リーダーとしての基礎的知識と技術を身につけ，「生きる力」を高めている。	わんぱく教室 ジュニア・リーダーキャロル	S57～継続中 継続中
青年教育	平成20年度まで勤労青少年ホーム「アルタ」で青年活動を細々と展開していたが廃止となり，その後活動は途絶えている。青年たちの意識の変化や趣味の多様化などにより，事業は困難となっている。実行委員会により成人式のみ実施している。	勤労青少年ホーム「アルタ」 成人式	～H20 継続中
家庭教育	子育てを支援する学習会を開設し，市民の家庭教育に関する情報交換，仲間づくりを推進し，学習の場を提供していたが，平成21年度より子ども家庭課に事業が移管となった。	ほっぷんちょ ミニほっぷひろば	～H21 ～H21
高齢者教育	高齢期における学習課題を継続的系統的に展開し，自己開発の促進及び生きがいある暮らしのため高齢者大学，大学院，研究室と開催してきたが，平成18年度より市民大学と名称を変更し開催している。	高齢者大学・大学院・研究室 市民大学	～H17 H18～継続中
成人教育	情操や教養を高め，創造的な自己開発を図るため，スポーツと趣味の分野に分け，学習機会を提供し市民のニーズに合う，講座・教室を開催してきた。	健康いきいきＥｎｊｏｙ教室 英会話教室	継続中 継続中
女性教育	婦人の特性と能力を活かし，自己を高めるため，趣味・教養について，婦人が自由に参加できる学習の場を提供するとともに，楽しい仲間づくり・地域づくりを図る。	童謡講座 フランス家庭料理講座	継続中 継続中
協働教育	放課後等に，安全・安心な子どもの活動拠点（居場所）を設け，地域の方々たの参画を得て，子供たちと共に遊びや・文化活動・地域住民との交流活動等の取り組みを市成信する。	放課後子ども教室	H19～継続中
社会体育	ニュースポーツ移動教室等開催しながらニュースポーツの振興に力を入れてきた。みやぎ蔵王高原マラソンについては，25回をむかえ名称をしろいし蔵王高原マラソンと改めた。	ニュースポーツ移動教室 しろいし蔵王高原マラソン	継続中 S62～継続中
視聴覚教育	長年16ミリ映写機操作技術講習会を実施し普及・活用に努めてきたが，受講者及び利用者が減少したことから，平成20年度より休止した。	16ミリ映写機操作技術講習会	～H20
文化振興	広く市民に芸術文化活動への参加を奨励し，教養と文化の向上を図っている。文化祭も40回を重ね益々盛んになっている。古典芸能伝承の館において，能公演等古典芸能の振興も図っている。	市民文化祭 能公演	継続中 継続中
文化財保護	地域の指定文化財を活用するとともに，市民に文化財保護思想の啓蒙を図るために各種事業を展開している。事業を通じ市民の文化財愛護思想が向上している。	武家屋敷催事 文化財めぐり	H5～継続中 S53～継続中
情報化・国際化	情報センター（アテネ）が平成21年度から社会教育施設として移管したことから公共施設ネットワークの構築，情報教育の推進を図る。豪州ハーストビル市と姉妹都市を結び，スポーツ・文化等を通じ交流の輪を広げている。	アテネパソコン教室 姉妹都市国際親善水泳大会	H10～継続中 H6～継続中
生涯学習振興	平成21年度に市長部局生涯学習課と教育委員会社会教育課・中央公民館を統合し，教育委員会生涯学習課とした。さらに，情報センター及び古典芸能伝承の館を社会教育施設として移管し，事業についても移管した。	生涯学習フェスティバル	H5～継続中

◆社会教育年表

年　月　日	事　項
平成 13年	
4月 12日	小原の百矢納めが市指定文化財（民俗文化財）となる
6月 3日	第10回白石市民グラウンド・ゴルフ大会
10月 8日	第73回白石市民体育大会・国体炬火リレー式典
平成 14年	
1月 20日	第40回新春囲碁将棋大会
3月 29日	栃原の一本杉・傑山寺の一本杉・湯口寺のイチョウ・堂形のケヤキ・鎌先のトチノキが市指定文化財（天然記念物）となる
8月 3日	遊びの達人養成講座
9月 29日	国際交流のつどい
11月 1日	第45回東日本縦断駅伝競走大会
平成 15年	
2月 2日	国際交流パーティー
平成 16年	
4月 1日	スポーツセンターが社会教育施設に所管変えとなる
3月 10日	文化財調査報告書第28集「渡辺家文書調査報告書　仲間義定録」刊行
3月 30日	旧上戸沢検断屋敷木村家住宅が県指定文化財（建造物）となる
3月 30日	日本刀鍛錬技術の宮城昭守氏が県指定文化財（工芸技術）となる
10月 2日	東北ブロック・ユネスコ活動研究会
平成 17年	
3月 30日	文化財調査報告書第29集「市内遺跡発掘調査報告書Ⅰ」刊行
4月 1日	青少年の家が廃止となる
4月 1日	地区公民館指定管理者制度導入
5月 1日	地域子ども教室推進事業
5月 10日	嘉右衛門山の逆さケヤキが県指定文化財（天然記念物）となる
平成 18年	
5月 11日	榊流大町神楽が市指定文化財（民俗文化財）となる
5月 14日	第30回こどもまつり
9月 17日	第20回みやぎ蔵王高原マラソン大会
平成 19年	
4月 1日	スポーツセンター指定管理者制度導入
5月 1日	放課後子ども教室推進事業
11月 18日	第10回館長杯家庭バレーボール大会
平成 20年	
3月 31日	文化財調査報告書第32集「赤井畑家の古文書」刊行
7月 7日	旧刈田病院本館が市指定文化財（建造物）となる
7月 7日	常林寺のエドヒガンが市指定文化財（天然記念物）となる
7月 27日	第40回白石市ふるさとスポーツ祭
10月 12日	第80回白石市民体育大会
11月 9日	第30回白石市農業祭・球技大会
平成 21年	
4月 1日	古典芸能伝承の館・情報センターが社会教育施設に所管変えとなる
4月 1日	勤労青少年ホーム「アルタしろいし」が廃止となる
4月 1日	市生涯学習課と教委社会教育課を統合し教委生涯学習課となる
7月 4日	白石市「家庭の日」制定記念講演会
8月 20日	文化財調査報告書第34集「八幡坂遺跡ほか発掘調査報告書」刊行
10月 17日	第40回白石市民文化祭
11月 14日	わが家の「家庭の日」実践発表会
12月 22日	文化財調査報告書第37集「和尚堂遺跡ほか発掘調査報告書」刊行
平成 22年	
4月 29日	軽音楽ミニコンサート
12月 5日	子育てふれあいコンサート
平成 23年	
2月 6日	第20回白石市民綱引き大会
3月 4日	第30回公民館まつり

◆公民館施設に関する一覧表

公民館名	独立併置別	敷地面積（㎡）	建物			対象地区	
			構造別	延面積（㎡）	建築年月日	人口（人）	面積（k㎡）
中央公民館	独立	8461.56	鉄筋	3027.57	S56.12. 1	18,541	12.09
越河公民館	独立	1705.16	鉄筋	460.20	S53.12.20	1,784	14.39
斎川公民館	独立	2004.63	鉄筋	375.97	S50. 3.20	1,241	14.22
大平公民館	独立	2109.66	鉄筋	362.88	S49. 3.20	2,836	8.83
大鷹沢公民館	独立	2314.55	鉄筋	432.00	S48. 3.25	2,467	24.96
白川公民館	独立	1876.28	鉄筋	432.00	S50.11. 4	1,858	20.38
福岡公民館	独立	2794.98	鉄筋	673.28	S51.11.30	8,178	111.29
深谷公民館	独立	2461.00	鉄筋	457.42	S54.12.20		
小原公民館	独立	2311.33	鉄筋	430.06	S52.12 .7	1,071	80.31

※中央公民館以外は，平成17年4月1日より指定管理者制度を導入した。

◆社会教育関係施設一覧表

施設名	施設名	施設名
益岡公園野球場・庭球場	緑が丘テニスコート	白石市温麺の館
白石川緑地野球場	城北コミュニティセンター	白石市図書館
白石川緑地ソフトボール場	城東コミュニティセンター	片倉家中武家屋敷旧小関家
白石川緑地ゲートボール場	鷹巣コミュニティセンター	みやぎ蔵王白石スキー場
白石川緑地陸上競技場	白石市文化体育活動センター	仙台グリーンゴルフクラブ
岩崎公園庭球場	白石市南蔵王休憩所	白石ゴルフガーデン
スパッシュランド白石	白石市弥冶郎こけし村	スポーツメイトＺＡＯ
沖縄剛柔流空手無心館	白石歴史探訪ミュージアム	三省塾道場

施設名	備考
旧上戸沢検断屋敷木村家住宅	H16.3.30に県指定となる。
白石市スポーツセンター	H16.4.1社会教育施設に変更となる。
白石川サッカー公園	H17.1.1に設置する。
白石市青少年の家	H17.4.1に廃止する。
白石市情報センター	H21.4.1社会教育施設に変更となる。
白石市古典芸能伝承の館	H21.4.1社会教育施設に変更となる。

◆予算の変遷

市総額（単位：千円）

年度	予算総額	教育費	社会教育費	内訳						保健体育費	人口（人）
				総務費	公民館費	図書館費	文化財保護費	地域支援費	その他		
H12	9,785,662	1,352,647	186,255	8,742	123,823	47,087	2,955	—	3,648	370,878	41,256
H13	11,796,708	1,375,046	190,049	10,159	124,705	48,837	2,649	—	3,699	359,318	41,052
H14	14,167,023	1,330,665	189,589	6,532	125,744	49,147	4,619	—	3,547	359,082	40,913
H15	14,148,496	1,276,013	191,792	5,736	128,444	48,089	5,967	—	3,556	357,528	40,551
H16	14,988,246	1,258,860	192,732	3,670	128,833	50,678	6,086	—	3,465	342,325	40,287
H17	13,883,628	1,244,230	210,208	3,802	146,573	49,214	5,188	2,000	3,431	346,911	40,041
H18	13,817,787	1,340,411	141,697	4,600	37,028	48,105	7,058	41,484	3,422	374,298	39,640
H19	13,821,692	1,356,970	148,014	3,998	39,486	47,425	14,173	39,380	3,552	308,166	39,200
H20	13,579,093	1,483,912	136,192	5,200	37,240	46,909	5,135	38,318	3,390	289,365	38,772
H21	12,958,843	1,145,730	174,966	4,931	37,834	49,325	4,580	37,590	40,706	314,918	38,421
H22	12,654,197	1,117,758	166,931	5,678	25,409	54,005	6,419	37,780	37,640	308,766	37,976

※平成22年度の人口一人あたりの社会教育費は4,396円です。

※社会教育費内訳の「その他」の内容
平成12～22年度　青少年相談センター費含む
平成21～22年度　古典芸能伝承の館・情報センター費含む
※保健体育費には，学校給食センター費含む

［考察］

ここ10年の社会教育費の歳出では，H17年度をピークに，次年度以降激減している。H17年度には，社会教育課と中央公民館が合併され，地区公民館については，指定管理者制度より各地区のまちづくり推進協議会等に委託され公民館費が増加している。次年度以降は，公民館費の激減と地域支援費の増額となっているが，公民館費等の全体経費では46％の経費削減となっている。H19年度の文化財保護費の増加は，和尚堂遺跡発掘調査の委託費によるもの。H21年度に，市長部局の生涯学習課と教育委員会社会教育課が統合し教育委員会生涯学習課となった。それにともない，社会教育費がわずかながら増加し，古典芸能伝承の館・情報センターが教育委員会所管となりその他の経費が増加するかたちとなった。昨今の地方自治体をとりまく情勢は，行財政改革や集中改革プランなどにより，人員の削減を中心に経費の削減政策や指定管理者制度等アウトソーシングによる経営の合理化などにより，社会教育をとりまく環境もここ10年で大きく様変わりしている。

角田市

◆社会教育事業の変遷

分類	特徴的なことがら	事業名	事業実施年度
少年教育	子ども会育成会等各種団体とともに，子どもたちが様々な体験をすることができる機会を増やしてきた。但し，ジュニアリーダーはここ数年減少傾向にあり，平成21年度からは中学生を加えての活動とした。	子ども体験まつり インリーダー研修会（各地区） 角田市子どもフェスティバル	H21 ～ 継続中 ～ 継続中 ～ 継続中
青年教育	青年層の社会参加が衰退し，平成16年度には農村青少年クラブ連絡協議会が，平成21年度には青年団体連絡協議会が休会した。現在は商工会青年部と農協青年部の協力で青年交流事業を実施している。青年講座にもいえることだが，体育系の事業への参加は多いが，それ以外の内容では参加者が少ない傾向がある。	青年講座 青年交流事業	～ 継続中 ～ 継続中
家庭教育	従前より行っていた家庭教育相談事業等を更に充実させるため，関係機関との連携により発足した家庭教育支援チームにより，様々な場面で家庭教育の支援を行っている。	家庭教育支援基盤形成事業 家庭教育学級	H19 ～ H22 ～ 継続中
高齢者教育	中央公民館があった平成18年度までは，全地区を対象とした指導者育成や仲間・生きがいづくりを目的とした事業を行っていたが，平成19年度以降は各地区自治センター単位で事業を実施している。	角田寿大学 シニアセミナー 各地区「長生大学」等	～H18で廃止 ～H18で廃止 ～ 継続中
成人教育	高齢者教育同様平成19年度以降は各地区自治センター単位での事業のみとなり，唯一全地区対象の事業は市Ｐ連との共催事業のみとなった。	各地区「成人講座」等	～ 継続中
婦人教育	各婦人団体育成のため，研修会の実施や各活動のサポートを行っている。また，各自治センターにおいて趣味や教養等多岐にわたる内容のセミナーを実施している。	各地区「レディースセミナー」等	～ 継続中
協働教育	学校などを活用して，地域の大人の教育力を結集して，放課後や週末におけるスポーツや文化活動及び地域住民との交流活動等を支援している。	子どもの居場所づくり推進事業	H19 ～ 継続中
社会体育	昭和63年度から毎年開催しているリバーサイドマラソン大会は，年々参加者が増加しており，市を代表する事業となっている。 平成20年に総合型地域スポーツクラブ「スポーツコミュニケーションかくだ」が発足し，小中学生が様々なスポーツを気軽に取り組める環境ができた。	阿武隈リバーサイドマラソン大会 スポーツ・レクリエーション祭	S63 ～ 継続中 H 3 ～ 継続中
視聴覚教育	プロジェクター等新たなＡＶ機器の普及により，16ミリ映写機の使用が減少したため，16ミリ映写機操作技術講習会を廃止したが，それに代わる視聴覚教育事業は機器の保有が困難なことから実施できず，視聴覚教材センターの講座に依存している。	16ミリ映写機操作技術講習会	～H18で廃止
文化振興	音楽関係の発表会をジャンル別に実施しているほか，各地区自治センターにおいては各種芸術文化活動の発表の場となる「ふるさとまつり」等を行っている。 市民文化祭は文化協会が企画から運営全てを担っている。	角田コーラスフェスティバル ライブ・イン・カクダ	～ 継続中 H13 ～ 継続中
文化財保護	文化財の管理運営，埋蔵文化財の発掘調査のほか，無形文化財保存のため活動している団体のサポートを行っている。また，少年教育事業へ縄文土器づくり指導等で携わっている。	埋蔵文化財発掘調査事業 角田祭ばやし講習会	～ 継続中 ～ 継続中
情報化・国際化	平成11年度から行ってきたパソコン講座は機器の更新等の問題から廃止し，視聴覚教材センターが実施する講座に依存している状況にある。 国際化については，ＡＬＴの協力による親子を対象としたイベントを実施するほか，平成22年度青年講座には韓国語講座を組み込んだ。	パソコン教室等 かくだ英語村	～H18で廃止 H21 ～ 継続中
生涯学習振興	生涯学習に関する多様な情報や素材を，多彩なイベントの形で提供するべく，「生涯学習フェスティバル」を実行委員会を組織して実施しているが，各自治センターが開催する講座等と直接的な繋がりを検討していく必要がある。	生涯学習フェスティバル	H 6 ～ 継続中

※角田市では，平成19年度から中央公民館を廃止したと同時に，地区公民館を自治センターと改めた（併せて角田地区に自治センターを新設）。その際，中央公民館で実施していた事業の多くは生涯学習課に引き継がれたが，上の表に記したとおり，高齢者教育や成人教育及び婦人教育の一部は市内全地区対象の事業が無くなったが，各自治センターにおいて実施している同様の事業でそれをまかなっている。

◈社会教育年表

年　月　日	事　項
平成 12年	
7月　9日	第10回スポーツレクレーション祭開催
11月 18日	青年４団体によるトワイライトパーティー開催
平成 13年	
2月 28日	民俗文化財調査報告書第４集「角田の民話」発行
10月 14日	新世紀・みやぎ国体剣道競技（少年男子・少年女子）開催（～15日）
10月 31日	図書館ホームページ開設
12月　2日	第10回ベートーヴェン第九「喜びのうた」を歌おう会開催
12月　9日	第１回ライブ・イン・カクダ開催
平成 14年	
4月　1日	総合保健福祉センター（ウェルパークかくだ）オープン
10月 26日	第１回あぶくま川短歌大会開催
10月 27日	第30回角田コーラスフェスティバル開催
平成 15年	
4月　1日	教育委員会スポーツ振興課の廃止（生涯学習課へ統合）
7月 15日	緑化推進運動功労者表彰地方公共団体の部で西根４区行政区が内閣総理大臣賞を受賞
11月 14日	家庭教育豊楽夢（フォーラム）～ふれあいトークｉｎかくだ～開催
平成 16年	
2月　7日	生涯学習フェスティバル≪冒険あそび場ｉｎかくだ≫開催
2月 21日	かくだスローライフフェスティバル・子どもフェスティバルを同時開催
3月 24日	小学校英語教育推進特区認定
7月 15日	漢字文化講演会「日本人の漢詩」開催
平成 17年	
2月 10日	平成16年度文化財保護功労団体として角田祭ばやし保存会が㈳宮城県文化財保護協会から表彰
2月 26日	「ハッスル！ハッスル！おやじの出番!!」～谷さんのおやじ塾～開催（２を3月13日）
3月 29日	角田市の自然＜昆虫編＞発行
4月　1日	角田高等学校と角田女子高等学校が統合
5月 10日	高倉・高蔵寺の大杉及びカヤの群生林が県指定天然記念物に指定
平成 18年	
2月 25日	絵本ワールドｉｎみやぎ〔角田会場〕開催
9月 10日	生涯学習フェスティバル≪ミュージカルがやってくる≫開催
平成 19年	
3月　4日	仙南青年文化祭ｉｎ角田開催
4月　1日	市内全地区公民館が自治センターに名称を変更　及び　中央公民館の廃止
11月　4日	第20回阿武隈リバーサイドマラソン大会開催
平成 20年	
3月 28日	総合型地域スポーツクラブ「スポーツコミュニケーション・かくだ」設立
5月 11日	市制施行50周年記念　特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会
8月　2日	第30回姉妹都市「子ども交歓の集い」開催（～4日）
平成 21年	
4月　1日	放送大学角田視聴学習室オープン
4月　1日	西根中学校が北角田中学校へ統合
8月 20日	英語でパーティー～親子夏休み英語教室～開催
10月　3日	生涯学習フェスティバルｗｉｔｈ図書館まつり開催
平成 22年	
6月 27日	みやぎミュージックフェスタ2010ｉｎかくだ開催
9月 11日	生涯学習フェスティバル≪子ども体験まつり≫開催
9月 25日	一般県道角田山下線角田山元トンネル開通

◈公民館施設に関する一覧表

公民館名	独立併置別	敷地面積（㎡）	建物 構造別	建物 延面積（㎡）	建物 建築年月日	対象地区 人口（人）	対象地区 面積（k㎡）	備考
角田自治センター	独立	1038.85	鉄筋	825.69	S49. 3.25	10,974	10.38	H19年度新設
横倉自治センター	独立	2937.64	鉄筋	400.62	S51. 2.29	3,441	4.96	H18年度まで公民館
小田自治センター	独立	2402.00	鉄筋	353.70	S52. 2.23	811	13.06	H18年度まで公民館
枝野自治センター	独立	3130.98	鉄筋	404.15	S49. 3.26	1,959	17.35	H18年度まで公民館
藤尾自治センター	独立	3495.56	鉄筋	400.62	S50. 3.27	2,862	20.95	H18年度まで公民館
東根自治センター	独立	2045.00	鉄筋	499.00	S57. 3.20	1,454	17.68	H18年度まで公民館
桜自治センター	独立	2867.50	鉄筋	332.70	S47. 3.19	3,626	9.35	H18年度まで公民館
北郷自治センター	独立	2972.20	鉄筋	404.90	S47. 4.21	3,885	20.30	H18年度まで公民館
西根自治センター	独立	3020.00	鉄筋	404.90	S48. 4.13	2,678	33.61	H18年度まで公民館

◈社会教育関係施設一覧表

種類	施設名	種類	施設名
文化施設	市民センター	運動場	台山公園（ｸﾞﾗﾝﾄﾞ・ﾃﾆｽ・ｹﾞｰﾄ）
図書館	図書館	市（町）プール	屋内温水プール
体育館	総合体育館	ハイキングコース	斗蔵山ハイキングコース
体育館	屋内運動場	サイクリングコース	交通公園
運動場	陸上競技場	民俗資料家屋	旧佐藤家住宅
運動場	野球場	郷土資料館	郷土資料館
運動場	中央公園（ﾃﾆｽ・ｹﾞｰﾄﾎﾞｰﾙ）	その他	農村環境改善センター
運動場	多目的運動場・多目的芝生広場	その他	婦人研修センター
運動場	市民ゴルフ場	その他	コスモハウス
運動場	パークゴルフ場		

※勤労青少年ホームは平成19年3月31日廃止。建物は角田自治センターへ用途変更。

◈予算の変遷

市総額（単位：千円）

年度	予算総額	教育費	社会教育費	内訳 総務費	内訳 公民館費	内訳 図書館費	内訳 市民センター費	内訳 文化財保護費	内訳 郷土資料館費	内訳 その他	保健体育費	人口（人）
H12	12,185,000	1,436,303	419,172	154,837	125,006	50,290	42,551	25,384	19,676	1,428	533,176	34,667
H13	12,420,000	1,460,201	394,961	143,551	127,046	51,995	40,104	11,731	19,307	1,227	573,883	34,365
H14	10,840,000	1,378,540	423,298	135,230	116,087	54,791	75,810	14,237	26,290	853	451,391	34,210
H15	10,658,000	1,260,138	369,736	132,261	111,474	55,689	37,858	10,478	20,524	1,452	423,840	34,113
H16	11,948,000	1,183,234	317,357	78,753	113,047	55,669	35,751	13,301	19,416	1,420	397,687	33,804
H17	10,931,000	1,139,897	305,769	74,493	122,719	47,972	34,470	5,101	19,596	1,418	347,345	33,479
H18	10,810,000	1,110,315	298,337	76,744	106,832	58,299	35,595	8,484	10,965	1,418	330,200	33,062
H19	10,446,000	1,119,788	274,674	91,450	78,258	45,803	35,456	11,726	10,574	1,407	324,924	32,983
H20	11,205,000	1,944,525	256,576	80,587	73,594	50,669	35,371	5,568	10,787	—	320,169	32,627
H21	10,997,000	1,520,899	258,946	81,041	75,322	43,971	36,271	13,380	8,961	—	336,560	32,341
H22	11,057,000	1,153,086	330,687	83,426	81,150	53,181	32,045	7,445	12,077	61,363	318,619	32,062

※平成22年度の人口一人あたりの社会教育費は10,314円です。

※社会教育費「その他」の内訳は，平成12～19年度は「生涯学習推進費」，平成22年度は「子ども図書館整備事業費」

※平成13年度の保健体育費が突出している理由は，みやぎ国体の開催によるもの。

※平成16年度から総務費が大幅に削減となったのは，公共用地先行取得事業会計への繰出金がなくなったことによるもの。

※平成20～21年度の教育費が高額であるのは，中学校建設工事によるもの。

[考察]

市の予算総額は平成14年度以降大きな変化はないが，社会教育費に関しては平成14年度の市民センター費にエレベーター設置工事費用（34,451千円）が含まれていることを除くと，平成20年度までの減少は著しい。但し，平成21年度から若干の増加となっている。平成22年度大幅増の要因は子ども図書館整備事業費。

また，平成19年度の組織改編により中央公民館がなくなり，当該職員は生涯学習課へ異動したことで公民館費が減少し総務費が増加したが，合計額では減少した。

社会教育に関する予算は保健体育費を含め10年前に比べ３割程度減少しており，この10年間は社会教育行政の財政的なスリム化が図られたことがうかがえる。

蔵王町

◈社会教育事業の変遷

分類	特徴的なことがら	事業名	事業実施年度
少年教育	ジュニア・リーダー育成や子ども会事業など継続して実施。図書館開館に伴い，幼児・小学生を中心におはなし会等の読書推進活動にも力を入れている。	ジュニア・リーダー初級，総合研修会 蔵王町インリーダー合宿研修会 夏休みの子ども読書活動推進行事 （ブックトーク，ブックラリー，読書感想文コンクール） おはなし会	～ 継続中 H 6 ～ 継続中 H17 ～ 継続中 H16 ～ 継続中
青年教育	平成20年度から実行委員会による成人式が復活。スポーツや陶芸教室をとおして，青年会を中心とした若者が交流。平成22年度には蔵王町会場で仙南青年文化祭が開催された。	蔵王みらい塾 蔵王町成人式（実行委員会による） わげものあづまっぺ！ございんカフェ	H15 ～ H16 H20 ～ 継続中 H22
家庭教育	母親クラブ・ＰＴＡ・育成会等との共催で教育講演会を実施。母親を対象とした託児付きの講座のほか，男性の育児参加に対応できる講座も企画。	教育講演会 子育て勉強室　らいおんスクール ママのお楽しみ教室 イクメン(育児を楽しむ男性)になろう！	～ 継続中 H14 ～ H17 H18 ～ H19 H22
高齢者教育	各地区単位老人クラブの代表が年間行事を協議し，会員同士のネットワークを活かし実施。	老壮大学	S50 ～ H22
成人教育	豊かな自然と触れ合う講座から，新たな町の魅力を発見する講座など多種多様。洋ラン教室はサークル化し活動中。図書館の充実を図るためボランティアの育成に努めている。時間にゆとりのある世代の参加が期待される。	野山を楽しく歩こう会 図書館ボランティア養成講座 （読み聞かせ・音読） 洋ラン教室 ざおう不思議発見 庭木の剪定教室	H13 ～ H17 H16 ～ 継続中 H18 ～ H21 H19 ～ H20 H20 ～ 継続中
女性教育	婦人団体は，会員数が減少傾向にある。賢い主婦の衣服活用術や浴衣の着付け等，趣味として長く続けられる講座に需要がある。	女性のつどい リサイクル・リフォーム教室 女性のためのステップアップ講座	H14 ～ H22 H15 ～ H17 H22
協働教育	学校支援地域本部事業を平成20年度～平成22年度に国の委託事業として実施。学校・家庭・地域の連携を強化し，地域で子どもを育てる意識が高まっている。	起業教育普及推進事業(県補助事業) コラボスクール推進事業(県補助事業) 学校支援地域本部事業	H18 ～ H19 H19 ～ H21 H20 ～ 継続中
社会体育	町民大会(水泳・スポーツ交流)を開催し，住民の交流や健康維持に寄与している。子ども対象の水泳教室は職員が指導しており，毎年多数の参加がある。	Ｂ＆Ｇ会長杯蔵王町民水泳大会 Ｂ＆Ｇ会長杯蔵王町民スポーツ交流大会 Ｂ＆Ｇかなづちっ子水泳教室 Ｂ＆Ｇスポーツアドベンチャー教室	S63 ～ 継続中 S63 ～ 継続中 S63 ～ 継続中 H18 ～ 継続中
視聴覚教育	16ミリ講習会は教材センターとの共催事業として実施していたが，平成15年度に終了。	16ミリ映写機操作技術講習会 16ミリ映写機技術者派遣事業 視聴覚教材利用促進事業	～ H15 H15 ～ H19 ～ H19
文化振興	蔵王町文化協会を中心に行われる文化祭は，多岐にわたるジャンルにより開催。小中学校でのアウトリーチは豊かな心を育てるきっかけとなっている。	蔵王町文化祭 蔵王町文化講演会 音楽活性化支援事業 展示室利用促進事業	S52 ～ 継続中 H16 ～ 継続中 H17 ～ 継続中 H19 ～ 継続中
文化財保護	貴重な財産である文化財を保護するだけでなく，町民への啓発として講演会や講座，文化財展を実施。	町神楽大会 おおむかし探検隊 蔵王町文化財展 文化財講演会	～ H16 ～ H16 H 7 ～ 継続中 H 7 ～ 継続中
情報化・国際化	パソコンが身近になり，ネットやメールの使い方を中心に需要が高まっている。国際化に伴い外国の文化に触れる事業も展開。語学教室は蔵王町国際交流協会が開催。	インターネットやメールの使い方教室 世界のお料理教室 英会話・韓国語教室	H18 H18 ～ H19 H21 ～ 継続中
生涯学習振興	学校支援ボランティアの募集・紹介や生涯学習だよりの発行を継続で実施。出前講座は48の学習メニューがあり町職員が講師となり実施。地区での集会や会合等で需要がある。	学習活動の支援 広報・啓発活動 生涯学習推進町民大会 生涯学習出前講座	～ 継続中 ～ 継続中 ～ H16 H19 ～ 継続中

◈社会教育年表

年　月　日	事　項
平成13年	
3月 30日	『蔵王町の文化財　名木古木』を蔵王町教育委員会が発行
10月	「第56回国民体育大会（山岳競技）」が蔵王町を中心に開催される(13日～17日)
11月	「ざおう宿泊物語2011」を遠刈田地区公民館にて５泊６日で実施。※以降，平成17年度まで実施
平成14年	
3月 1日	「大庄屋の欅(ケヤキ)」他13件を蔵王町指定保存樹木とする
3月 29日	「白山神社の杉並木（スギ）」他１件を蔵王町指定保存樹木とする
4月 30日	「えぼしの千年杉（スギ）」を蔵王町指定保存樹木とする
9月 1日	『蔵王町立図書館基本計画』を策定し，図書館準備室を設置
10月	蔵王町総合運動公園内に「グラウンドゴルフ場兼ゲートボール場」完成
11月 3日	国重要文化財「我妻家住宅」ガイドボランティア(26名)の活動が始まる
平成15年	
3月 2日	「第４回仙南青年文化祭」が蔵王町公民館，地域福祉ｾﾝﾀｰを会場に開催される。約3,000名参加
4月	「仮称ふるさと公民館開設準備室」としてホール，公民館を含めて開設に向け準備を進める
平成16年	
7月 22日	多目的ホール，公民館，図書館の複合施設，蔵王町ふるさと文化会館(愛称・ございんホール)が開館。愛称入賞者の表彰式や，陸上自衛隊第６音楽隊による演奏会を実施
8月 1日	開館記念イベント第１弾として「みやぎミュージックフェスタ2004inざおう」を開催
8月	第21回東北総合体育大会ソフトボール競技が蔵王町を会場に開催される
10月 10日	第11回町民体育大会開催。町民体育大会はこの年を最後に幕を閉じた
平成17年	
7月	ございんホールと図書館のホームページを開設
8月 14日	町制施行50周年記念『夏期巡回ﾗｼﾞｵ体操「みんなの体操会」』を蔵王球場で開催。約1,600名参加
10月 8日	町制施行50周年記念「TEAM G-SPIRITキッズベースボールアカデミー」を蔵王球場で開催。町内の小中学生野球チームなど261名の子どもが参加
平成18年	
2月 11日	Ｂ＆Ｇ会長杯第18回町民スポーツ交流大会開催 これまでの綱引き大会から名称を変更し種目もドッジボールへ移行
4月 1日	教育委員会の組織を再編。管理課を教育総務課に名称変更。従来の社会教育課，公民館，文化会館，図書館を生涯学習課として統合。文化財保護係が教育総務課へ移行
4月 1日	公民館運営審議会，ふるさと文化会館運営委員会，図書館協議会の３組織を社会教育委員の担当事務に統合
8月 27日	第33回東北総合体育大会山岳縦走競技が蔵王町を会場に開催される
平成19年	
4月	従来の「生涯学習課人材バンク」と「学校支援ボランティア」が一本化される
5月 10日	遠刈田刈田嶺神社に奉納されている絵馬「敬明講図」が蔵王町指定文化財第20号に指定される
6月	図書館での貸出点数が初めて10万点を突破
11月 9日	『第44回宮城県芸術祭「工芸展蔵王展」』が開催される
平成20年	
5月 17日	2008イースタンリーグ公式戦(東北楽天ＶＳ東京ヤクルト)を初開催
9月 6日	ございんホール開館５周年記念事業第１弾として『ジャズ＆ポップスライブ2008』を開催
平成21年	
1月 29日	Ｂ＆Ｇ財団が主催する全国町村長会議において蔵王町Ｂ＆Ｇ海洋センターが「特Ａ評価」として表彰される
3月	『蔵王町子ども読書推進計画～より多くの本と出会える町を目指して～』を策定
4月 25日	「第１回蔵王町出土遺物検討会(円田盆地周辺遺跡)」を開催
6月 13日	「前戸内遺跡・西屋敷遺跡　発掘調査成果見学会」を開催
8月 20日	第28回東北学童相撲大会が宮小学校相撲場を会場に開催される
11月 7日	ふるさとの歴史講演会「仙台真田氏の誕生」（講師：仙台真田氏研究者　小西幸雄氏）開催
平成22年	
3月 1日	「高野家記録」「三尊堂舎」を蔵王町指定文化財とする
6月 27日	プールの改修を受け，リニューアルオープンイベントを開催。シドニーオリンピックメダリストの中村真衣氏による記念講演とセレモニー(泳ぎ初め・水泳教室)の２本立てで開催
9月 28日	利府町の津軽三味線奏者「柴田三兄弟」が円田中学校と町議会議場で音楽アウトリーチを実施
平成23年	
2月	「ざおうの伝承芸能まつり」を開催。仙南地方の民俗芸能16団体とゲストが参加(5日～6日)
3月	『蔵王町はじめての神楽入門』を蔵王町教育委員会が発行。町内小中学校、町内全戸に配付
3月 5日	蔵王町町制施行55周年記念『ＮＨＫラジオ公開収録「真打ち競演」』開催

◈公民館施設に関する一覧表

公民館名	独立併置別	敷地面積（㎡）	建物			対象地区	
			構造別	延面積（㎡）	建築年月日	人口（人）	面積（km²）
蔵王町公民館	独立	15,030.3	鉄筋	3,082.2	H16.4.25	13,166	152.85
宮地区公民館	独立	1,202.0	鉄筋	441.0	S44.3.20	3,753	20.56
平沢地区公民館	独立	1,840.0	鉄筋	466.0	S52.2.25	1,716	13.42
円田地区公民館	独立	1,176.0	鉄筋	498.1	S53.3.10	2,033	13.57
永野地区公民館	蔵王町公民館に併置		鉄筋			2,671	18.43
遠刈田地区公民館	独立	2,813.0	鉄筋	1,056.0	S58.3.10	2,988	40.68

◈社会教育関係施設一覧

施設名	備　考
蔵王町ふるさと文化会館	多目的ホール，公民館，図書館の複合施設
総合運動公園	蔵王球場，多目的グラウンド，テニスコート６，ゲートボールコート５，グラウンド・ゴルフ場
蔵王町Ｂ＆Ｇ海洋センター	体育館１，武道場１，研修室１，プール１
蔵王勤労者体育センター	体育館１，卓球場１，ゲートボールコート２
サン・スポーツランド蔵王	テニスコート４，多目的グラウンド１
北部地区コミュニティグラウンド	多目的グラウンド
白山グラウンド	野球場１
宮運動広場	野球場１，ゲートボールコート１
七日原グラウンド	野球場１
宮松川グラウンド	グラウンド・ゴルフ場

◈予算の変遷

町総額（単位：千円）

年度	予算総額	教育費	社会教育費	内訳								人口（人）
				社会教育総務費	公民館費	ふるさと文化会館	図書館費	文化財保護費	社会体育総務費	社会体育振興費	体育施設管理費	
H12	5,510,000	842,540	283,702	41,878	93,506	—	—	11,756	28,015	8,151	37,384	14,029
H13	5,550,000	893,596	353,095	42,570	73,918	—	—	11,828	27,238	7,436	39,275	13,918
H14	5,819,000	766,291	218,801	41,952	79,366	—	—	15,017	27,495	7,489	47,482	13,899
H15	6,300,000	764,401	273,078	39,957	70,909	53,945	—	34,736	28,388	7,480	37,663	13,849
H16	5,770,000	876,012	392,009	38,492	58,426	159,127	45,862	18,815	27,863	7,348	36,076	13,843
H17	5,100,000	806,435	329,901	35,098	53,977	55,434	50,167	70,107	28,065	4,263	32,790	13,614
H18	4,680,000	741,280	289,000	36,164	47,178	51,832	19,355	71,134	27,300	4,406	31,622	13,508
H19	4,600,000	704,148	276,247	34,266	46,248	44,986	17,692	69,839	25,900	3,528	33,788	13,424
H20	4,820,000	747,576	275,798	34,675	44,009	47,587	18,468	65,585	27,770	4,088	33,616	13,239
H21	4,910,000	806,344	318,641	34,625	46,402	43,008	22,098	69,149	30,761	5,003	67,594	13,161
H22	5,140,000	773,874	278,892	32,692	42,973	45,379	25,572	53,379	29,261	7,217	42,419	13,071

※平成22年度の人口一人あたりの社会教育費は21,270円です。

※人口は各年12月末現在
※平成12年度 コミュニティ施設建設事業費32,600／国体大会費30,412／体育施設管理費に勤労者体育施設管理費を含む
※平成13年度 コミュニティ施設建設事業費47,966／国体大会費103,041／体育施設管理費に勤労者体育施設管理費を含む
※平成14年度 体育施設管理費に勤労者体育施設管理費を含む
※平成15年度 ふるさと文化会館費にふるさと公民館開設準備費／体育施設管理費に勤労者体育施設管理費を含む
※平成16年度 体育施設管理費に勤労者体育施設管理費を含む

[考察]

予算総額に対する教育費の割合は10年をとおしてほぼ横ばいである。平成16年度に蔵王町ふるさと文化会館が開館したため，ふるさと文化会館費が大幅に増加しているが，平成17年度以降は公民館費とほぼ同額に配分されている。同じく図書館についても開館に伴う資料購入のため平成16～17年度で図書館費が増加している。文化財保護費が平成17年度以降に増加しているのは，ほ場整備に伴う発掘調査のためである。社会体育関係については，ほぼ横ばいで推移している。

事業の変遷において，協働教育は先の10年に実施された学社融合をとおして築かれた土台をもとに，さらなる学校・家庭・地域の連携を求め，平成20年度より町民の理解を得ながら推進してきた。この３つの連携により，地域で子どもを育てていくことへの町民の意識が高まっている。社会教育年表において，平成12年度に策定された『第３次長期総合計画』の施策にそって，生涯学習を推進していく上で拠点となるのが情報・文化の発信基地「蔵王町ふるさと文化会館」である。２年後には，従来の社会教育課，公民館，文化会館，図書館が生涯学習課として統合され，複雑・多様化する社会の課題を解決すべく，子どもからお年寄りまで多種多様な学習の機会を提供。また，充実した設備を活かした講演会やコンサート等，幅広い世代をターゲットとした文化振興を推進することが可能となった。今後は，地区公民館と連携を図りながら，国際的な視野をもち，住民の自主的な生涯学習活動を促す場としてさらなる発展が求められる。

七ヶ宿町

◆社会教育事業の変遷

分類	特徴的なことがら	事業名	事業実施年度
少年教育	異年齢集団の子どもたちが野外活動をとおして、集団の中で協調性・社会性・リーダーシップ・忍耐性・自主性や思いやりの心を養うとともに、親の存在や家庭の大切さを認識させ、自然の大切さと新しい発見を目指し、生きる力を育む。	はなまる学級 海の体験合宿 わんぱく探検スクール 青少年指導者研修会 七ヶ宿雪合戦	H12 ～ H14 H12 H14 ～ ～ 継続中 ～ 継続中
青年教育	学級や視察研修あるいは野外活動をとおして「仲間づくり」の輪を広げ、青年活動の活性化や自主性を高め、強いては地域の担い手としての自覚を高める。	青年学級・青年国内研修 七ヶ宿町成人式 ミーティングキャンプ inしちかしゅく	S62 ～ H15 ～ 継続中 H16 ～ H20
家庭教育	家庭教育のあり方を見直すため、乳幼児やこれから小学校へ入学する子どもを持つ親及び思春期の子を持つ親を対象にした、家庭教育に関する講座を行う。	家庭教育講演会 子育て支援講座	H12 ～ ～ 継続中
高齢者教育	高齢者間の親睦を図りながら高齢者が抱える課題解決学習をとおして、生がいづくりを行うとともに、社会参加意識の高揚を図る。	豊齢者大学	～ 継続中
成人教育	各地区の要望に応じた講座を開設し、地域における課題解決学習を推進するとともに、地域コミュニティーづくりを支援する。	地区ぐるみ講座 消費者大学	～ 継続中 ～ H13
女性教育	女性の社会参加を促し、一般教養及び様々な技術の習得を図り、女性指導者としての資質の向上と参加者相互の親睦を深める。	婦人一泊研修 婦人一日研修 女性講座	～ H21 H22 ～ H15 ～
協働教育	地域の文化や産業等の学習機会をとおし、郷土を愛する心を育てるとともに、地域の方々と交流を通じて「生きる力」を育てる。	こけしの絵付け事業 地域人材活用事業	H12 H14 ～
社会体育	スポーツ活動への参加意欲を喚起し、地域スポーツの振興を図るとともに、町民の健康の保持増進を目的とする。また、町民の交流と親睦を深める。	町民体育大会 ヘルシーふるさとスポーツ祭 町長杯グラウンド・ゴルフ大会	～ 継続中 ～ 継続中 H18 ～
視聴覚教育	学校・社会教育関係者を中心に16ミリ映写機操作技術講習会を開催し、普及と活用を図ってきたが、新しい教材機器の発達により平成16年度を最後に町内での講習会を終了した。	16ミリ映写機操作技術講習会	～ H16
文化振興	伝統芸能・創作芸能の発表活動の促進と伝承を目的として実施してきた「山中七ヶ宿芸能発表会」は、各団体の高齢化や会員の減少により開催を休止している。	山中七ヶ宿芸能発表会 七ヶ宿町学校音楽祭 人形劇を楽しむ会	～ H20 ～ 継続中 ～ 継続中
文化財保護	町の歴史民俗や文化財に関する資料を調査研究し、その成果を展示発表し町民の教育文化の向上に資する。また、町指定文化財の適切な保護保存を図り、町民に対する理解と認識を深め、文化財保護思想の普及に努める。	水と歴史の館企画展 大峰桜保護事業 親子松樹勢回復事業	～ 継続中 H16 ～ H17 ～ H22
情報化・国際化	国際結婚した方々の交流会・町の勉強会	国際交流事業	H12
生涯学習振興	家庭教育・学校教育・社会教育の連携・融合を図り青少年の健全な育成の推進と町民の生涯学習の推進を図るとともに、地域の教育力の向上を目指し、地域人材の有効な活用を推進する。	七ヶ宿町教育推進協議会 地域の教育力を考える 町民の集い	～ 継続中 H15 ～

◈社会教育年表

年　月　日	事　項
平成 12年	
6月 27日	はなまる学校開校（生活体験宿泊事業として小学３年～６年生対象）
10月 29日	第16回七ヶ宿町民まつり開催
11月 11日	青年国内研修開催
平成 13年	
6月 ～	消費者大学開設（横川地区５回開催）
10月	第56回国体宮城県大会山岳競技会開催（南蔵王青少年旅行村会場10/14～16）
11月 25日	家庭教育講演会
平成 14年	
4月 ～	地域人材活用事業開始（町内小中学校対象）
7月 1日	七ヶ宿町水と歴史の館会館10周年記念特別企画展「古山高麗雄ふるさと展」
10月 27日	グラウンド・ゴルフ地域交流会
11月 17日	わんぱく探検スクール事業「通学合宿」４泊５日
平成 15年	
2月 27日	「大峰桜」町天然記念物へ指定
8月 7日	自治宝くじ助成事業「炭焼き体験合宿」実施　愛知県設楽町
11月 24日	地域教育力講演会
平成 16年	
2月 1日	平成15年度大河原教育事務所管内ジュニアリーダー交流研修会（峠田遊林館）
2月 8日	第５回七ヶ宿町雪合戦大会
4月 25日	緑化推進助成事業「水源の森植樹祭」（自治宝くじ助成事業）
5月 15日	わんぱく探検ミステリースクール事業（５月～10月５回開催）
11月 ～	大峰桜環境整備事業（木道・木柵・説明板設置、樹木治療等）
平成 17年	
4月	本読み応援隊設立
6月 ～	みやぎらしい協働教育推進事業（県委託事業H17・18）
9月 23日	ミーティングキャンプinしちかしゅく
11月 21日	スクールコンサートin七ヶ宿（東北電力主催事業）
平成 18年	
2月 ～	町天然記念物「親子松樹勢回復事業」
5月 28日	宮城県グラウンド・ゴルフ大会（県グラウンド・ゴルフ協会主催：七ヶ宿ダム公園会場）
7月 ～	子育て支援講座（県から再委託事業「家庭教育支援総合推進事業」）
平成 19年	
5月 ～	わんぱく探検スクール（美里町交流事業として７回実施）
11月 18日	地域の教育力を考える町民の集い（地域に根ざした学校給食推進事業との共催実施）
平成 20年	
5月 24日	戊辰戦争140年ｉｎ七ヶ宿開催（フォーラム、交流会、歴史街道探訪会）
9月 ～	歴史の町・宿場街再現事業「文化財説明板設置」９基
11月 ～	七ヶ宿町歴史学講座（水と歴史の館、公民館共催事業６回実施）
平成 21年	
7月 ～	ホタルの里づくり事業実施（講演会、ホタル撮影）
9月 6日	宮城ヘルシーふるさとスポーツ祭第21回管内大会（七ヶ宿町会場）
平成 22年	
5月 22日	第６回羽州街道交流会七ヶ宿大会（シンポジウム、交流会、歴史街道探訪会）
8月 11日	町指定天然記念物「親子松」枯死により指定解除
11月 3日	平成22年度七ヶ宿ふるさと祭り
11月 14日	ふくし祭・地域の教育力を考える町民の集い（町社会福祉協議会共催事業）

◆公民館施設に関する一覧表

公民館名	独立併置別	敷地面積(㎡)	建物			対象地区	
			構造別	延面積(㎡)	建築年月日	人口(人)	面積(k㎡)
七ヶ宿町公民館	独立	9,027.75	鉄筋	1,171.00	S47.11.15	776	263
横川分館	独立	3,010.04	鉄筋	394.00	S59.12.24	170	
長老分館	独立	12,632.76	木造	199.00	H11. 4. 1	65	
矢立分館	独立	1,165.81	木造	69.00	H 9.12.22	71	
滑津分館	独立	4,891.84	木造・鉄骨	486.00	H 9.10. 3	205	
峠田分館	独立	4,960.42	木造・鉄骨	889.00	H 5. 3.25	174	
湯原分館	独立	1,362.00	木造・鉄骨	498.00	H 7. 3. 9	272	
干蒲分館	独立	1,878.22	木造	199.00	H12. 3.14	41	

※稲子分館は平成23年3月30日で廃止。

◆社会教育関係施設一覧表

施設名	備考
七ヶ宿町水と歴史の館	歴史民俗資料室，特別展示室，絵画ギャラリー，研修室，収蔵庫
七ヶ宿町活性化センター	研修室１，和室１，ホール１
七ヶ宿町民プール	25mプール，幼児用プール
七ヶ宿町民グランド	多目的グラウンド（野球１面，テニスコート２面等）
湯原コミュニティセンター田中分室	和室１，調理室１

◆予算の変遷

町総額（単位：千円）

年度	予算総額	教育費	社会教育費	内訳						保健体育費	人口(人)
				社会教育総務費	文化財保護費	公民館費	水と歴史の館運営費	活性化センター費	開発センター費		
H12	2,635,000	196,589	46,585	12,902	197	9,021	16,352	8,113	13,515	38,411	2,082
H13	2,490,000	246,033	47,687	12,724	111	10,424	15,888	6,884	1,687	84,728	2,082
H14	2,310,000	238,895	49,611	15,496	116	10,903	14,295	6,369	2,432	32,220	1,990
H15	2,320,000	204,050	50,834	19,059	313	9,480	14,221	6,301	1,460	31,182	1,991
H16	2,215,000	204,050	57,655	22,802	2,515	9,179	14,985	6,679	1,495	27,573	1,994
H17	2,331,000	420,630	45,220	16,726	218	7,446	12,916	6,625	1,289	29,261	1,916
H18	2,500,000	497,760	47,137	16,688	258	10,796	12,037	6,310	1,048	24,960	1,905
H19	2,028,000	202,920	42,162	15,024	138	7,414	12,132	6,410	1,044	24,960	1,890
H20	1,936,000	176,754	46,315	22,282	703	7,018	9,022	6,303	987	25,636	1,851
H21	2,000,000	165,019	50,610	23,709	77	8,885	10,630	6,282	1,027	26,109	1,807
H22	1,870,000	162,169	53,565	24,929	425	11,900	8,984	6,501	917	25,420	1,744

※平成22年度の人口一人あたりの社会教育費は30,714円です。

※平成13年度の保健体育費が突出している理由は，みやぎ国体山岳競技会の開催のため。

※平成16年度の文化財保護費が高額であるのは，平成15年に町の天然記念物となった大峰桜にかかる環境整備事業によるもの。

［考察］

人口の減少に比例して予算総額も減少している中，社会教育費は多少のばらつきはあるものの若干の増加傾向にある。

大河原町

◆社会教育事業の変遷

分類	特徴的なことがら	事業名	事業実施年度
少年教育	幼少期の体験が人生において重要な意味を持つという考えのもと，青少年対象の体験型の事業を実施している。特にインリーダー研修会では，子ども会活動のリーダーとなる５・６年生を対象に野外活動の知識と技術を習得することを目的に，また合宿通学では親元を離れて一定期間共同生活を送る中で，協力し合うことや自立した考えと行動を身につけることを目的に実施している。また，事業に参加した児童生徒の中から事業を支援するジュニア・リーダーが育つように人材の育成に努めている。	ジュニア・リーダー事業 昆虫教室 インリーダー研修会 合宿通学 ワンパク学園，チビッコ公民館 親と子の料理教室 手作り絵本教室 子ども夏まつり	～ 継続中 H 6 ～ 継続中 ～ 継続中 H13 ～ 継続中 ～ 継続中 ～ 継続中 ～ H18 S62 ～ 継続中
青年教育	平成20年度の仙南青年文化祭開催を契機に地域活動を行う青年会が結成され，その活動を中心とした青年教育事業が行われている。	青年文化祭 成人式	～ 継続中 ～ 継続中
家庭教育	県の家庭教育支援推進事業により新たな事業を実施することで，家庭教育支援体制の充実と，子育てサポーターの養成と活動する団体の育成・支援により，子育て支援体制の充実を図っている。	家庭教育学級 出前子育て講座 家庭教育ネットワーク事業 お母さん対象講座	H 2 ～ 継続中 H12 ～ 継続中 H12 ～ 継続中 H22 ～ 継続中
高齢者教育	ゆうゆう学園の名称で継続して実施しているが，午前を参加者全員で行う内容のもの，午後はそれぞれの嗜好に応じてメニューから選択して取り組む方法で実施している。成人教育事業に年齢制限を設けていないことから，高齢者の参加できる事業に幅ができている。	ゆうゆう学園 ゆうゆう学園課外講座 ゆうゆう学園楽しみ倶楽部 シニアクッキング教室	～ 継続中 H20 ～ H21 H22 ～ 継続中 H21 ～ H22
成人教育	主に公民館が企画実施しているが，生活をより豊かで快適にするため知識と知恵を提供する内容となっている。時代のトレンドを的確にとらえて，町民の期待と要望に応えられるように努めている。金ヶ瀬公民館が行っている「あの頃あの歌」は，年配の方を中心に人気の講座で，かつて慣れ親しんだ童謡や唱歌を参加者が声を合わせて歌うだけでなく，講師が，その歌が作られた背景を取材し，受講者に披露するというスタイルをとっていて，より深く理解して歌うことができる。	園芸教室、ファミリー菜園 暮らしの再発見 自然ふれあい学遊セミナー あの頃あの歌 星空探検講座 暮らしにエコ 絵手紙講座 ヘルシークッキング教室	～ 継続中 ～ 継続中 ～ 継続中 H16 ～ 継続中 ～ 継続中 H21 ～ 継続中 H22 ～ 継続中 H21 ～ 継続中
女性教育	多くの女性が加盟している地域婦人会の研修活動を支援することで，女性対象の教育事業を推進している部分と，公民館が女性対象として企画実施する事業がある。	婦人研修会 婦人団体指導者研修会 女性セミナー こっこクラブ	～ 継続中 ～ 継続中 H12 ～ 継続中
協働教育	学社連携，融合の中で培われてきた相互の理解・協力関係を，協働教育という考えのもとで，学校，家庭，地域，行政が連携してより良い教育環境を構築するしくみづくりを目的とした事業を実施している。全ては子どもたちの健やかなる成長のために，そして支援する側にとっても身につけた知識や技術を活かすことでの心の充実を得られるように，様々な事業と人々がつながる仕組みづくりを図っている。	学校支援地域本部事業 子育て理解講座 職場体験 放課後子ども教室 家庭教育支援総合推進事業 家庭教育支援基盤形成事業 託児ボランティア養成講座	H21 ～ 継続中 H19 ～ 継続中 H15 ～ 継続中 H17 ～ 継続中 H19 ～ 継続中 H20 ～ 継続中 H16 ～ 継続中
社会体育	平成６年度から総合体育館に体育振興課を置き様々な社会体育事業を実施してきたが，平成19年に生涯学習課に統合，20年度には指定管理者制度を導入し，社会体育推進の体制は大きく変化したが，実施事業は指定管理者との役割分担と適切な協力体制により，より充実した事業展開ができるようにしている。	各種スポーツ教室 歩こう会 幼児スポーツ教室 ノルディック・ウォーキング教室 夏休み少年少女スポーツ大会 クロスカントリー大会	～ 継続中 ～ 継続中 ～ 継続中 H19 ～ ～ 継続中 ～ 継続中
視聴覚教育	16ミリ映写機操作技術講習は教材センターの講習会に委ねることとした。ただし，16ミリ映画の活用のための映画会は定期的に開催している。	16ミリ映写機操作技術講習会 親と子の土曜映画劇場 楽しい映画会	～ 継続中 ～ 継続中 ～ 継続中
文化振興	中央公民館を拠点とする文化協会加盟団体による文化振興の活動が継続的に実施されている。	町民文化祭	～ 継続中 ～ 継続中
文化財保護	郷土に残る文化財の保護と活用につながるように，文化財友の会と共催で各種講演会や研修会を実施している。また，民俗資料収蔵室に収蔵している資料の公開展示を行い，特に児童生徒の生活様式の変遷を理解する教材として活用している。	文化財後援会 民俗資料収蔵室一般公開 民俗資料企画展 町民文化財めぐり 無形文化財団体の福祉施設訪問	～ 継続中 ～ 継続中 ～ 継続中 ～ 継続中 ～ 継続中
情報化・国際化	中央公民館のパソコン機材を活用し，初心者向けの教室と，子どもを対象としたカレンダー製作の教室を開催している。	パソコン教室	～ 継続中
生涯学習振興	「情報誌　キャンパス」を年２回発行し，町の生涯学習推進にかかる情報提供を行っている。	生涯学習情報誌「ｷｬﾝﾊﾟｽ」発行 生涯学習関係事業募集案内発行	～ 継続中 ～ 継続中

◈社会教育年表

年　月　日	事　項
平成 12年	
4月　1日	駅前図書館設置。業務開始
平成 13年	
3月	大河原町生涯学習基本構想策定
6月 24日	生活体験宿泊推進事業（合宿通学）第１回目開催。以後，現在まで継続中
10月 16日	第56回国民体育大会（みやぎ国体）空手道競技開催
平成 14年	
4月	大河原町学習支援施設マップ発行
平成 15年	
3月	大河原町学習支援施設マップ「学習活用ガイド」発行
9月	大河原中学校・金ヶ瀬中学校で職場体験学習始まる。以後，現在まで継続中
10月 10日	大河原町体育まつり開催（この年が最後としての体育まつり）
平成 16年	
1月	職場体験学習のススメ～大河原町立中学校職場体験学習資料集～発行
8月　1日	駅前図書館に“絵本のへや”がオープン
平成 17年	
3月 31日	大河原町史「通史続編」発行
5月	金ヶ瀬小学校放課後子ども教室開校（子どもの居場所づくり事業）
平成 18年	
4月　1日	教育委員会に生涯学習課を設置
5月	大河原南小学校放課後子ども教室開校（子どもの居場所づくり事業）
平成 19年	
5月	家庭教育支援総合推進事業実施
平成 20年	
1月	みやぎ県民大学「生涯学習活用出講座」５講座開催。
4月　1日	総合体育館が指定管理となる
平成 21年	
3月　1日	仙南青年文化祭in大河原開催『会場：えずこホール』
3月 31日	大河原のざっとむかし～大河原の民話と伝説～　増版（第２版）発行
5月	大河原小学校放課後子ども教室開校（子どもの居場所づくり事業）
5月	大河原青年会（Ｓｍｉｌｅ@逢河原）発足
9月 14日	学校支援地域本部事業開始
10月 22日	宮城県巡回絵画・書道展開催（10/22～25）
平成 22年	
6月	「職場体験学習のススメ」受入れ先再調査。電子データによる中学校への配信
平成 23年	
3月	大河原町経営計画（第５次長期総合計画）基本計画・実施計画編策定
3月 10日	東部屋内運動場・東部グラウンド竣工
3月 11日	東日本大震災により，民俗資料収蔵室及び収蔵品に甚大な被害を受ける。 大河原公園多目的広場のテニスコートに甚大な被害を受ける

◆公民館施設に関する一覧表

公民館名	独立併置別	敷地面積（㎡）	建物			対象地区	
			構造別	延面積（㎡）	建築年月日	人口（人）	面積（k㎡）
中央公民館	独立	1,873.00	鉄筋	2,194.00	S55. 9.26	20,140	15.68
金ヶ瀬公民館	独立	3,006.00	鉄筋	1,063.00	S61. 2.28	3,348	9.35

◆社会教育関係施設一覧表

施設名	備考
中央公民館	地上２階，地下１階。（大ホール，団第室，会議室２部屋，研修室２部屋，創作室，昆虫標本専用倉庫，調理実習室，視聴覚室）
金ヶ瀬公民館	地上２階建て。（大集会室，会議室２部屋，研修室，図書室，調理実習室）
駅前図書館	平成12年度設置（平成12年4月1日業務開始）＊絵本のへや 平成16年8月1日ｵｰﾌﾟﾝ
総合体育館	メインアリーナ，サブアリーナ，研修室，トレーニングルーム
大河原公園多目的広場	野球場，テニスコート４面
東部屋内運動場・東部グラウンド	平成22年度設置（H22.3.10竣工），施設利用は平成23年度から（グラウンド，体育館，研修室）
民俗資料収蔵室	４部屋の展示室，事務室

◆予算の変遷

町総額（単位：千円）

年度	予算総額	教育費	社会教育費	内訳					保健体育費	人口（人）
				社会教育総務費	中央公民館費	金ヶ瀬公民館費	図書館費	文化財保護費		
H12	6,681,870	937,013	313,569	184,866	49,371	27,725	47,752	3,855	99,093	22,707
H13	7,024,930	895,060	323,199	183,966	48,539	32,165	54,905	3,624	83,024	22,929
H14	6,859,650	875,324	287,603	150,123	49,543	27,090	57,348	3,499	80,668	23,099
H15	7,890,499	870,104	284,533	140,638	52,453	31,496	55,979	3,967	86,716	23,155
H16	7,500,868	955,911	324,962	146,047	55,543	36,141	83,645	3,586	84,483	23,256
H17	6,582,436	850,190	275,537	127,308	48,878	30,469	65,770	3,112	80,618	23,327
H18	6,384,586	816,249	252,693	121,731	44,004	20,485	63,890	2,583	64,052	23,351
H19	6,559,305	809,355	259,067	116,820	52,763	23,906	63,788	1,790	76,181	23,496
H20	6,523,386	801,711	270,690	132,012	47,463	29,635	59,328	2,252	47,350	23,633
H21	6,948,732	767,379	265,553	130,776	46,183	25,710	60,457	2,427	47,361	23,533
H22	6,982,330	942,428	265,912	129,647	48,268	25,871	60,401	1,725	230,733	23,488

※平成２２年度の人口一人あたりの社会教育費は11,340円です。

※平成22年度の保健体育費が増額となったのは，東部屋内運動場・東部グラウンド工事のため。

[考察]

この10年の社会教育費の推移については，図書館費を除いて，軒並み予算が減少している。このことについては，町全体の事務事業見直しにより，事業予算の精査が図られたものである。

事業の変遷について，青年教育では人材の発掘を推し進め，青年会の発足と育成を行ってきた。また，従前から取り組んできた各種事業をさらに発展させ，学校支援・家庭教育支援・地域活動支援を３つの柱として連携させる「協働教育プラットフォーム事業」に転換するに至った。協働教育については，今後さらに学校や地域と連携・調整を深めながら，地域全体で子どもたちを育てていく環境整備を行う必要がある。

村田町

◆社会教育事業の変遷

分類	特徴的なことがら	事業名	事業実施年度
少年教育	参加者同士の仲間づくりや郷土学習，生きる力を育むための自然体験学習に力を入れて事業展開を行っている。合宿通学については事業実施の負担が大きいことから実施を取りやめた。	生活体験宿泊推進事業（合宿通学） ふるさと学習会 むらたアドベンチャーサークル事業 野外活動体験事業 文化体験プログラム事業 サイエンスクラブ事業	H12 ～ H14 S53 ～ H15 H15 ～ H20 H20 ～ 継続中 H18 ～ 継続中 H15 ～ 継続中
青年教育	青年層の組織化支援や交流を深めることを目的としてヤングカレッジ事業を展開してきているが，参加者が少なく固定化するなど，課題が多い。組織支援として青年サークルの活動を支援している。	ヤングカレッジ 青年サークル「ソベック」支援 成人式	H11 ～ 継続中 H15 ～ 継続中 ～ 継続中
家庭教育	家庭教育の支援を国・県の補助事業等を活用しながら重視して進めている。首長部局に子育て支援課が新設されてからは，子育てサポーター養成など事業の一部を移管している。	子育て支援ネットワーク充実事業 家庭教育学級 家庭教育支援総合推進事業	H13 ～ H15 ～ 継続中 H20
高齢者教育	各地区老人クラブを対象とした学習事業「高齢者教室」を開催したが，社会福祉協議会で実施している事業と内容的に重複していたことから社会福祉協議会事業に統合に，あらたにボランティア養成等も目的とした講座を実施している。	高齢者教室 庭木剪定講習会	H17 ～ H19 H22 ～ 継続中
成人教育	成人層向け教養講座を開催しているが，40代～50代の層は仕事等で忙しくなかなか参加者が少ない現状である。定年退職直後のある程度時間に余裕のある層の参加が多く，その後のサークル活動化など活動の定着化が行われている。	パソコン講座 中高年の山歩き 成人教養講座 村田町在住外国人のための日本語講座 本の読み聞かせ講座	H12 ～ 現在 H12 ～ H15 H17 ～ H19 H13 ～ H18 H21 ～ 継続中
女性教育	婦人団体活動の指導と援助が中心となっている。女性層の趣味の講座を開催し，そこから組織化・サークル化を狙い講座を開催している。	女性セミナー	H 6 ～ 継続中
協働教育	国委託事業等をきっかけとして，協働教育の推進を進めている。派遣社会教育主事の尽力により，地域の中に協働教育が定着し，文部科学大臣表彰を受賞するまでの取組となった。	コラボスクール推進事業 学校支援地域本部事業 （村田町学校支援事業） 学社連携会議 協働教育担当者会議	H19 ～ H20 H20 ～ H22 H20 ～ 継続中 ～ H21 H21 ～ 継続中
社会体育	主に町民対象のスポーツ行事を中心に開催されている。ＳＵＧＯマラソンが終了したことから，町内外から参加するスポーツ行事は無くなった。ニュースポーツの普及講習会を積極的に開催している。	ＳＵＧＯマラソン 町ヘルシー大会 町ミニバスケットボール交流大会 町少年野球大会 ニュースポーツ講習会	S56 ～ H15 H元 ～ 現在 H 3 ～ H22 S55 ～ H22 H 5 ～ 継続中
視聴覚教育	教材センターとの共催事業が主となり，自主事業が開催されていない状況である。教材センターの教材活用や，自作視聴覚教材の作成・活用を中心に取り組んでいる。	親と子の映画鑑賞会 16ミリ映写機操作技術講習会	～ H14 ～ H19
文化振興	従来からの文化活動団体の育成を中心に行ってきた。さらに，新たな活動団体を育成することも目的として体験講座の開催を行い，文化活動団体の活性化を図った。	町民文化祭 美術ワークショップ事業	S47 ～ 現在 H21 ～ 現在
文化財保護	町内に古くから残る史跡，建造物などの文化財を保存，活用し，町民の文化的向上に努めている。郷土に伝承されてきた民俗芸能を保存し，後世に伝えるために民俗芸能祭りを２年毎に開催している。	文化財めぐり ふるさと民俗芸能祭り	H 6 ～ 継続中 H 2 ～ 継続中
情報化・国際化	情報化時代への対応として，パソコン講座を開催している。少年教育事業として英語に親しみながら国際理解を深める事業を実施した。	パソコン講座 英語で遊ぼう 英国フリントシャー県と交流	H12 ～ 継続中 H14 ～ H17 H 2 ～ 継続中
生涯学習振興	生涯学習推進協議会が解散となった。生涯学習の成果を発揮する場づくりとして，協働教育の枠組みの中で，学習の成果を活かして子どもの育ちを地域全体で支援していく取組を進めている。	生涯学習推進協議会	H 5 ～ H22

◈社会教育年表

年　月　日	事　項
平成 12年	
3月	青年教育「ヤングカレッジ」開催（２回）
	子育て支援ネットワーク充実事業（補助事業　～15年度）
6月	生活体験合宿推進事業「合宿通学」実施（５泊６日・中央公民館泊）
9月　8日	みやぎ国体リハーサル大会（都道府県対抗宮城県大会）開催（～9月10日）
11月	成人教育「パソコン講座」「中高年の山歩き」開催
	歴史みらい館友の会・同好会活動始まる（会員37名）
平成 13年	
4月	こどもセンター事業（委嘱事業）ホームページの開設や情報誌発行等を行う
	村田町在住外国人のための日本語講座開催（年11回）
	名勝「浮島」整備事業（春と夏の植生調査実施）
10月 14日	新世紀みやぎ国体クレー射撃競技会（第56回国民体育大会）開催（～10月16日）
平成 14年	
7月	少年教育「英語で遊ぼう」開催（～11月・５回）
8月	村田第五小学校新プール落成
平成 15年	
5月	少年教育「ふるさと学習会」から「むらたアドベンチャーサークル事業（Ｍ．Ａ．Ｃ）」へ
6月	屋敷神の記録保存調査（本町地区を中心に）
7月	古舘館跡（小泉地区）発掘調査
8月	少年教育「むらたサイエンスクラブ」開催
9月	本物の芸術体験事業（村田第二小学校会場）
12月　9日	ふれあい交流事業「ふれあいコンサート」（山田芳子ソプラノコンサート　2,500名）
平成 16年	
3月	体育センター解体工事終了
6月	ＩＴ創作ルームを歴史みらい館内に設置（開放用パソコン５台）
7月	歴史みらい館友の会会報第１号発行
	成人教育「絵画教室」開催（～９月　10回　講師・千葉清澄氏）
10月	町制施行110周年・町村合併50周年記念式典
	歴史みらい館10周年記念特別展（20世紀の巨匠「ピカソ」～リトグラフの世界～）開催
11月	開催予定の第24回村田ＳＵＧＯマラソンは菅生平地区の地滑りのため中止となる
	村田ＳＵＧＯマラソンは第23回大会をもって終了することになった
平成 17年	
2月	理科大好きコーディネーター支援事業「光の不思議」開催（科学技術振興機構共催）
6月	高齢者教育事業「高齢者教室」開催　（～11月　計38回実施）
11月 22日	「子育て支援充実のために」ふれあいトークｉｎ村田　開催
平成 18年	
3月	仙南青年文化祭が村田町を会場に開催される
6月 ～	文化体験プログラム支援事業実施
8月	第33回東北総合体育大会クレー射撃競技が村田町で開催される
9月	全国自作視聴覚教材コンクールで「金色の夢を追いかけて～三宅物語～」が入選を果たす
10月	宮城ヘルシーふるさとスポーツまつり大河原管内大会が村田町で開催される
平成 19年	
3月	村田町公民館運営審議会を廃止する
4月 ～	コラボスクール推進事業実施（県委託事業）　※２か年
9月 ～	家庭教育支援総合推進事業実施（国庫委託事業）
9月	全国自作視聴覚教材コンクールに「地域の伝承を調べよう」～村田町姥ヶ懐地区渡辺綱と鬼伝説～が出品される
平成 20年	
4月 ～	村田町に藤原秀光派遣社会教育主事が配置される　※３か年
5月 ～	成人教育「食育体験事業（後の野菜作り教室）」が始まる（～H22まで）
8月 ～	村田町学校支援事業（国委託事業「学校支援地域本部事業」）実施　※３か年
10月 ～	社会体育事業「ニュースポーツ交流大会」が始まる
11月	家庭教育支援総合事業「家庭教育豊楽夢（フォーラム）」が村田町で開催される
平成 21年	
6月 ～	世界天文年の機会を生かし，むらた天体観測講座を始める
10月	ボランティア養成講座として学校支援ボランティア研修会を始める
平成 22年	
4月	村田町が町村合併55周年を迎えた
4月	ＮＨＫのど自慢が村田町で開催される
6月	ＮＨＫとベガルタ仙台「親子で楽しむ！はじめてのサッカーｉｎ村田町」が開催される
7月 ～	むらた庭木剪定講習会を始める
8月	ドイツスポーツユーゲントとの同時交流事業の受入れを行った
8月	夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会が村田町で開催される
9月 ～	むらた本の読み聞かせ講座を始める

◆公民館施設に関する一覧表

公民館名	独立併置別	敷地面積（㎡）	建物			対象地区	
			構造別	延面積（㎡）	建築年月日	人口（人）	面積（㎢）
村田町中央公民館	独立	7,658.48	鉄筋	1,643.03	S47. 3.25	4,562	16.19
沼辺地区公民館	独立	2,167.50	木造一部鉄骨	644.93	S53. 4. 1	3,374	16.10
小泉地区公民館	独立	2,501.50	木造一部鉄骨	465.07	S49.12.24	1,771	17.18
西足立地区公民館	独立	5,788.00	木造一部鉄骨	455.28	S51.12.20	822	13.60
東足立地区公民館	独立	16,801.15	木造一部鉄骨	493.44	S57. 3.25	458	7.18
菅生地区公民館	独立	2,041.82	木造一部鉄骨	693.27	S55. 3.25	770	13.70
姥ヶ懐地区公民館	独立	12,851.00	木造一部鉄骨	411.68	S63. 2.29	316	6.82

◆社会教育関係施設一覧表

施設名	備考
村田町中央公民館	３階建て，大ホール，大小会議室２，和室３，調理実習室
沼辺地区公民館	平屋建て，大ホール，会議室１，和室１，調理実習室
小泉地区公民館	平屋建て，大ホール，和室１，調理実習室
菅生地区公民館	平屋建て，大ホール，会議室１，和室１，調理実習室
西足立地区公民館	平屋建て，大ホール，会議室１，和室１，調理実習室
東足立地区公民館	平屋建て，大ホール，会議室１，和室１，調理実習室
姥ヶ懐地区公民館	平屋建て，大ホール，和室１，調理実習室
村田町民体育館	アリーナ（35m×30m），地下卓球場有，ギャラリー850席
北沢公園グラウンド	多目的グラウンド，ナイター設備有
北沢テニスコート	全天候型コート３面（うち２面にナイター設備有）
塩内公園グラウンド	野球場
相山公園グラウンド	多目的グラウンド
村田町常設ゲートボール場	ゲートボールコート２面，クラブハウス隣接
宮城県オリエンテーリングパーマネントコース５	
村田町歴史みらい館	常設展示室，企画展示室，図書室，映像室，研修室，収蔵庫
村田町体育センター	平成１６年３月解体工事終了

◆予算の変遷

町総額（単位：千円）

年度	予算総額	教育費	社会教育費	内訳						保健体育費	人口（人）
				社会教育総務費	社会教育学級費	公民館費	文化財保護費	歴史みらい館費	子ども健全育成基金費		
H12	5,353,440	566,501	149,941	60,860	2,568	27,776	6,249	52,387	101	23,650	13,369
H13	5,377,200	553,115	137,113	57,616	1,802	20,313	6,682	50,592	108	21,206	13,312
H14	5,618,711	594,937	136,721	58,798	1,870	19,285	5,794	50,636	338	20,082	13,227
H15	4,890,700	545,229	138,514	65,473	1,964	19,107	4,323	47,647	—	19,064	13,182
H16	5,560,800	539,124	130,823	65,228	2,519	18,251	5,365	39,460	—	16,651	13,141
H17	4,870,572	484,181	129,341	56,845	944	23,863	10,415	37,274	—	13,878	12,962
H18	5,111,238	571,041	127,615	59,509	950	19,372	1,565	46,219	—	15,317	12,830
H19	4,803,938	479,566	118,574	52,252	1,300	18,813	861	45,348	—	12,962	12,695
H20	4,702,970	494,004	108,392	40,372	1,152	15,897	862	50,109	—	12,713	12,545
H21	5,240,567	1,188,953	90,302	32,034	1,880	16,295	573	39,520	—	13,097	12,371
H22	5,085,297	808,044	112,871	32,918	2,238	15,862	12,975	48,878	—	13,084	12,259

※平成22年度の人口一人あたりの社会教育費は9,207円です。

※各年度の人口は，住民基本台帳の数で各年3月31日時点のもの。
※平成16年度の社会教育学級費には「子育て支援ネットワーク充実事業」「子育て学習の全国大会展開事業」753千円が含まれている。
※平成18年度から社会教育課が教育委員会事務局社会教育班となった。徐々に職員が減少していき，社会教育総務費が減額している。
※平成19年度，平成20年度の社会教育学級費には「コラボスクール推進事業」委託料350千円が含まれている。
※平成21年度，平成22年度の教育費が多くなっているのは統合小学校建設事業費等によるもの。
※平成21年度の社会教育学級費には国委託事業「学校支援地域本部事業」1,134千円が含まれている。
※平成22年度の社会教育学級費には国委託事業「学校支援地域本部事業」1,562千円が含まれている。

[考察]

歴史みらい館費や文化財保護費を除く社会教育関係予算は10年間で約半分の規模に縮小している。職員数の減もさることながら，事業費自体も国委託費などを除いた町単独予算で見ると平成17年度を境に急激に減少している。

事業については，少年教育，青少年教育事業を中心としながら、学校週５日制導入等の子どもをとりまく環境に応じて体験型事業等を中心に実施されてきている。

柴田町

◆社会教育事業の変遷

分類	特徴的なことがら	事業名	事業実施年度
少年教育	小中高の異年齢交流，自然体験活動等を通して，子ども会活動の活性化やジュニア・リーダーの育成等につながるよう系統的に事業を実施している。また，子どもの読書活動推進図るための取り組みも行っている。	しばたワンパククラブ わくわくチャレンジ合宿通学 子ども読書活動推進事業 しばた子どもフェスティバル	H11 ～ H16 H12 ～ 継続中 H18 ～ 継続中 H23 ～
青年教育	参加人数の減少などにより事業数が減ってきているのが現状である。地域活動への積極的な参加意識を図る方策や，少年教育事業との連携，リーダー養成を図ることが必要である。	成人式 仙南青年文化祭への参加	～ 継続中 H16 ～ 継続中
家庭教育	就学児発達検査の待ち時間を利用し，小学校入学児童の保護者を対象にした「子育て親育ち講座」を中心に事業を展開している。今後も保健福祉部局や子育て支援センター，子育てサポーター等との連携を密にしながら事業を展開していきたいと考えている。	子育て支援ネットワーク事業 家庭教育支援基盤形成事業 （子育て親育ち講座） 家庭教育相談	H16 ～ 継続中 H20 ～ 継続中 H18 ～ 継続中
高齢者教室	高齢者がその年齢にふさわしい社会的能力を高めるための事業の総合的な調整や趣味・教養に関する学習を行っている。各施設を中心に高齢者教室を開催（通年の活動）している。	高齢者教室 豊齢者教室（槻木） 豊齢者教室（船迫） いきいき教室（船岡）	S56 ～ 継続中
成人教育	定年退職を迎える人々のネットワークづくり，スムースに地域活動へ参加できるようにするための事業等を実施している。また，積極的に地域のボランティア活動等に参加しようという意欲の向上等を図ることもねらいとしている。	ワンポイントサークル 柴田町地域ボランティア活動推進事業 地域デビュー事業	H 7 ～ H16 H17 ～ H18 H19 ～ 継続中
女性教育	趣味，教養，健康づくり等に関する研修会，視察等を中心に事業を展開している。各団体における参加者の減少や高齢化が課題となっている。	婦人リーダー研修 地域婦人会連絡協議会の支援 各種婦人団体連絡協議会の支援	H14 ～ H19 H20 ～ 継続中 H20 ～ 継続中
協働教育	平成14年度からの完全学校週５日制や，社会経済状況の変化をふまえ，学校・家庭・地域の協働による子どもを育てる環境・体制づくり等，協働教育の重要性が一段と増している。	コラボスクール推進事業 学社連携推進委員会 協働教育プラットフォーム事業	H18 ～ H19 H18 ～ 継続中 H23 ～
社会体育	町民に，スポーツを通してコミュニティの輪を広げスポーツの日常化と併せて健康の維持・増進を目的にスポーツ教室の展開，仙台大学や体育協会等と連携した事業・各種大会を開催している。また，小学生を対象にスポーツ・レクリエーションを通し青少年の心身の健全な育成を図るため交流の場を設けた事業等を展開している。	柴田さくらマラソン大会 町民スポーツ大会 ｽﾎﾟｰﾂﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ in しばた 健康体力づくり事業	H13 ～ H18 S38 ～ 継続中 H11 ～ 継続中 H18 ～ 継続中
視聴覚教育	視聴覚教材センターで実施する各種研修会・講習会について，町民及び職員の参加を呼びかけている。教材，研修内容もＤＶＤやビデオ編集等のパソコンを使ったものが主流となってきている。	16ミリ映写機操作技術講習会 視聴覚技術研修会・講習会	～ H17 H18 ～ 継続中
文化振興	各生涯学習センター，各地区ふるさとづくり推進協議会，行政区等の共催事業として，各地区文化祭やふるさとまつりを開催し，文化芸術活動の学習成果の発表の場を提供，文化関係団体の育成，文化の振興を図っている。	町民文化祭 青少年巡回小劇場・小公演 柴田町合唱祭	S45 ～ 継続中 H 3 ～ 継続中
文化財保護	しばたの郷土館において，常設・企画展の充実を図りながら，参加体験型の事業を展開することで，住民が郷土の歴史や文化・自然を見つめ直す主体的な活動を支援できるよう努めている。	常設展・企画展 史跡めぐり 体験学習	H 5 ～ 継続中 ～ 継続中 H 3 ～ 継続中
情報化・国際化	インターネットや携帯電話の普及により，ますますこの分野の教育の重要性は高まっている。国際化に関しては，国際姉妹都市丹陽市と柴田町の子どもが文化活動作品（書・絵画等）の交換による交流を行っている。	国際姉妹都市丹陽市との文化交流 国内ふるさと姉妹都市文化交流	H 8 ～ 継続中 H 9 ～ H15
生涯学習振興	平成18年度から「生涯学習課」と「スポーツ振興室」に組織を再編し，生涯学習施設や地域における学習事業の充実を図っている。また，学校教育と社会教育の連携推進に努めるとともに，家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくりを展開している。	生涯学習推進本部 生涯学習推進協議会 学社連携推進委員会 生涯学習課設置	S57 ～ 継続中 S57 ～ 継続中 H18 ～ 継続中 H18 ～ 継続中

◈社会教育年表

年　月　日	事　項
平成 12年	
7月	国体リハーサル大会（水球）
9月	生活体験宿泊推進事業（合宿通学）開始
平成 13年	
3月	さくら歩道橋開通式
4月	第１回柴田さくらマラソン大会開催
9月	みやぎ国体　夏季大会水球競技会開催
10月	みやぎ国体　秋季大会ウエイトリフティング競技会開催
平成 14年	
5月	船岡放課後児童クラブ開設
7月	宮婦連大河原ブロック大会を槻木文化センターで開催
平成 15年	
4月	しばたの郷土館内に齊藤博記念文庫が開館
8月	宮城ヘルシー2003管内大会を柴田町で開催
12月	「光のページェント＆よさこいｉｎしばた」を開催
平成 16年	
4月	ふるさと文化伝承館にＩＴ創作プラザがオープン
4月	第３回東北押花展をしばたの郷土館で開催
10月	柴田ウォーキング大会開始
平成 17年	
4月	桜の中の美術祭開催（郷土館）
5月	「東船岡地域子ども教室あ・そ・ぼ」開始
7月	思春期子育て講座を町内各小学校で開催
10月	国際交流チャレンジ学習事業（町内中学３年生６名がアメリカシアトルでホームステイ）
11月	さくら船岡大橋開通
平成 18年	
4月	教育委員会組織再編　社会教育課から生涯学習課へ スポーツ振興室設置 しばたの郷土館に文化財保護室を統合 公民館等を再編し，各中学校区単位に槻木・船岡・船迫の生涯学習センターを設置 柴田町子ども読書活動推進計画を策定
4月	「船岡地域子ども教室スポーツ広場ＦＵＮＡＯＫＡ」開始
4月	コラボスクール推進事業（～H19）
8月	東北総合体育大会ウエイトリフティング競技会開催
平成 19年	
6月	仙南子連成人指導者研修会を柴田町で開催
9月	地域デビュー事業「２０×３」開始
12月	入間田テニスコート完成
平成 20年	
3月	柴田町勤労青少年ホームを廃止
6月	「子育て親育ち講座」を町内各小学校で開始
8月	第12回姉妹・友好都市シニアリーダー研修・交流会（伊達・亘理・山元・新地・柴田）を柴田町で開催
平成 21年	
10月	読み聞かせボランティア養成講座（県主催）開催
平成 22年	
3月	仙南青年文化祭を槻木生涯学習センターで開催
5月	柴田町図書館がオープン
10月	みやぎ県民大学「生涯学習出前講座」（県主催）開催
10月	町内各合唱団体が実行委員会を組織し「柴田町合唱祭」を開催

◆公民館施設に関する一覧表

公民館名	独立併置別	敷地面積（㎡）	建物			対象地区	
			構造別	延面積（㎡）	建築年月日	人口（人）	面積（k㎡）
槻木生涯学習センター	独立	2,356.06	鉄筋	2,588.46	H 7. 3.20	12,636	37.19
船岡生涯学習センター	独立	3,962.80	鉄筋	1,184.54	H 9.10.31	16,137	11.00
船迫生涯学習センター	独立	6,702.08	鉄筋	1,434.34	S59. 7.31	7,908	3.77
船岡公民館	併設	1,993.86	鉄筋	748.68	S45. 4.30	16,137	11.00
船迫公民館	独立	2,920.18	鉄骨	617.44	H 3. 4.20	7,908	3.77
西住公民館	独立	2,000.02	鉄骨	752.34	H 4. 3.20	1,840	1.47

※槻木生涯学習センター，船岡生涯学習センター，船迫生涯学習センターは平成18年度より組織再編・名称変更
※船岡公民館内にスポーツ振興室を併設

◆社会教育関係施設一覧表

施設名	備考
柴田町農村環境改善センター	２階建て，多目的ホール，農事研修室，料理実習室，小会議室，生活改善実習室，図書室
柴田町勤労青少年ホーム	平成20年3月31日廃止
しばたの郷土館	ふるさと文化伝承館，資料展示館思源閣，産業展示館，如心庵及び庭園
柴田町図書館	平成22年5月29日　しばたの郷土館内に開館
柴田町民体育館	平成22・23年度使用中止
船岡体育館	平成23年度使用中止
槻木体育館	運動場，談話室，２階ギャラリー
柴田町総合運動場	野球場，多目的グラウンド
並松運動場	多目的グラウンド（野球，ソフトボール各１面）
阿武隈川運動場	野球場１面，多目的グラウンド（ソフトボール２面，200mトラック），緑地公園
柴田町生涯教育総合運動場	多目的グラウンド（サッカー場１面，200mトラック，ゲートボール・ソフトボール各２面）
舘山テニスコート	テニスコート１面
入間田テニスコート	テニスコート２面，練習コート１面
葛岡山テニスコート	テニスコート１面

◆予算の変遷

町総額（単位：千円）

年度	予算総額	教育費	社会教育費	内訳					保健体育費	人口（人）
				社会教育総務費	公民館費	文化財保護費	しばたの郷土館費	図書館費		
H12	11,046,660	1,119,207	364,194	143,296	166,222	9,705	44,971	—	348,100	39,074
H13	10,362,400	1,148,540	371,139	157,709	168,429	9,547	35,454	—	355,977	39,179
H14	11,288,920	1,351,508	374,575	135,143	180,984	9,733	48,715	—	359,826	39,210
H15	11,119,880	1,233,581	328,965	115,088	165,474	9,897	38,506	—	436,742	39,266
H16	10,481,074	1,138,453	319,286	105,326	175,588	9,247	29,125	—	426,573	39,317
H17	10,438,468	1,056,700	284,272	79,024	157,946	9,770	37,532	—	411,996	39,278
H18	9,845,116	1,008,623	316,650	83,336	202,038	—	31,276	—	365,964	39,230
H19	9,691,393	939,667	283,211	103,882	146,604	—	32,725	—	317,662	38,874
H20	9,774,940	997,707	261,372	103,404	116,307	—	41,661	—	318,711	38,698
H21	9,891,114	1,017,849	263,297	119,468	118,604	—	25,225	—	329,187	38,491
H22	10,645,598	1,080,113	318,669	95,316	127,668	—	50,361	45,324	331,776	38,264

※平成22年度の人口一人あたりの社会教育費は8,328円です。

[考察]

平成18年度より，従来の「社会教育課」，「文化財保護室」を「生涯学習課」と「スポーツ振興室」に再編（文化財保護室は，しばたの郷土館に統合）し，予算執行等の一元管理による事務の合理化を図り，より機能的な組織とした。あわせて，生涯学習課が管理する公民館等の施設も，中学校単位に再編し核館と地区館を設置した。核館となる槻木生涯学習センター，船岡生涯学習センター，船迫生涯学習センターは職員を集中配置し，（従来は８つの公民館とコミュニティセンターを設置）それぞれの地区館（船岡・西住・船迫・農村環境改善センター）と連携し，地域づくりと学習機会の一層の充実を図ることとした。また，平成22年5月29日，しばたの郷土館内に「柴田町図書館」を開館した。

予算の変遷については，特に平成19年度から始まった財政再建プランの影響もあり，予算に占める教育費の割合は減少していたが，近年この取り組みが功を奏し，財政危機を乗り越えたこともあり，平成21年度からはやや増加し始めている。

また，事業については，平成14年度からの完全学校週５日制や，社会経済状況の変化をふまえ，学校・家庭・地域の協働による子どもを育てる環境・体制づくり等，協働教育の重要性が一段と増している。

川 崎 町

◆社会教育事業の変遷

分類	特徴的なことから	事業名	事業実施年度
少年教育	体験・創作・スポーツ活動事業を中心に事業が展開されているが，近年では自然体験活動，異年齢交流にも力を入れ取り組んでいる。	児童生徒書初め大会 小学生サマーキャンプ 生活体験宿泊推進事業	S50 ～ 継続中 S53 ～ 継続中 H11 ～ H22
青年教育	青年層における社会参加に対して自主性，積極性を高めていくための方策と，活動の中心となるリーダー育成が必要である。	成人式（実行委員会による）	H 8 ～ 継続中
家庭教育	家庭におけるしつけ，子育てに関する学習を開催するとともに，親と子がふれあう機会の創出と，親同士が気軽に集い，仲間づくりができる環境が必要である。	幼児スポーツ教室 家庭教育学級	H 7 ～ 継続中 H 2 ～ 継続中
高齢者教育	年間を通じて，体験・創作活動の場を提供することで，教養を高めながら連帯の和を広げ，積極的な社会参加の促進と生きがいづくりを図る。	高齢者大学	S56 ～ 継続中
成人教育	町民のニーズに対応した講座を開設し，余暇の有効活動と趣味の拡大を目指し，相互の親睦と交流を図る。	陶芸教室 町民大学（成人講座）	H15 ～ 継続中 H 8 ～ 継続中
女性教育	相互の親睦融和を図りながら，趣味の拡大と教養の向上を目指し，地域活動に積極的に参加できる環境と，活動を推進するためのリーダー養成が必要である。	婦人団体リーダー研修会 趣味の講座	H 9 ～ 継続中
協働教育	地域住民が学校教育を支援するため，住民の新たな活動の場を提供するとともに，地域ぐるみで子どもたちを育てる環境を整備する。	学校支援地域本部事業	H22 ～ 継続中
社会体育	健康・体力づくりを目指すとともに，生涯スポーツの振興として幅広い年代に親しまれるスポーツの普及・振興が図られている。また地域活性化と相互親睦を目的としたコミュニティー事業も展開されている。	ウォークラン大会 行政区スポーツレクリエーション事業 ペタンク大会	H 7 ～ 継続中 H20 ～ 継続中 H22 ～ 継続中
視聴覚教育	視聴覚機器の操作技術を養成，活用するため講習会の開催は継続しているが，新しいメディアの活用やパソコン関連事業も検討していく必要がある。	16ミリ映写機操作技術講習会	～H19で廃止
文化振興	芸術文化活動の一層の推進と学習成果を発表する場として，町民文化祭を開催している。様々な文化活動が展開されているが，個々の後継者の育成や文化の伝承を更に推進していく必要がある。	町民文化際 チャリティーショー	H 3 ～ 継続中 S48 ～ 継続中
文化財保護	文化遺産を見たり，話を聞いたりすることで，ふるさとの歴史，すばらしさを再認識するように事業を展開している。	かわさき歴史散歩 文化財講座	H 6 ～ 継続中 H 6 ～ 継続中
情報課・国際化	英会話教室はＡＬＴを講師に事業を展開している。今後も国際化に向けて言葉を学習する機会を提供していく必要がある。	かんたん英会話教室 国際交流の会	H10 ～ 継続中 H11 ～ 継続中
生涯学習振興	一生涯学習という理念により，「町民ひとり１学習・１スポーツ・１文化活動」をテーマとした社会教育の推進と文化的水準の向上に努め，地域コミュニティーとふるさと意識の高揚を図る。	生涯学習課設置	H11 ～

◈社会教育年表

年　月　日	事　項
平成 12年	
10月 8日	町民親睦体育祭（総合運動場）
10月 15日	山形自動車道　笹谷トンネル貫通式（第２期）
10月 22日	生活体験宿泊推進事業「めちゃイケ！体験お泊り生活」（～28日，公民館他）
11月 3日	第10回町民文化祭（～４日），文化講演会（講師：海老名香葉子）
平成 13年	
9月 9日	ゴルフ競技１日目（東蔵王ゴルフ倶楽部）
9月 10日	ゴルフ競技２日目（東蔵王ゴルフ倶楽部）・表彰式
10月 15日	みやぎ国体　秋季大会　山岳競技登攀成年女子（総合運動場内特設会場）
10月 16日	みやぎ国体　秋季大会　山岳競技登攀成年男子
10月 21日	生活体験宿泊推進事業「めちゃイケ！体験お泊り生活」（～27日，公民館他）
11月 3日	第11回町民文化祭（～４日），文化講演会（講師：由美かおる）
平成 14年	
5月 11日	川崎町立川崎小学校　笹谷分校閉講記念式典
7月 25日	大河原管内スポ少連協　日独同時交流事業（～26日）
10月 20日	生活体験宿泊推進事業「めちゃイケ！体験お泊り生活」（～26日，公民館他）
11月 3日	第12回町民文化祭（～４日），文化講演会（講師：津川雅彦）
平成 15年	
9月 15日	生活体験宿泊推進事業「めちゃイケ！体験お泊り生活」（～20日，公民館他）
11月 2日	第13回町民文化祭（～３日），文化講演会（講師：冨士眞奈美）
平成 16年	
3月 7日	平成15年度仙南青年文化祭「Ｒｅｐｒｅｓｅｎｔ　ＫＡＷＡＳＡＫＩ」
9月 12日	生活体験宿泊推進事業「めちゃイケ！体験お泊り生活」（～17日，公民館他）
10月 30日	第14回町民文化祭（～31日），文化講演会（講師：渡辺えり子）
平成 17年	
3月 26日	みちのく公園　ふるさと村完成記念式典（釜房の家で昔ながらの結婚式が行われた）
8月 16日	８・16宮城地震（11:46発生）震度６弱観測　被害少なかった
9月 11日	生活体験宿泊推進事業「めちゃイケ！体験お泊り生活」（～16日，公民館他）
10月 9日	町村合併50周年記念町民親睦体育祭（川崎町総合運動場）
11月 5日	第15回町民文化祭（～６日），文化講演会（講師：林家木久蔵）
平成 18年	
4月 1日	青根温泉公衆浴場「じゃっぽの湯」オープン
11月 4日	第16回町民文化祭（～５日），文化講演会（講師：高橋元太郎（うっかり八兵衛））
平成 19年	
4月 1日	上橋城交流施設（散策路，駐車場等整備：県営中山間地域総合整備事業）
8月 26日	宮城ヘルシーふるさとスポーツ祭 第19回大河原管内大会（川崎町Ｂ＆Ｇほか）
11月 3日	第17回町民文化祭（～４日）
平成 20年	
3月 9日	仙南長持唄大会（山村開発センター）
9月 15日	生活体験宿泊推進事業「めちゃイケ！体験お泊り生活」（～19日，公民館他）
11月 1日	第18回町民文化祭（～２日）
平成 21年	
9月 13日	生活体験宿泊推進事業「めちゃイケ！体験お泊り生活」（～18日，公民館他）
10月 31日	第19回町民文化祭（～11月１日），文化講演会（講師：大沼えり子（作家，ＤＪパーソナリティ））
11月 6日	釜房ダム水没者移転40周年のつどい
平成 22年	
9月 20日	生活体験宿泊推進事業「めちゃイケ！体験お泊り生活」（～24日，公民館他）
10月 30日	第20回町民文化祭（～31日），文化講演会（講師：竹内則子（寂々温泉５代目女将））

◆公民館施設に関する一覧表

公民館名	独立併置別	敷地面積（㎡）	建物			対象地区		備考
			構造別	延面積（㎡）	建築年月日	人口（人）	面積（k㎡）	
川崎町公民館	独立	901.00	鉄筋	894.24	S46.1.30	10,148	270.8	

◆社会教育関係施設一覧

施設名	備考	施設名	備考
裏丁ｺﾐｭﾆﾃｨｰｾﾝﾀｰ	S63建築　鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ　336.28㎡	川内三分館	S63建築　木造平屋　152㎡
本荒町ｺﾐｭﾆﾃｨｰｾﾝﾀｰ	H6建築　木造平屋　172.87㎡	本砂金地区集落ｾﾝﾀｰ	S62建築　木造平屋　169.91㎡
中新町ｺﾐｭﾆﾃｨｰｾﾝﾀｰ	H4建築　木造平屋　178.90㎡	安達地区集落ｾﾝﾀｰ	S61建築　木造平屋　49.68㎡
前川東部集落ｾﾝﾀｰ	S57建築　木造平屋　171.72㎡	大針分館	H15建設　木造平屋　152㎡
前川西部集落ｾﾝﾀｰ	H6建築　木造平屋　181.36㎡	支倉郷土文化伝承館	H6建築　木造平屋　414.51㎡
腹帯地区集落ｾﾝﾀｰ	S56建築　木造平屋　156.33㎡	支倉上地区集落ｾﾝﾀｰ	S58建築　木造平屋　158.76㎡
宵根分館	S53建築　木造平屋　88.33㎡	支倉下地区集落ｾﾝﾀｰ	H11建築　木造平屋　154.85㎡
立野地区集落ｾﾝﾀｰ	H6建築　木造平屋　237.73㎡	碁石地区集落ｾﾝﾀｰ	S61建築　木造平屋　216.13㎡
野上分館	S63建築　木造平屋　310.36㎡	支倉台分館	S59建築　鉄骨造　225㎡
古関分館	H3建築　木造平屋　207.23㎡	川崎町Ｂ＆Ｇ海洋ｾﾝﾀｰ	S59建築　体育館・プール
笹谷分館	S57建築　鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ　483㎡	川崎町総合運動場	S61建設　総18,549.59㎡
小野分館	S61建築　木造平屋　202.33㎡	多目的コート（人工芝）	H22建設　総2,047㎡
川内地区生活改善ｾﾝﾀｰ	S49建築　木造平屋　149.00㎡	みやぎ蔵王ｾﾝﾄﾒﾘｰｽｷｰ場	H2建設　4ｺｰｽ，ｷｯｽﾞﾗﾝﾄﾞ
川内北川ｺﾐｭﾆﾃｨｰｾﾝﾀｰ	S62建築　鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ　895.30㎡	笹谷オートキャンプ場	H11建設　電源付きサイト有
天神地区生活改善ｾﾝﾀｰ	S54建築　木造平屋　179.01㎡		

◆予算の変遷

町総額（単位：千円）

年度	予算総額	教育費	社会教育費	内訳				保健体育費	人口
				総務費	公民館費	文化財保護費	子ども会育成費他		
H12	4,818,000	648,297	78,755	46,170	25,838	3,200	3,547	245,497	11,300
H13	5,390,000	733,057	91,453	49,020	34,696	5,575	3,262	314,254	11,195
H14	5,987,000	1,071,394	144,891	49,829	80,774	11,135	3,153	185,922	11,165
H15	5,456,000	739,720	80,915	45,697	27,316	5,372	2,530	208,512	10,974
H16	4,772,936	610,720	78,493	44,015	28,325	4,837	1,316	189,959	10,877
H17	4,696,000	569,086	70,742	42,073	25,336	1,705	1,628	161,753	10,833
H18	4,632,000	713,834	152,237	46,882	100,044	3,962	1,349	154,555	10,719
H19	4,190,000	512,728	70,879	44,647	23,674	1,158	1,400	149,221	10,556
H20	4,143,000	509,153	67,228	39,461	25,202	1,133	1,432	148,882	10,434
H21	4,064,000	501,914	69,095	44,678	21,327	1,653	1,437	134,402	10,284
H22	4,341,000	540,059	66,744	40,229	23,766	1,325	1,424	130,830	10,148

※平成22年度の人口一人あたりの社会教育費は6,577円です。

※社会教育費内訳

総務費の中に社会教育振興費を含む
公民館費の中に分館管理費（17分館）を含む
子ども会育成会費等は，平成15年度まで民俗文化財管理費を含む。（平成16年度以降は子ども会育成費のみ）
保健体育費の中にＢ＆Ｇ海洋センター費を含む

平成14年度は大針分館新築工事費を含む
平成15年度は海洋センタープール改修工事（鉄骨塗装），総合運動場維持補修工事費を含む
平成16年度は海洋センターアリーナ改修工事費を含む
平成18年度は川崎町公民館耐震工事費を含む
平成21年度は保健体育費にテニスコート全面改修工事費を含む
平成22年度は保健体育費に多目的コート（人工芝）改良工事費を含む

［考察］

ここ10年間の予算で大きく突出しているところは，施設の老朽化に伴う修繕・改修工事費が計上されているためである。

また平成12～13年度の保健体育費については，みやぎ国体関連（リハーサル大会，本大会）の予算を計上し増額となっている。

その他の予算に関しては，近年の逼迫した財政難のため，年々減額されている傾向にある。

丸森町

◆社会教育事業の変遷

分類	特徴的なことがら	事業名	事業実施年度
少年教育	平成14年度より完全学校週５日制へ移行したことにより，体験活動の実施が多くなった。活動内容についてもニュースポーツや農学校の開催など広範囲にわたっている。	山の子キャンプ ひっぽ農業小学校 夏休みチャレンジスクール	～ 継続中 H16 ～ 継続中 H12 ～ 継続中
青年教育	平成10年度に青年団がなくなって以降，青年活動が停滞していた。平成14年度から成人式対象の青年の中から実行委員を募集し，記念事業を自ら企画・実施することにより，仲間づくりと，青年活動への取り組みの足掛かりとして，事業を実施している。	はたちの記念事業	H14 ～ 継続中
家庭教育	平成17年度より丸森町ＰＴＡ連合会主催「地区セミナー」が統一され，「家庭教育セミナー」となる。内容は講演会やコンサートなど，親子で参加できるものに変化している。また，小さい子どものいる方でも参加できるように託児所を設置している。	家庭教育セミナー	S59 ～ 継続中
高齢者教育	「高齢者大学・大学院」は平成16年度に「はつらつ学園」に名称変更され，高齢者の社会参加活動や生涯にわたる学習活動の推進を図り，健康で生きがいのある生活の基礎となる学習活動を展開している。	高齢者大学・大学院 はつらつ学園 高齢者のつどい	S47 ～ H15 H16 ～ 継続中 H 2 ～ 継続中
成人教育	ニーズの増加により，講座の種類は多岐にわたっている。趣味的な内容の講座が多く，参加者は高齢者や女性が多い傾向にある。平成20年度からは東北大学大学院と連携し，よりレベルの高い学習内容を提供する「齋理蔵の講座」を開催することにより，学習活動の推進を図っている。	成人講座 齋理蔵の講座 町民大学講座	～ 継続中 H20 ～ 継続中 H12 ～ H19
女性教育	平成11年度より，女性の要望に応じた内容の講座「輝いてみま専科」を開催。託児所を設け，受講しやすい環境をとっている。	レディースセミナー 輝いてみま専科	～ H21 H11 ～ 継続中
協働教育	平成18年度は国の委託，平成19年度からは国の補助を受け，子どもの交流・体験活動と地域のボランティアの方々との交流をとおして，心豊かでたくましい子どもを育成するため，放課後子ども教室を開設している	学校体育施設の開放 放課後子ども教室	～ 継続中 H18 ～ 継続中
社会体育	「丸森ウォークラリー大会」は毎年紅葉のシーズンに開催され，丸森町の雄大な自然を家族や友人と，ゆっくり楽しみながら歩いていただき，町内及び町外から毎年多くの方が参加している。さらに，各地区でのスポーツイベントも積極的に開催されており，コミュニティの充実もスポーツを通して図られている。	あぜみちマラソン大会 丸森ウォークラリー大会	S56 ～ H12 H 7 ～ 継続中
視聴覚教育	教材の主流は16ミリフィルムからＤＶＤ・パソコンに移ってきている。機器の使用については求められる内容が高度なものになっており，機器を有効活用できる技術が必要になってきている。	16ミリ映写機操作技術研修 自作教材制作支援	～ 継続中 ～ 継続中
文化振興	芸術鑑賞バスを町外へ運行し，芸術鑑賞活動の支援を行う。また，町内においても町民の文化活動の発表機会を提供するとともに芸術文化活動の復興発展を図る事業を行っている。	町外芸術鑑賞 芸能発表会 総合文化祭	H 9 ～ 継続中 ～ 継続中 ～ 継続中
文化財保護	町指定文化財への史跡の指定，国登録有形文化財への登録，遺跡の発掘調査を進め，文化財の保存活用に努めてきている。無形民俗文化財の後継者育成については，各団体とも苦労していることから補助事業などを活用し，その育成に努め，保存継承を図っている。また，仙南民俗芸能鑑賞のつどいを止めたことにより，発表の場が少なくなっている団体が見られることから，つどいの再開が望まれる。	仙南民俗芸能鑑賞のつどい 文化財めぐり	S61 ～ H17 ～ 継続中
情報化・国際化	国際交流事業については，担当課が変更となったがヘメット市との姉妹都市交流事業は現在も継続している。情報化についてはパソコン教室を平成18年度まで公民館事業として実施していたが，現在は生涯学習の推進の観点から町長部局の情報化担当の総務課において実施している。	パソコン教室 ヘメット市と姉妹都市交流	H12 ～ H18 H 2 ～ 継続中
生涯学習振興	平成21年度に公民館を廃止し，まちづくりセンターが設置されたことで，生涯学習の推進については，まちづくりセンターを運営している住民自治組織との連携が不可欠である。	生涯学習推進町民のつどい 出前講座	H 7 ～ 継続中 H10 ～ 継続中

◈社会教育年表

年	月	日	事項
平成 12年			
	3月	31日	丸森町文化財第22集「丸森町の文化財」発行
	7月		成人教育事業「町民大学講座」実施
	7月		子どもセンター事業実施
	11月		第20回あぜみちマラソン大会開催，第20回をもって終了
平成 13年			
	3月	31日	丸森町文化財第23集「新しい町並みをつくる－200年前の町場替え－」発行
	4月		「21世紀・丸森町の教育ビジョン」策定
	10月		第56回国体宮城大会で「デモンストレーションとしてのスポーツ行事」として ウォークラリー競技を実施
平成 14年			
	3月	20日	「生涯学習プログラムガイド・生涯学習の悩みと疑問」作成
	3月	31日	丸森町文化財第24集「阿武隈川と川筋の人々との関わり」発行
	6月		少年教育事業「わくわく探検クラブ」実施
	11月	30日	「生涯学習プログラムガイド・生涯学習プログラムの実際」作成
平成 15年			
	1月		青年教育事業「はたちの記念事業」実施
	3月	20日	丸森町文化財調査報告書第17集 「大古町遺跡－国道113号線舘矢間バイパス工事に伴う発掘調査報告書Ⅰ－」発行
	3月	31日	丸森町文化財集第25集「まるもりとの出逢い」発行
	4月		「丸森町文教施設の今後のあり方」作成
	4月	1日	阿武隈川運動公園設置
	4月	1日	農村勤労福祉センターの名称を「町民体育館」へ変更
平成 16年			
	3月	22日	丸森町文化財調査報告書第18集 「大古町遺跡－国道113号線舘矢間バイパス工事に伴う発掘調査報告書Ⅱ－」発行
	3月	30日	丸森町文化財第26集「新訂版丸森町郷土史年表」発行
	5月		「ひっぽ農業小学校」事業開始
	6月		高齢者教育事業「はつらつ学園」実施
平成 17年			
	2月	1日	「佐野製糸場関連墓群」を町史跡に指定
	2月	28日	丸森町文化財調査報告書第19集「上山田遺跡」発行
	3月	30日	丸森町文化財第27集「ふるさとの伝説」発行
	9月		生活名人マップｖｏｌ．２発行
平成 18年			
	3月		丸森町文化財調査報告書第20集「金山城跡－石垣整備に伴う石垣測量報告書」発行
	4月		文部科学省委託「地域子ども教室事業」を受け，大内小学校に「うりぼうズ」開設
	6月		町単独事業により「子どもの居場所づくり」として舘矢間小学校に放課後子ども教室「舘っ子クラブ」を開設
	8月	1日	郷土道徳副読本「ふるさとの先人に学ぶ」発行
平成 19年			
	3月	29日	丸森町文化財第28集 「つどいの庭に舞い降りた神々－仙南民俗芸能鑑賞のつどい20年のあゆみ－」発行
	4月		組織再編により「生涯学習課」を廃止し，事務局制となる
	4月		文部科学省補助事業「放課後子ども教室推進事業」を受け，大内小学校・舘矢間小学校・筆甫小学校の３校に放課後子ども教室を開設
平成 20年			
	3月		丸森町文化財調査報告書第21集 「高畑遺跡－町道深山線取付工事に伴う発掘調査報告書－」発行
	3月	31日	丸森町文化財第29集「新訂版丸森町郷土史年表対応丸森町郷土史用語詳解」発行
	4月	1日	教育委員会に「生涯学習専門官」配置
	6月		東北大学大学院文学研究科との連携により「齋理蔵の講座」実施
平成 21年			
	3月	31日	丸森町文化財第30集「丸森町の城と館－改訂版－」発行
	4月	28日	「旧丸森郵便局」が国の登録有形文化財に登録
平成 22年			
	3月		丸森町生涯学習基本計画策定
	3月	31日	全公民館を廃止し「まちづくりセンター」へ移行
	3月	31日	丸森町文化財第31集「まるもり歴史散歩」発行
	4月	1日	地区生涯学習を支援するために生涯学習支援室を設置
	9月		生涯学習情報紙「うぐいす」発行再開
	10月	1日	町指定天然記念物「大桑」枯死により指定解除
平成 23年			
	1月	26日	「蔵の郷土館齋理屋敷」が国の登録有形文化財に登録

◈社会教育関係施設一覧

施　設　名	備　　考
まるもりふるさと館	
丸森町立金山図書館	H22.4.1から指定管理
阿武隈川運動公園	H15.4.1設置

◈まちづくりセンター一覧

施　設　名	独　立 併置別	敷地面積 (㎡)	建　　物			対象地区	
			構造別	延面積 (㎡)	建築年月日	人口 (人)	面積 (k㎡)
丸森まちづくりセンター	併置	41,900.00	鉄筋	1,292.23	S51. 6. 1	15,729	273.34
金山まちづくりセンター	独立	2,191.14	鉄筋	351.36	S50. 3.31		
筆甫まちづくりセンター	独立	3,539.36	鉄筋	360.75	S54. 3.31		
大内まちづくりセンター	独立	4,808.00	鉄筋	882.00	H 3. 8.31		
小斎まちづくりセンター	独立	2,584.74	鉄筋	356.48	S53. 3.31		
舘矢間まちづくりセンター	独立	8,172.00	鉄筋	821.22	H22. 2.26		
大張まちづくりセンター	独立	1,685.29	鉄筋	352.56	S48. 3.31		
耕野まちづくりセンター	独立	4,819.59	鉄筋	357.45	S55. 3.31		

※まちづくりセンターは地方自治法により設置している施設であるため，社会教育施設ではないが，住民自治組織により社会教育関係の事業も行われているため，ここに記載した。なお，公民館等の移管・廃止については下記のとおりである

施　設　名	移管・廃止の状況
丸森町中央公民館	H22.3.31廃止，H22.4.1より丸森まちづくりセンターへ移管
和田コミュニティーセンター	H22.4.1より丸森まちづくりセンター付属施設となる
欠入コミュニティーセンター	H22.4.1より丸森まちづくりセンター付属施設となる
町民体育館	H15.4.1「農村勤労福祉センター」から名称変更 H22.4.1より丸森まちづくりセンター付属施設となる
町民広場	H22.4.1より丸森まちづくりセンター付属施設となる
丸森町中央公民館南郷分館	H22.3.31廃止
丸森町中央公民館欠入分館	H22.3.31廃止
丸森町中央公民館羽出庭分館	H22.3.31廃止
丸森町金山公民館	H22.3.31廃止，H22.4.1より金山まちづくりセンターへ移管
丸森町筆甫公民館	H22.3.31廃止，H22.4.1より筆甫まちづくりセンターへ移管
川平スポーツ交流センター	H22.4.1より筆甫まちづくりセンター付属施設となる
筆甫山村広場	H22.4.1より筆甫まちづくりセンター付属施設となる
丸森町大内公民館	H22.3.31廃止，H22.4.1より大内まちづくりセンターへ移管
青葉コミュニティーセンター	H22.4.1より大内まちづくりセンター付属施設となる
伊手コミュニティーセンター	H22.4.1より大内まちづくりセンター付属施設となる
大内山村広場	H22.4.1より大内まちづくりセンター付属施設となる
丸森町大内公民館青葉分館	H22.3.31廃止
丸森町大内公民館伊手分館	H22.3.31廃止
丸森町小斎公民館	H22.3.31廃止，H22.4.1より小斎まちづくりセンターへ移管
丸森町舘矢間公民館	H22.3.31廃止，H22.4.1より舘矢間まちづくりセンターへ移管
丸森町大張公民館	H22.3.31廃止，H22.4.1より大張まちづくりセンターへ移管
大耕農村広場	H22.4.1より大張まちづくりセンター付属施設となる
丸森町耕野公民館	H22.3.31廃止，H22.4.1より耕野まちづくりセンターへ移管
大和沢農村広場	H22.4.1より耕野まちづくりセンター付属施設となる

◆予算の変遷　　町総額（単位：千円）

年度	予算総額	教育費	社会教育費	内訳						保健体育費	人口（人）
				総務費	生涯学習振興費	公民館費	図書館費	文化財保護費	その他		
H12	7,200,000	699,893	141,481	95,338	8,324	30,345	621	1,518	5,335	4,846	18,138
H13	7,345,000	828,139	150,953	94,584	13,014	34,871	612	1,930	5,942	3,633	17,901
H14	6,934,000	737,571	174,338	96,137	11,503	38,161	583	22,604	5,350	4,325	17,685
H15	7,184,000	665,666	150,035	86,540	8,264	34,729	2,467	12,866	5,169	5,951	17,534
H16	7,252,000	660,818	136,769	76,937	9,400	38,728	610	6,402	4,692	5,268	17,348
H17	6,654,800	599,456	127,279	76,110	7,343	33,218	570	5,629	4,409	5,244	17,086
H18	6,719,000	778,582	146,724	102,834	6,509	30,503	614	1,458	4,806	3,614	16,846
H19	6,744,000	613,353	162,035	99,047	6,024	36,906	543	1,770	17,745	4,193	16,601
H20	6,850,000	905,389	184,533	68,009	5,895	81,537	915	1,670	26,507	5,700	16,354
H21	7,025,500	706,486	182,513	89,862	10,659	36,799	712	3,394	41,087	5,724	16,033
H22	7,082,500	463,869	19,567	7,116	4,023	—	826	1,494	6,108	2,530	15,729

※平成22年度の人口一人当たりの社会教育費は1,244円です

※社会教育費内訳
内訳の「その他」の内容
平成12～18年度　「資料館費」＋「コミュニティ施設管理費」
平成19～21年度　「資料館費」＋「コミュニティ施設管理費」＋「町民センター管理費」＋「放課後子ども対策費」
平成22年度　「資料館費」＋「放課後子ども対策費」
＊「町民センター管理費」は平成17年度以前は「社会教育費」ではなく，「農業費」から支出している。
＊「放課後子ども教室」事業は，平成18年度は「地域教育力再生プラン」の委託事業として実行委員会で受託実施した。
＊上記のほか，「山村広場管理費（平成21年度まで）」，「町民広場管理費（平成17年度まで）」，「農村環境改善センター（大内公民館）管理費（平成21年度まで）」は「農業費」より支出している。

平成14年度　文化財保護費に遺跡調査費
平成15年度　図書館費に町立図書館書架購入費・文化財保護費に遺跡調査費
平成17年度　文化財保護費に図面作成委託料
平成20年度　公民館費に公民館改修工事費・その他に町民センター改修工事費
平成21年度　生涯学習振興費に生涯学習基本計画策定委託費・文化財保護費に遺跡調査費・その他にコミュニティーセンター改修費
平成22年度　公民館廃止

［考察］
ここ10年の推移をみると，青年教育分野では，青年活動への参加の促進を目的として，平成14年度から新成人の希望者を募り，実行委員会形式による「はたちの記念事業」を実施している。
協働教育に関しては，学校の空き教室を利用した「放課後子ども教室」事業を行い，子どもが安全かつ安心して遊べる拠点，また，地域の方々との交流の場となっている。
さらに，家庭教育分野や女性教育分野の事業においては，託児所を設置するなど住民が参加しやすい環境を整えるなどの工夫をしている。
また，施設・予算に関しては，社会教育費から歳出する大規模な施設改修はあったが，施設の建設は行われておらず，臨時の歳出等による予算の増加を除くと全体的な予算に大きな変化は見られない。平成20・21年度には，平成22年度に公民館から「まちづくりセンター」への移管に向けた大規模改修のため，一時的に予算が増加しているが，平成22年度に公民館が廃止となり関連する予算がなくなると，社会教育費は大きく減少した。

仙南地域広域行政事務組合

◆社会教育事業の変遷

分類	特徴的なことがら	事業名	事業実施年度
視聴覚教育	教材の主流が16ミリフィルムやスライドから，ビデオ，ＤＶＤへと移ってきたため，現在ではＤＶＤ教材を中心に教材整備を行っている。また，パソコンの普及により，スライドやビデオ編集などがパソコンでできるようになり，それに合わせて研修会もパソコンを使ったものが主流となった。	スライド・ＯＨＰ・録画・パソコン・総論放送利用研修会 メディア研修会 親子映画会 視聴覚教材センターフェスティバル ポスターデザイン講座 ワード・エクセル講座 パワーポイント・ホームページ・ビデオ編集講座 16ミリ映写機操作技術講習会 自作視聴覚教材コンクール	～ H18 H19 ～ 継続中 H14 ～ H19 H20 ～ 継続中 H21 H22 H14 ～ 継続中 ～ 継続中 ～ 継続中
文化振興	平成18年度より，企画財政課で行っている圏域文化活性化事業の一部が教育委員会へ移管となった。この事業は仙南地域ふるさと市町村圏計画の下位計画である広域活動計画に基づき，基金運用益を財源として，地域の子どもたちが興味・関心を持つことのできる事柄を通じて，次代を担う子どもたちと地域の文化を『はぐくむ』ことを目標として実施している。	ＡＺ９ジュニア・アクターズ養成事業 ＡＺ９パスポート事業 ＡＺ９エリアマップ事業	H18 ～ 継続中

◆社会教育関係施設一覧

施設名	備考
仙南芸術文化センター （えずこホール）	平成8年4月30日設置。 平成18年4月1日より仙南地域広域行政事務組合教育委員会の管轄となる。

◆予算の変遷

事務組合総額（単位：千円）

年度	予算総額	教育費	教育総務費	内訳		社会教育費	内訳		圏域文化振興費	内訳	
				教育委員会費	事務局費		視聴覚教材センター費	情報通信技術講習事業費		圏域活性化事業費	仙南芸術文化センター費
H12	4,806,400	37,144	23,914	592	23,322	13,230	13,230	—	—	—	—
H13	5,734,791	38,085	24,186	775	23,411	13,899	13,446	453	—	—	—
H14	5,469,525	41,070	27,627	591	27,036	13,443	13,443	—	—	—	—
H15	4,779,086	37,952	26,154	721	25,433	11,798	11,798	—	—	—	—
H16	4,735,939	38,844	26,897	597	26,300	11,947	11,947	—	—	—	—
H17	4,785,340	36,797	25,082	541	24,541	11,715	11,715	—	—	—	—
H18	4,716,618	177,654	25,272	456	24,816	11,455	11,455	—	140,927	17,946	122,981
H19	4,460,157	165,279	26,118	542	25,576	9,763	9,763	—	129,398	15,187	114,211
H20	4,506,499	164,439	36,475	479	35,996	8,882	8,882	—	119,082	9,193	109,889
H21	4,485,724	154,545	37,111	612	36,499	7,872	7,872	—	109,562	9,168	100,394
H22	5,001,078	158,883	29,682	479	29,203	5,643	5,643	—	123,558	9,433	114,125

［考察］

10年間の推移をみると，平成18年度より，仙南芸術文化センター（えずこホール）が仙南文化振興財団から仙南地域広域行政事務組合の直営に移行し，あわせて企画財政課で行っていた圏域文化活性化事業が教育委員会の事業になったため，新たに圏域文化振興費が発生している。また，平成20年度以降，圏域活性化事業費が大幅に減少しているが，これは文化振興係の人件費が圏域活性化事業費から教育総務費に変更になったためであるので，教育費全体はほぼ変化していない。なお，視聴覚教材センター費で購入している教材について，平成19年以降16ミリ映画フィルム教材の購入はなく，代わりに録画教材（ＶＨＳ）とＤＶＤ教材を購入している。

◆社会教育年表

年	月	日	事項
平成12年			
	9月	28日	全国自作視聴覚教材コンクール
	～	29日	・入　選　「高山植物探訪」　制作　大河原町　大浦利昭
平成13年			
	2月	10日	宮城県自作視聴覚教材コンクール
	～	11日	・最優秀賞「間引きと赤子育成政策」（学校教育スライド）
			制作　ふるさとの文化サークル「おはこ」及川義行　服部和憲　小室かつゑ
			・優秀賞　「伝えたい祖先の心～丸森町の文化財・限東編～」（社会教育スライド）
			制作　丸森町　伊藤博道
			・優秀賞　「子どもの遊びを支援するWebサイト集」（コンピュータ）
			制作　白石市立福岡小学校長峰分校　渡部　敬
平成14年			
	2月	9日	宮城県自作視聴覚教材コンクール
			・最優秀賞「二人三脚で…炭を焼く」（社会教育ビデオ）
			制作　七ヶ宿町　島津照夫
			・最優秀賞「飛べない白鳥～10年の記録～」（社会教育スライド）
			制作　大河原町自作視聴覚教材制作グループ　小室かつゑ
			・優秀賞　「総合学習のためのスライド『東根ふしぎ発見』」（学校教育スライド）
			制作　角田市立東根小学校　大脇賢次
	8月		教材センター　ノンリニアビデオ編集システム整備
	9月	5日	全国自作視聴覚教材コンクール
	～	6日	・入　選　「総合学習のためのスライド『東根ふしぎ発見』」
			制作　角田市立東根小学校　大脇賢次
平成16年			
	2月	15日	宮城県自作視聴覚教材コンクール
			・最優秀賞「じいちゃん　おたまじゃくしをたすけてあげようよ」（社会教育ビデオ）
			制作　七ヶ宿町　島津照夫
			・最優秀賞　「終息の儀式と契約講」（社会教育スライド）
			制作　ふるさとの文化サークル「おはこ」及川義行　服部和憲　小室かつゑ
			・優秀賞　「北原尾を開く」（学校教育スライド）
			制作　蔵王町立遠刈田小学校視聴覚教育部代表　蓬田義廣
	8月		教材センター　平成15年度視聴覚教育功労者表彰（文部科学省より）小室かつゑ氏
平成16年			
	2月	14日	宮城県自作視聴覚教材コンクール
			・最優秀賞　「漢字練習ソフト」（コンピュータ）
			制作　白石市立福岡小学校　平間　晃　　七ヶ宿町立湯原小学校　渡部　敬
			・優秀賞　「おいしい梨ができるまで」（学校教育ビデオ）
			制作　蔵王町視聴覚教材制作グループ　日下朝男
			・優秀賞　「野鳥の楽園」（社会教育ビデオ）　制作　大河原町　大浦利昭
			・優秀賞　「今に生きる俗信」（社会教育スライド）
			制作　ふるさとの文化サークル「おはこ」代表　及川義行
平成17年			
	2月	19日	宮城県自作視聴覚教材コンクール
			・最優秀賞「結界」（社会教育スライド）
			制作　ふるさとの文化サークル「おはこ」代表　及川義行
			・優秀賞　「東集団を開いた人々」（学校教育スライド）
			制作　蔵王町立遠刈田小学校視聴覚教育部代表　蓬田義廣
			・優秀賞　「命つながる蔵王の湿原」（社会教育ビデオ）
			制作　大河原町　大浦利昭
			・優秀賞　「Web検定教材作成支援ソフト」（コンピュータ）
			制作　白石市立福岡小学校　平間　晃
	9月		教材センター　平成17年度視聴覚教育功労者表彰（文部科学省より）及川義行氏
	9月	9日	全国自作視聴覚教材コンクール
			・入　選　「太鼓づくり５代目～日本一の音を求めて～」
			制作　大河原町自作視聴覚教材制作グループ
平成18年			
	2月	18日	みやぎマルチメディアコンクール　～マメコンみやぎ～（宮城県自作視聴覚教材コンクール）
			・最優秀賞「村田商人と紅花」（学校教育スライド）
			制作　村田町立村田第二小学校　鈴木哲也
			・優秀賞　「大河原の柳人　蔦　作太郎」（学校教育スライド）
			制作　大河原町自作視聴覚教材制作グループ小室かつゑ　及川義行　齋藤和志
			・優秀賞　「金色の夢を追いかけて　～三宅物語～」（社会教育ビデオ）
			制作　村田町視聴覚教材研究会　代表　髙橋定光
			・優秀賞　「バランスちゃん（三食の食べ物）」（コンピュータ）
			制作　七ヶ宿町立湯原小学校　渡部　敬

年	月	日	事項
平成18年			
	4月		教材センター　仙南広域教育委員会行政組織規則全部改正施行（仙南芸術文化センターの管理及び運営に関する事務並びに仙南地域ふるさと市町村圏計画広域活動計画に基づく事業に関する事務の追加）
	9月	22日	全国自作視聴覚教材コンクール ・入　選　「村田商人と紅花」　制作　村田町立村田第二小学校　鈴木哲也 ・入　選　「金色の夢を追いかけて　～三宅物語～」 制作　村田町視聴覚教材研究会　代表　高橋定光
平成19年			
	2月	17日	みやぎマルチメディアコンクール　～マメコンみやぎ～（宮城県自作視聴覚教材コンクール） ・最優秀賞「松尾観音堂の歴史　～文化財の昔・今・未来～」（学校教育スライド） 制作　村田町立村田第二小学校　鈴木哲也 ・最優秀賞「ゆきんこちゃん　-みやぎの雪国-」（コンピュータ） 制作　白石市立白石第二小学校　渡部　敬 ・優秀賞　「郷倉　その役割」（社会教育スライド） 制作　大河原町自作視聴覚教材制作グループ　及川義行 ・優秀賞　「白石歴史探検マップ（地図で見る白石市の歴史）」（コンピュータ） 制作　白石市立福岡小学校情報教育研究部　山形圭介
	9月	14日	全国自作視聴覚教材コンクール ・入　選　「鎧着を脱いで　～樹氷物語～」　制作　大河原町　大浦利昭
平成20年			
	2月	16日	みやぎマルチメディアコンクール　～マメコンみやぎ～（宮城県自作視聴覚教材コンクール） ・最優秀賞「東北に来た源頼朝～文治五年奥州合戦～」（学校教育スライド） 制作　村田町立村田第二小学校　鈴木哲也 ・最優秀賞「宮城野・信夫仇討物語」（社会教育ビデオ） 制作　大河原町自作視聴覚教材制作グループ　大浦利昭 ・優秀賞　「職人の技　下駄づくり」（学校教育ビデオ） 制作　大河原町立大河原南小学校視聴覚教育部　齋藤和志 ・優秀賞　「川のよごれから学ぶ」（学校教育スライド） 制作　角田市立枝野小学校　大脇賢次 ・優秀賞　「アサギマダラ　～長距離移動のひみつ～」（社会教育スライド） 制作　大河原町自作視聴覚教材制作グループ　及川義行 ・優秀賞　「『火山灰ってどんなもの？』金ヶ瀬放課後子ども教室夏休みの活動から」（社会教育ビデオ） 制作　大河原町金ヶ瀬公民館　角田真由美 ・優秀賞　「エネルギー学習Web教材『デンキマン』」（コンピュータ） 制作　白石市立福岡小学校情報教育研究部　平間　晃
平成21年			
	2月	14日	みやぎマルチメディアコンクール　～マメコンみやぎ～（宮城県自作視聴覚教材コンクール） ・最優秀賞「学徒動員　第一海軍火薬廠と青春の日々」（学校教育スライド） 制作　大河原町立大河原南小学校　齋藤和志 ・最優秀賞「蔵王の自然　守れ，蔵王の水環境」（社会教育ビデオ） 制作　蔵王町教育委員会生涯学習課　代表　村上重吉 ・最優秀賞「仙南地方の絵馬　～託された願い～」（社会教育スライド） 制作　大河原町自作視聴覚教材制作グループ　及川義行 ・優秀賞　「白石川をしらべる　川のすがたとはたらき」（学校教育ビデオ） 制作　大河原町教育委員会自作教材制作チーム　代表　小荒井太一 ・優秀賞　「しずくんの川探検」（コンピュータ）　制作　白石ICT研究会　渡部　敬 ・優秀賞　「宮城県観光教育教材」（コンピュータ） 制作　白石市立福岡小学校情報教育研究部　平間　晃
	9月	11日	全国自作視聴覚教材コンクール ・入　選　「学徒動員　第一海軍火薬廠と青春の日々」 制作　大河原町立大河原南小学校　齋藤和志 ・入　選　「仙南地方の絵馬　～託された願い～」 制作　大河原町自作視聴覚教材制作グループ　及川義行
平成22年			
	2月	20日	みやぎマルチメディアコンクール　～マメコンみやぎ～（宮城県自作視聴覚教材コンクール） ・最優秀賞「縄文土器を作ってみませんか」（学校教育スライド）　制作　丸森町　齋藤良治 ・優秀賞　「地域の地質，地形を知ろう～静かに眠る化石や地形の形～」（学校教育ビデオ） 制作　大河原町教育委員会生涯学習課自作視聴覚教材制作チーム　代表　小荒井太一 ・優秀賞　「揚水鈴　毛利萬之助」（学校教育スライド）制作　角田市立枝野小学校　大脇賢次 ・優秀賞　「甦れ！筆甫のたたら製鉄」（社会教育ビデオ） 制作　丸森町筆甫自作教材グループ　鈴木俊光　伊藤博道　吉澤武志 ・優秀賞　「蔵王　自然体験活動のすすめ」（社会教育スライド） 制作　蔵王野外教育研究会B班　代表　服部和憲 ・優秀賞　「俳句学習教材『おくのほそ道』」（コンピュータ） 制作　白石市立大鷹沢小学校情報教育研究部　平間　晃

平成２３年度
大河原地区社会教育主事研究協議会　研修視察要項

１　目　的

生涯学習の充実が求められる今日，その先進地を視察することにより，管内の各市町における今後の生涯学習及び社会教育推進に役立てるとともに，社会教育主事としての資質の向上と豊かな発想力を培う。

２　期　日　平成２３年１０月１２日（水）　午前８時３０分～午後４時５０分

３　視察先

（１）富谷町　富谷町武道館
　〒981-3305　宮城県黒川郡富谷町一ノ関字臑合山６－８

（２）富谷町　富谷町成田公民館
　〒981-3341　宮城県黒川郡富谷町成田一丁目１番地１

４　主な視察内容

（１）富谷町学校支援地域本部事業について
　富谷町教育委員会教育長　菅原　義一　氏
　富谷町教育委員会教育次長　佐藤　信夫　氏
　富谷町教育委員会生涯学習課長　佐藤　英樹　氏

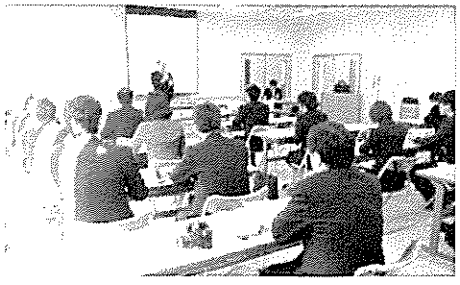
（２）地域コーディネーターの取組について
　富谷町成田公民館地域コーディネーター　佐藤　英子　氏

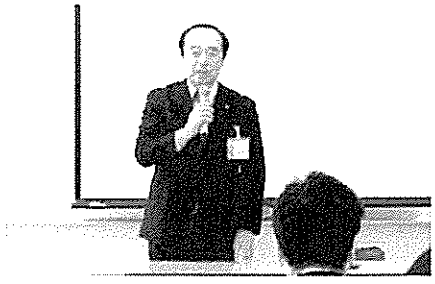
（３）社会教育連携担当職員の取組について
　富谷町立成田小学校教諭　阿部　勝　氏

５　参加者　大河原地区社会教育主事研究協議会会員及び関係職員　１９名

６　日　程

村田町中央公民館（８：３０発）　⇒　富谷町武道館（１０：００着）
≪１０：００～１２：００　研修１　富谷町学校支援地域本部事業について≫
富谷町内　昼食・休憩　⇒　富谷町成田公民館（１３：００着）
≪１３：００～１４：３０　研修２　地域コーディネーターの取組について≫
≪１４：３０～１５：３０　研修３　社会教育連携担当教員の取組について≫
成田公民館（１５：３０発）　⇒　村田町中央公民館（１６：５０着）





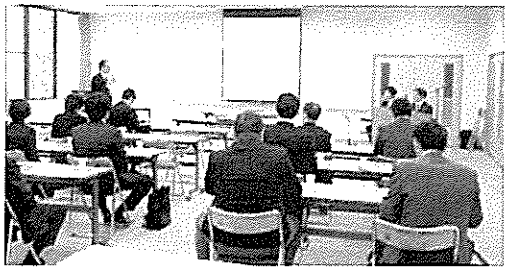
7　研修視察の概要

（1）富谷町学校支援地域本部事業について

①　富谷町について

富谷町は，近年，住宅団地や工業団地が目覚ましく造成され，年間およそ１，０００人程度人口が増加している。平均年齢も３９．２歳と子育て世代が多く集まる町で，「幸せを実感でき，笑顔輝く，あったかい富谷」をキャッチフレーズに，多くの施策に取り組んでおり，教育満足度日本一のまちを目指して教育に力を入れ，全学校に特別支援指導員２名，全学校と公民館に図書館司書を配置，公立幼稚園２校，小学校７校，中学校２校，高等学校１校，支援学校１校，公民館６館が設置されている。

この中で，「学びのまち富谷」をスローガンに豊かな生涯学習機会の創出として，学校・地域・社会教育団体の相互連携，町民同士が互いに教え，学びあう，そして地域間の交流と世代間の交流に取り組み，学校教育の充実として，一人一人の個性や能力をはぐくむ教育内容，教育方法の工夫，豊かな情操と道徳性を備えた人間性をはぐくむ，学校・地域・行政の連携強化による環境づくりに取り組んでいる。



②　事業の狙いと特色について

富谷町では学校支援地域本部事業を「富谷町地域と学校をつなぐ取組」という名称で行っている。ねらいは３つあり，地域の大人の包容力に支えられた様々な体験・経験により，子どもの豊かな学びを実現することで「学校教育活動の更なる充実」を図ること。地域住民が持っている，それぞれの知識・経験を子どもたちの教育に生かす「生涯学習社会の広がり」，このような場面を用意し，地域住民が学校を拠点に協働することで「地域住民同士のきずなを深める」ことがねらいである。

事業の特色は４点あげられ，学校支援地域本部を公民館に設置，支援テーマの設定，窓口の明確化，双方向での支援体制である。

まず，「学校支援本部を公民館に設置」について，公民館には，中学校区にある小学校と中学校を連携して支援できる点，地域素材である人・物・事の情報量が多いという利点があり，学校支援地域本部を公民館に設置することで，保護者の一部やＰＴＡが学校を支援するだけでなく，地域住民が学校の支援を行うことができ，学校と地域，子どもと大人，大人同士が地域づくりに関わることができるようになると考えている。

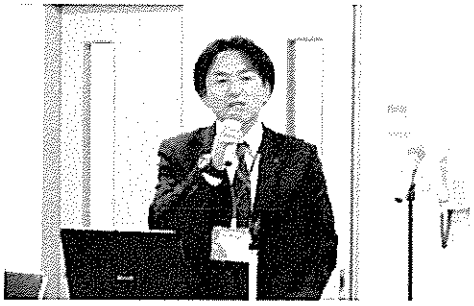
次に，「支援テーマを設定」した理由は，学校や地域によって特性・特色というものがあるので，全ての支援に取り組むのではなく，まずはその学校や地域がこれまで育んできた教育財産を生かし，それを伸ばすことから始めることでスムーズに運営ができると考えたからである。

さらに，「窓口の明確化」では，学校に社会教育連携担当教員を位置づけることで，学校支援の依頼の窓口を一本化している。この社会教育連携担当教員について，学校の窓口というと教頭がなることが多いが，教頭は何かと多忙であることから，教諭が担当になるようにお願いしている

また，各公民館に地域コーディネーターを２名配置し，１名は公民館の社会教育指導員で，事業の企画・運営，学校との交渉や支援内容の計画を行い，もう１名は地域の人・物・事を熟知している地域の方に委嘱し，支援内容に合わせた人材の紹介やボランティア同士のつなぎ役をしてもらっている。支援の仕組みとしては，学校から支援依頼が社会教育連携担当教員を通じて公民館へ来たら，地域コーディネーター２名が地域に呼びかけをし，人が決まれば，コーディネーターが学校と地域の間の調整を行っている。

なお，お茶出しや校長室での挨拶などは，学校への負担も多いため，ボランティアも気軽に入れるよう，職員室で支援のはじめと終わりに一言あいさつしてもらうだけで出入りができるようにお願いしている。

「双方向の支援」については，先生方に地域の方に何か授業をしてもらいたいと生涯学習課から呼びかけ，公開講座をしてもらう「富谷ティーチャーズスクール」を開催し，「地域から学校へ」だけではなく，「学校から地域へ」という取組をしている。



③　組織について

学校支援地域本部の組織については，まず５つの支援本部の上に「富谷町地域と学校をつなぐ実行委員会」があり，ここで「地域と学校をつなぐ取組」の事業方針を決め，評価を行っている。実行委員会のメンバーは実行委員長に教育長，副委員長に学校長，地域本部ごとに地域コーディネーターを含めて４名，実行委員のアドバイザーとして宮城県社会教育委員である東北学院大学の水谷修教授にも入っていいただき，事務局を含め３０名で組織している。

また，５つの支援本部では各地区の地域教育協議会を本部内に設置しており，地域と学校をつなぐ具体的な事業計画と支援方法，そして評価を行っている。

なお，協議会のメンバーは富谷地区地域教育協議会の場合，地域・学校・行政の三者で多角的な視野，それぞれの得意分野を取り入れて支援を進めるため，地域の代表者として行政区長，民生委員，学校外部評価委員，家庭の代表者として各小学校ＰＴＡ会長，行政代表として公民館副館長，地域コーディネーター２名の計１１名で構成している。

④　具体的な取組

具体的な取組については，富谷小学校で今までたくさんあった支援の中の３つを紹介する。

１つ目はクラブ活動，伝承芸能クラブへの支援。２つ目は１年生の生活科，昔の遊びの授業支援。３つ目は３，４年生の算数・そろばん学習への支援である。

まず，伝承芸能クラブへの支援については，富谷田植踊り保存会の方々と連絡を取り，講師を派遣している。

このクラブ活動支援は学校支援本部が立ち上がる前から生涯学習課で支援し，学校と協働で行っていたが，今までの活動をさらに広げるため，学校支援地域本部で行っている。学校の負担軽減のため，学校側の講師派遣依頼や日程の調整等の支援を行い，伝承芸能クラブの担当教員が転任しても継続的な地域芸能の伝承が行えるようにしている。

また，クラブ活動では地域からの依頼で地元の祭りなどに出演することもあり，その際には着付けや化粧を地域のボランティアの方がしているため，子どもたちが地域の大人と自然に触れ合う機会もできる。

２つ目の生活科の授業支援は，社会教育連携担当教員が，１年生の担任から昔のお正月の遊びを教えてほしいが，富谷の場合，１年生のおじいさん・おばあさんは５０代の若い人が多く，また，同居していない家族も多いため，誰か教えてもらえる人はいないかということで地域コーディネーターに依頼があった。

当日は１５名のボランティアが参加し，子どもたちはもとより，ボランティアも交流を楽しみにしていたようで，自主的に昔の遊びの絵や雰囲気作りのための灯篭を持参するなどしてもらった。しかし，自主的に持ってきてもらえるものが多すぎると４５分や９０分の授業の中でねらいが達成されないこともあり，事前の打ち合わせが大切であることを再認識した。

３つ目のそろばんでの授業支援については，小学生のそろばん学習は珠の置き方，はらい方，簡単な足し算程度であるが，教員１人で４０人の児童を指導するとなるとかなり大変であることに加え，そろばんを使ったことのない教員も増えてき

ているという現状もあり，担任からそろばん学習にも支援がほしいとの相談があった。

依頼は電話とＦＡＸを活用して受け付けており，教員が活動内容・連絡事項・人数・時間等を規定の様式に記入し連絡している。

授業では３人の児童に１人のボランティアがつき，教員は黒板で説明をするだけで，後はボランティアにそれぞれの児童を見てもらうことができ，児童４０人それぞれの技能とスピードに合わせた支援を行うことができた。

⑤　成果と今後の取組について

成果と課題については，実行委員会のアドバイザーであった東北学院大学の水谷教授に３年間の文科省の事業が終わるに当たり，取組について評価していただいた。

成果は４つあり，１つ目は「地域の特性を生かしつつ，町全体で推進された」ということで，全ての中学校区に学校支援地域本部の設置と，地域コーディネーターが配置され，地区単位で事業に取り組む仕組みを作り，それを支えるために実行委員会が教育委員会内に置かれ，町全体で推進する体制が作られたことを評価している。ソフト面においては，各地域の特色を生かせるよう，それぞれの地区でテーマを設定し，活動に具体的にかかわるスタッフや住民に近いところで意思決定が行われるようになったことにより，地区の合議の形成が図られたことが評価されている。

２つ目は「過去の経験を基盤に，できるところから無理なく活動の輪を広げた」ということで，コーディネーターやボランティアは自らの役割を一つ一つ確認して，さらにできることは何だろうと自分で責任を持ちながら行動の範囲を広げていったという点を評価している。

３つ目は「公民館がコーディネーターの役割を果たした」ということで，地域の拠点として設置されている公民館に，学習ニーズや学習支援のための情報やノウハウ等を蓄積し，地域づくりの機能を併せ持つなど地域と学校をつなぐ資源がたくさんあるので，これらの強みで本事業が公民館を中心として仕組まれているというのが有効だったとしている。

４つ目は「地域間の情報交換・成果の発信」ということで，地域の実践重視の方針，地域特色を生かした活動は反面，活動の企画や組織運営に対して視野が狭くなり，ばらばらになってしまうので，ある程度一つに保つために，実行委員会で各地域本部の取組を紹介したことを評価している。これによって他の地区ではどのような取組を行っているかを知るだけでなく，自分がどのような活動を行っているのかを振り返ることができるということであった。

今後の課題については，３点挙げられ，これらの課題についてのアドバイスもいただいた。１点目は「ねらいの再確認，取組の評価，改善を図る」ことであった。

これらを行うことで，事業を今のまま止めるのではなく，次は何かということを考え，今のテーマからさらに次のステップのテーマを設定してもよいのではないかということであった。

２点目は「学校と地域の住民の相互理解を図る」ことで，情報がある程度住民の一部にしか伝わらないところがあるので広報活動を努力していきたいと考えている。

３点目は「教育課程の中に活動を位置づける」ことで，これについては，富谷小学校では教育計画の中に「地域と学校をつなぐ取組」という項立てを入れ，４月の職員会議で公民館からどのような支援を受けられるかということを話して，転任の教員でもこのような取組があることがわかるようにしているが，町全体で位置づけるようこれから提案していきたいと思っている。

この取組で一番押さえたいところは，「大人と子どもが一緒の時間を共有する支援」で，顔の見える支援がなければただのサポートで終わってしまうので，このような支援があって，地域づくりの一助として学校地域支援本部事業が安定的・継続的・発展的に展開していくのではないかということで富谷町は取り組んでいる。

⑥　質疑応答

質問１：地域コーディネーターのうち，社会教育指導員でない方々はどのような方か。また，コーディネーターは育成しているのか，コーディネーターになった経緯はどのようになっているか。さらに，週当たりの勤務頻度，居場所はどうなっているか。

回　答：地域のことをよく知っている方，また，成田地区のように音楽をテーマにしているところは音楽に精通している方ということでこちらからお願いした。育成については，育成ではなくその方の持っているものを見てこちらで見極めてお願いをした。勤務頻度については，社会教育指導員の地域コーディネーターは公民館にいるが，地域の方は平均で週に１回か２回である。２週間支援事業がない場合は勤務が無く，支援事業が１週間続く場合には１週間続けて勤務することもある。居場所は公民館になっているが，直接学校に行くこともある。

質問２：各地区のボランティアの活躍の様子は，何らかの方法で町民にお知らせしているのか。

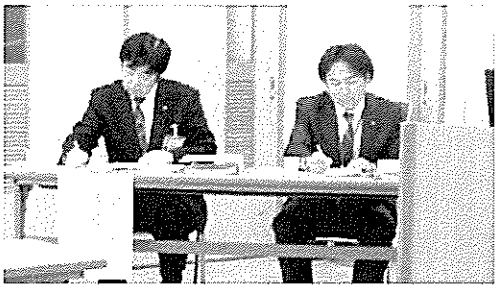
回　答：学校支援ボランティア募集のチラシの裏に取組を記載し，地区の全戸に配布している。また，各地域本部で学校支援地域本部に関係するたよりを作成したり，各公民館だよりに記事を掲載したりしている。なお，富ヶ丘・日吉台地区では独自に事業案内チラシを作成している。ＰＲについては，上意下達でこれをやってくださいというと地域本部の特性が失われるので各本部に任せている。そのほうが驚くような提案が出てきたりもする。

質問３：事業を始める際に，参考にした市町村はあるか。

回　答：特段参考にした市町村はない。平成１５年に県の教育委員会主催の社会教育主事等の専門委員会に２名の職員を派遣して，大学教員から指導を受けて公民館事業のネットワーク化の調査研究に取り組んだ経緯があり，１６年から３年間余り日吉台中学校と学社融合事業に取り組んだ。これが今の学校支援につながる事業となり，この３年間の実績を踏まえて，次のステップとして学校支援につなげた。

質問４：とみやティーチャーズスクールでは，平日の日程が多いが，参加者はどれくらい集まるのか。また，内容について，保護者や地域の方の要望をアンケート等で集約しているか。さらに，講師の先生に謝礼は出ているのか。

回　答：平均して１５人から３０人ほど集まる。要望はアンケートでは集約していない。４月に校長会を通して，先生方一人一人が持っている特性，特技そういったものを地域の方々に教えていただけませんか，ということで行っている。授業の材料費として３，０００円は出しているが，謝礼は出しておらず，ボランティアである。つなぐ取組では学校へ地域の方々を出しているがそちらもボランティアであるので，教員もそのような趣旨で地域のために活躍していただいている。



（２）富谷町成田地区の学校支援地域本部事業について

①　成田地区学校支援地域本部コーディネーターからの説明

この成田公民館は，富谷町の中でも一番新しく，平成１４年１１月に開館し，社会教育事業や公民館事業を平成１５年度から開始した。私は，その時に社会教育指導員として勤務が始まり，今年で９年目になった。

富谷町の「地域と学校をつなぐ取組」は，平成２０年度から始まったが，実際の活動は平成２１年９月から始まった。地域の学校に地域のみなさんが足を運んで，授業の支援等を行ってきた。国の事業としては平成２２年度で終了したが，平成

２３年度も富谷町独自の取組として，これまでの活動を充実させるべく進めている。

成田地区においては，「音楽で心を重ねよう」というテーマを設定した。富谷町では各地区で取組のテーマを設定している。成田地区は，富谷町の中でも一番新しい団地で，今もまさに新しくつくられているところである。団地の平均年齢が３９．５歳という，とても若い町である。初めは小学校は成田東小学校だけだったが，あっという間に人口が増え，５年ほど前に成田小学校ができた。他に成田中学校があり，この３つの学校を対象に支援活動を行っている。成田東小学校では開校当初から音楽に力を入れていた。そういったこともあり，成田小学校と成田中学校の校章には音符のマークがデザインされている。その成田東小学校では，開校当初から「せせらぎコンサート」というものを行っていて，１年生から６年生まで合唱の発表を行う。昨年度から，「地域と学校をつなぐ取組」の一環として，このコンサートに地域の方々も参加し発表を行っている。

成田地区には他県や他の市町村から移り住む人が多く，社会教育事業の参加者も，出身地は富谷町以外の人が多い。北は北海道，南は九州という状況である。富谷町の一員として，成田地区を第二のふるさとにしてもらう時に，音楽を通して何ができるだろうかと考えた。そうした時に，富谷町にすばらしい町民歌がある。そして，ずっと前からその町民歌を歌っている「みんなのうた」というコーラス隊が成田公民館にあった。そこで，学校での音楽を通した支援として，漠然とした曲よりもみんなで歌える共通の曲がいいのではないかと考え，「みんなのうた」に学校支援ボランティアとして協力をいただき，子どもたちと町民歌を広める取組を行ったのが最初の支援事業だった。ボランティアの方々も，「学校で子どもたちとかかわれるのなら」と，多くの方に参加をいただいた。

朝の会の時間に歌ったり，学年ごとに手遊びなどを交えながら取り組んだりと，少ない時間しかなかったが工夫をしながら事業を行った。富谷町からも，全学校に町民歌のＣＤを配布してもらうなど，スムーズな形で取り組むことができた。

平成２１年度は，音楽の授業の支援ということで，６年生の教諭から和楽器を聞かせてほしいという依頼があった。成田地区に箏の先生がいたので，ボランティアとして活躍していただいた。さらに，２年生と５年生では，バイオリンなどの洋楽器を聴く機会を授業の中の支援という形で行った。

平成２２年度は，継続して実施した支援のほか，新たにリコーダーの指導を実施した。

成田地区では，初年度から学校支援ボランティアの方々を「学校支援ボランティア」というと堅いイメージがあるので「キッズ応援隊」と呼んでいる。

また，「キッズ応援隊のつどい」という学校支援ボランティアの研修会を実施している。この取組で一番の要となっていただくのが「キッズ応援隊」，学校支援ボランティアで，この方々がいなければ成り立たない取組である。地域の多くの方々にこの取組の趣旨を理解していただいて，「キッズ応援隊」に登録していただく。そういった方々を増やしていきたいということで，平成２２年の１月に１回目を，８月に２回目を行った。

これまで，学校に様々な形で支援を行ってきたが，支援をしていただく「キッズ応援隊」の方々はある程度限られた方々だった。地域の方々にこの取組のことを理解していただくにはどうしたら良いのかと考えていたところだった。そういった地域の方々に対して，公民館で何かできることはないかと考えたときに「音楽の広場」というものをやってみたらどうだろうということになった。地域の保護者や，学校まではなかなか足を運ぶことができないが歌が好きな方，この取組に興味や関心のある方などに声をかけて開催した。子どもたちが学校ではなく，地域の公民館で地域の方々とふれあうことにより，地域の一員であるということを認識してもらえるような場になればというねらいで実施した。カラー印刷した開催チラシを２，０００世帯全戸に配布し，第一部では「キッ

ズ応援隊」によるミニコンサートとして，支援をいただいた箏やバイオリンの先生，「みんなのうた」などをはじめとした皆さんのコンサートを，第二部ではふれあいタイムとして実際に楽器に触ってみたり，町民歌や童謡を歌ったりと，子どもから大人まで楽しめる内容で開催できた。初めての開催となった去年は台風の影響等もあり参加者が少なかったが，２回目となる今年は本当に多くの子どもたちや地域の方々に参加していただいた。１００部準備していた当日の資料が足りなくなるなど，嬉しい悲鳴をあげた。

このように，学校での取組を，地域，公民館などに移すことにより，これまで知らなかった人たちにもこの「地域と学校をつなぐ取組，成田地区の音楽で心を重ねようという取組」のことを少しでもわかっていただけるようになったのかなと思っている。

「音楽で心を重ねよう」というテーマで活動を行ってきたが，学校から「音楽だけしかできないのか，他の取組はやってもらえないのか」という話もあった。確かに，音楽以外の授業の支援も大事ではないかということで，他の取組も行った。

そこで，クラブ活動の支援として和凧作りを行った。これは，成田地区に和凧作りの講師がいなかったので，他の地区のコーディネーターや生涯学習課に連絡をし紹介していただいた。講師には一度だけではなくクラブ活動のあるたびに足を運んでいただいた。さらに，「キッズ応援隊」の中から，音楽では支援ができないが他のことならできるという方々に協力をいただき，子どもたちの中に入ってもらって凧作りのお手伝いをいただいた。「音楽で心を重ねよう」というテーマからは外れるが，良い取組だったと感じている。

他にも，中学校からハーフパンツをミシンで縫いあげる授業の支援の依頼があり，生涯学習講座から立ち上がったパッチワークサークルの方やミシンの得意な方に協力をいただき支援を行った。中学校からの支援依頼は少ない状況である。さらに，小学校と違い１時間ごとに教科担任が違うため，時間制約も小学校と比べて厳しいところが学校支援の取組が難しいところなのかなと感じる。だが，何か中学校から声がかかればすぐにでも出向き，支援ができればと考えている。

また，昔遊び交流はこの「地域と学校をつなぐ取組」が始まる以前の８年前から行われている活動で，公民館で活動している高齢者団体「和みの会」の方々に協力をいただいて実施した。ハンディキャップ体験として手話体験を行ったり，プールの授業の見守り支援など，様々な支援活動を、できる人が，できる時に，無理なく支援をしていただくということを基本とした。学校に対して支援を強要することなく，学校のニーズに応えられるよう実施している。町内５館それぞれで行っている取組なので，他の地区で実施している取組の情報交換を行いながら，他の地区で活躍しているボランティアの方を紹介してもらうなど，なるべく学校のニーズに応えられるように努めている。

手づくりではあるが「キッズ応援隊だより」を発行し，活動の周知を行っている。文字中心ではなく写真中心として作成している。もっと多く発行できればよいが，なかなか難しく年に１回の発行となっている。

これは，ボランティアの方から実際にあった話だが，「地域と学校をつなぐ取組」というと「学校？子どももみんな卒業したし，私には関係ないわ」といってチラシが届いても興味が無く見ないこともあったようだ。やはり，地域全体で，地域の子どもたちをわが子のように見守る，地域全体で子どもたちを支え，子どもたちが元気になることで地域も元気になる。様々なところから引っ越しをされてこの地区に来る子どもも，ぜひ，たくさんの大人に見守ってもらい，ここをふるさとと感じてもらうともに，地域の方々に守ってもらっているということを感じてもらい，和やかな雰囲気の地域にこれからなっていけばと思っている。

成田地区地域教育協議会という団体があり，町内会長やＰＴＡ会長，学校での「学校と地域をつなぐ取組」担当教員，公民館職員やコーディネーターをメンバーとしている。アドバイザーとして成田東小学校の校長先生に参加していただき，会

長には学校評議員の方になっていただき，組織づくりをしている。この協議会で学校支援の取組について協議を行っている。

（富谷町教育委員会生涯学習課長より補足）

実際，この取組は平成２１年度の半ばから始まっているが，組織等の準備に１年以上かかっている。校長会や教頭会などで説明しても，なかなか理解を得ることができなかったようだ。また，各学校にはそれぞれ「学校サポーター制度」があり，ボランティアの方から支援をいただいていたし，各学校のＰＴＡによるボランティア活動も行われてきていた。そういったところとのすみ分けはどうするのかといった意見も当時はあったようである。そういった中で，説明を重ね，町内会長などにも説明をしながら取組を進めてきたというのが実際である。

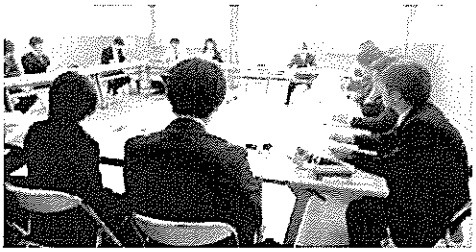
② 質疑応答

質問１：学校は年間のスケジュールがびっしりと詰まっているという印象だが，どのように支援の時間を確保していったのか。

回　答：地域本部から学校に話をするということではなく，あくまでも学校支援という位置づけで，先生方からのニーズに応えるというスタイルをとっている。年度始めに年間の計画表をもらい，その中で打合せを行いながら，要望に応じた形で行っている。初めて学校に出向く場合は必ず学校，ボランティア，コーディネーターの三者で打合せを行っている。やはり，初めて学校に入るボランティアにとって，学校は敷居が高いと感じる。コーディネーターが間に入ることで和らげている。学校からの要望でも，実現が難しいものについてはできないということで回答している。

質問２：コーディネーターとしてどのような方法でボランティアの登録者数を増やしているのか。

回　答：「地域と学校をつなぐ取組」がどういったものなのかを多くの方々に知っていただくために，「キッズ応援隊のつどい」というボランティア向け研修会を行っている。多くの方に足を運んでもらえる工夫として，屋上緑化でボランティアの方に栽培してもらっているハーブを使用したハーブクッキーとハーブティーを準備し，美味しいものがあるので来てみませんかということで行っている。これが功を奏したのか，多くの方に参加いただき，準備していた分が足りなくなるほどだった。その研修会の場でボランティア登録をしてもらった人もいる。「音楽で心を重ねよう」というテーマをみて，「音楽ができないから…」と登録を遠慮していた方もいたが，音楽以外でも支援の場があることを説明し，登録をしてもらったケースもある。



③ 成田小学校社会教育連携担当教員からの説明

学校のなかで，地域と学校とのつながりを，学校側の立場で行いなさいということで，開校当時から成田小学校の担当としてかかわっている。私は社会教育主事もやってきているので中身はわかるが，一般の教員には中身がイメージできないようだ。チラシやパンフレットなども配布するが，初めから難しいものだと思いこみ敬遠する教員もいる。詳しい教員や，興味のある教員もいれば，残念ながら興味のない教員もいる。そういった教員を，どう巻き込んでいくかが学校側の担当としての責務ではないかと考えている。

学校においての社会教育連携担当教員の役割として，学校においての「地域と学校をつなぐ取組」の旗振り役として，学校の中で，この事業はこういう内容なんだということを何度も説明している。

年度始めに転勤してきた教員には取組の内容を教えていく。知っている教員もいるが，何度も何度も説明する。職員会議でも話をし，意識してもらえるよう努めている。朝の打合せなどでも頻繁に話をしているので，意識をしてもらっていると思う。何事も繰り返し話をすることが大事だと感じている。

また，年間計画の作成を行っている。各学年担当に，今年度どのような活動をしてみたいかを聞く。実現できるかどうかにかかわらず，地域の方に来ていただきたいと思う取組を聞きとる。このような活動はどうだろうかというアドバイスも行いながらとりまとめ，無理のないような形で計画を作成する。無理をしてしまうと，この事業自体を敬遠してしまうようになる。そこのとりまとめが腕の見せ所かなと思っている。

学校にも「支え隊」というボランティアもあるので，まずはそちらに依頼をして，そこで足りない場合に「地域と学校をつなぐ取組」の学校支援ボランティアに依頼をするなど，両方並立で取組を行っている。

２つ目として，学校と学校支援地域本部とのパイプ役としての役割がある。支援は担当の私を通して地域本部に依頼する。地域本部からも私を通して各学年に連絡をする。窓口役として，事業の流れを把握する必要があることから，学校としてこのような体制をとっている。コーディネーターから他の小学校の取組内容を教えてもらうこともあり，自分の学校でもやってみたいと思い実施した取組もある。コーディネーターからこのような活動をやってみませんかという問いかけもある。なるべく実現するよう学校としても努めており，コーディネーターとの連携を密にしている。コーディネーターがとても熱意のある方なので，取組が充実してきていると感じている。

成田地区地域教育協議会へも担当として参加している。地域にこのような方がいるよという話を聞いたり，学校での取組内容等を紹介しながら地域の方々とつながりが生まれる等，有意義な会議だと感じている。

この役割については，あまり負担になっているという感じではない。頻繁に打合せがあったり会議があったりということでもない。学校にも負担感が少ないような組織づくり，体制づくりが大切なのではないかと感じている。

実際の事業を行うまでの流れだが，基本は年間計画に基づいて実施している。依頼する学年と打合せを行い，地域本部に依頼書をＦＡＸで送る。簡単な内容で記載し，コーディネーターが支援者を探してくれる。ボランティアが見つかると，コーディネーターとの打合せになる。担当学年と直接の時もあれば，担当として私が入る時もある。打合せの時の記録をコーディネーターにまとめて作成してもらうことで，流れがはっきりわかる所がありがたいと感じている。

その後，実際に指導してもらうボランティアと依頼する学年との打合せを行う。事前の時もあれば当日直前の時もある。内容によってしっかり行うものと，事前の打合せ無しに授業を実施するものもある。

実践例として，水泳指導の補助を依頼した時のことだが，子どもたちの数も多いので，２人ぐらいの教員では目が届かない。ボランティアの方が一緒に見てくれるだけで，教員も安心して指導を行うことができるようになる。ボランティアの方々も，子どもたちとプールで触れ合うことをとても喜んでいたようだった。子どもたちも，そういったボランティアとの触れ合いを楽しんでいたようで，安心して水泳の授業を受けていたようだった。

幼いころから耳が不自由でいろいな苦労をしたという方の話を聞く活動として，手話教室を行った。子どもたちの反応を手話で通訳する方にも協力をいただきながら，手話を教えていただいた。こういった機会はあまり無いので，子どもたちも感銘を受けていたようだった。

「成田小学校まつり」という行事があり，地域の方々にも参加してもらいたいということで依頼を行った。ハーブサークルの方々に来ていただき，子どもや保護者の方と一緒に創作活動を行ってい

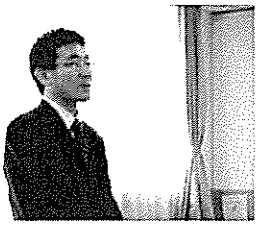
ただいた。サークルの方々もやりがいを感じたようで，ぜひ来年もやりたいというお話をいただいた。

子どもたちにとって，多くの大人と触れ合う機会は大事だと考えている。今後も様々な機会で依頼をしていきたいと考えている。

この取組を行っての成果だが，１つ目として，以前に比べて学校の教員に事業の内容が浸透し，理解が深まってきたと感じている。２つ目だが，事前の手続きや打合せを簡略化していただいたことで，気軽に依頼できるようになり，学校としても動きやすくなったと感じている。難しい手続きがあるとおっくうになり，二の足を踏んでしまうようになる。簡略化できるところは簡略化することが大事なのかなと感じる。３つ目として，地域の方々と子どもたちの交流の機会が増えたことだ。この地区は団地なので，様々なところから引っ越してくる方が多く，地域とのつながりが希薄になりがちだが，この地区はそうならないよう交流を大切にしているので，学校としても交流を大切にしている。４つ目は目的にせまる学習活動を実施することができたことである。実際に経験した方の話を聞くことや，子どもたちが実際に体験することは，教室で教科書を読んで学ぶよりも内容の濃い学習ができると感じている。その他にも，地域全体で子どもたちを育てるという雰囲気ができてきているように感じる。学校だけに任せるのではなく，子どもたちが学校から帰った後も地域の方々で子どもたちを見守るという雰囲気ができている。

なによりも，教員の仕事負担の軽減につながっていると感じる。他の教員にも話を聞いたが，そのような感じを受けている教員が多かった。そこの部分がこの事業の一番の趣旨であると思うので，そう感じる教員が多いということはこの事業を行っている意味が大きいということだと思う。

課題として，もっと活用する機会を増やしたい。増やしていかなければいけないと考える。少しでも事業の良さをわかってもらうために同僚の教員に働きかけを行う必要があると感じる。困った時やこのような活動をしたいな，このような方に来ていただきたいなと思った時に，この取組のことがすぐ頭に思い浮かぶような雰囲気づくりをすることが私の目標になっている。そうなるように励んでいきたい。



④　質疑応答

質問１：この取組を通して，子どもの様子はどのように変わったか。

回　答：地域の方々に見守ってもらっているという安心感が子どもの中にあるのではないかと感じる。また，子どもたちにコミュニケーションをとる力がついてきているのではないかと感じている。ボランティアに疑問に思ったことを質問したり，会話を通してより深く学ぼうとしたり，そのような子どもたちの様子が多く見られるようになってきていると感じる。全員ではないが，全体としてそのように感じる。さらに，子どもたちが地域の一員としての自覚を持つことができているのではないかと感じている。

質問２：学校独自にあるボランティア組織「支え隊」について，人数がどれくらいなのか，どのような活動を行ってきたのか，その方々に対する保険の対応はどうなっているのか。

回　答：名簿上は５０名ぐらいいると思う。主な活動はミシン縫いや本の読み聞かせ，校庭の除草，登下校時の見守り，主に低学年の校外学習の際の見守りなどがある。教頭からその都度依頼し支援をいただいている。年度始めに登録をしていただき，活動内容により登録をしている。保険については，学校で活動するボランティア対象に学校教育課で一括して保険をかけているため，「支え隊」の方も学校支援地域本部のボランティアも同じ保険が適用になっている。

質問３：社会教育連携担当教員ということだが，学級担任等をしているのか。

回　答：６年生担任である。

質問４：６年生担任でこの業務を行うことは大変ではないか。

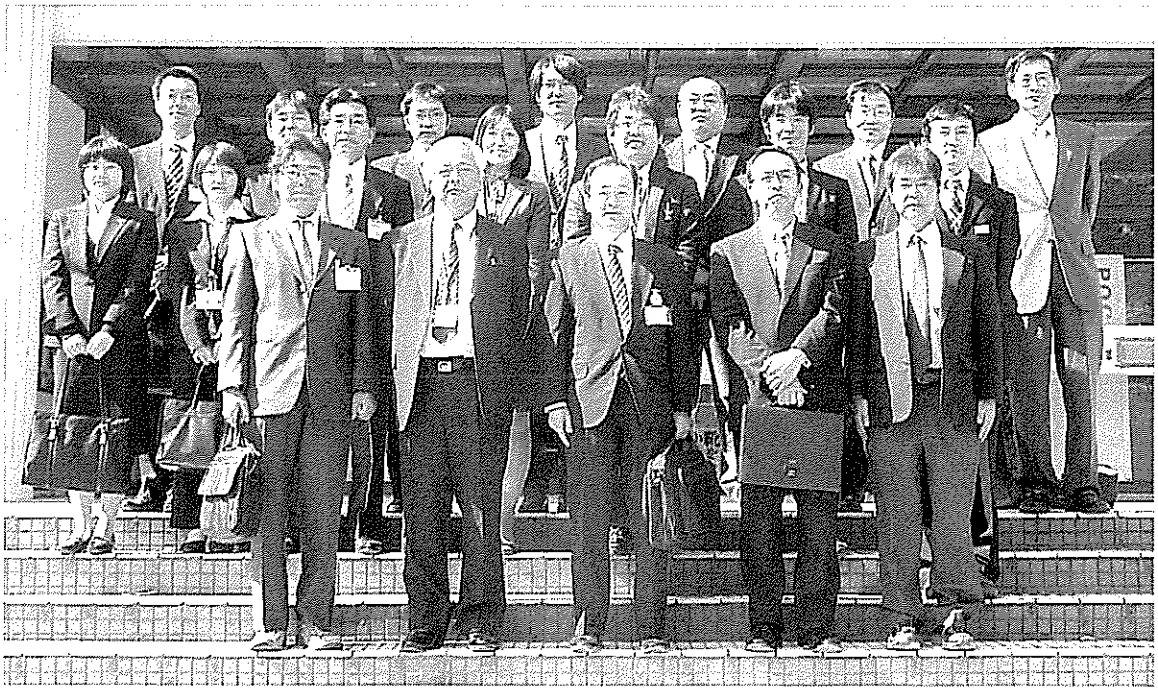
回　答：昨年度は学級担任をしていなかった。研究主任と少人数学級の担当だった。今年度は昨年度の流れの中で６年生担任となった。それ以外の校務分掌は持っていない。それぞれの学校で事情があると思う。学級担任をしていても，社会教育連携担当教員の仕事ができないことはないと感じている。

質問５：学校独自のボランティア「支え隊」と，学校支援地域本部の「学校支援ボランティア」の線引き，登録など，具体的にどのようになっているのか。

回　答：学校独自のボランティア「支え隊」の方は，ＰＴＡが中心になって協力をいただいている。学校としては，「支え隊」を優先して依頼をし，人手が足りない時などに学校支援地域本部の「学校支援ボランティア」にお願いをしている。また，授業での支援も「支え隊」には無いので，学校支援地域本部の「学校支援ボランティア」に依頼をしている。

参加者名簿

市町等の名称	参加者名
白石市教育委員会	小室徹彦
角田市教育委員会	大内克典
蔵王町教育委員会	玉手美絵
七ヶ宿町教育委員会	伊藤貴子
大河原町教育委員会	八島良隆　平林　健
村田町教育委員会	村上利仁　佐藤隆法 齋藤沙織　小関　章
柴田町教育委員会	大川原真一　後藤忠宏 木村正人
川崎町教育委員会	我妻聡美
丸森町教育委員会	窪田高広　荒井優作
仙南広域教育委員会	佐々木洋佑
大河原教育事務所	横塚正己　加藤敏充 山下正人



富谷町武道館にて

平成２３年度
大河原地区社会教育主事研究協議会　座談会要項

１　期　　日　　平成２３年１１月１６日（水）１３：００～１６：００

２　場　　所　　大河原合同庁舎

３　テ ー マ　　震災によって見えた協働教育の重要性

４　講　　師　　山元町坂元公民館　　班長　岩佐　孝子　氏

　　山元町立山下中学校　校長　渡邉　修次　氏

５　次　　第

（1）開　　会　　研修委員長　　大内　克典

（2）開会あいさつ　　協議会長　　大川原　真一

（3）座　談　会

（4）閉会あいさつ　　協議会幹事　　佐藤　隆法

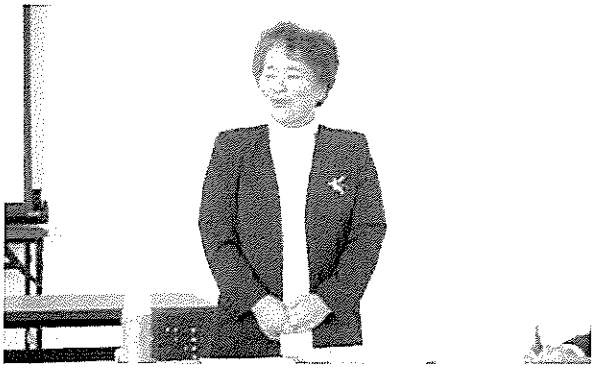
（5）閉　　会　　研修委員長　　大内　克典

２　６　出 席 者

市町等の名称	参加者名
白石市教育委員会	小室徹彦
角田市教育委員会	大内克典
蔵王町教育委員会	玉手美絵
七ヶ宿町教育委員会	伊藤貴子
大河原町教育委員会	八島良隆　平林　健
村田町教育委員会	佐藤隆法
柴田町教育委員会	大川原真一　齋藤良美　後藤忠宏
川崎町教育委員会	我妻聡美　冨田丈靖
丸森町教育委員会	齋藤公男　荒井優作
仙南広域教育委員会	佐々木洋佑　塚野あい子
大河原教育事務所	横塚正己　加藤敏充　山下正人

講　　話

山元町坂元公民館　　班長　岩佐孝子　氏



皆さんこんにちは。3月１１日の震災から年度末，それから年度初めにかけまして，大河原管内の皆様にご協力いただきました。震災当時のことを思い出しますと，雪が舞い降る中で朝から晩までご協力いただいたこと非常に感謝しております。お陰様で８月１５日まで全員分の仮設住宅が出来まして，現在は全員仮設住宅の方に行政区ごとに入居して生活しております。

山元町の人口は平成２３年２月末現在で約１６，７００人，最高の時は約１９，０００人だったのですけれども，少子高齢化ということで，どこの市町村さんも同じかと思いますが，徐々に人口は減っておりました。１０月３０日現在では約１４，０００人になりました。２月と比べると約２，７００人の減となっておりますが，見えないところでは，中高生とか大学生がほとんど仙台周辺に転出しております。町内では若い人たちの就職先がなかなかないということで，私は町内にいるのは約１０，０００人位かなと推測しております。震災で亡くなった方々が６１７名，不明の方もまだ約２０名おります。

私は，３月１１日は仙台で会議がありましたのでそこに出席していました。同じ会議に出席していた気仙沼の方々や石巻の方々は，これは津波になるかもしれないということでいち早く，地震と同時に会場を出ました。午後３時１０分くらいでしたが，電気も消えていました。救急車や消防車が街中を駆け巡るような状態でした。当時私は山元町中央公民館勤務でしたが，中央公民館についたのが夜９時半。役場に電話をかけても全然繋がらない状況でした。どうなっているのだろうという思いで来たのですが，よもや山元町の６割が被害にあっているとは，想像もしないで帰ってきました。中央公民館に帰ってくると役場から中央公民館の周囲はあたりがすごい車の渋滞なんですね，これはただ事ではないというのを目の当たりにしまして，中央公民館に入ると多くの方々が避難してきていました。人数を確認しようとしても確認のしようがないという状況でした。電灯もないので明かりはたまたま公民館の裏のプレハブ小屋に懐中電灯１０本とろうそくを段ボールに５箱くらい取っておいたので，それを職員が運び出し，各避難所，約２０か所に全部分配し，ある程度の明かりは取れるようになりほっとしました。次から次と人が救急車でどんどん運び込まれて来ます。水浸しになってくる人に車に積んでいた毛布等や公民館の合宿等の事業で使った毛布等を全部出し床に敷きました。綺麗なものは子どもさんとかじいちゃんばあちゃん，凍えてきた人たちにかぶせるということで急場をしのぎました。

何が一番大変だったかというと，最初は「あー助かった，ありがとう」という気持ちがあったのですが，徐々に薄らいでいって，「家がなくなった」「あそこに行きたい」「何かもらいたい」という人たちの気持ちをどういうふうな形で，もらえるものはもらうという形ではなくて，いただいた方々に感謝をしながら，次にどういう形に進めていくかということを考えながら行動しました。非常にありがたかったのは，町内の小中学校を開放していただきまして，先生方にも１か月か２か月くらいずっと泊まっていただきました。避難担当が教育委員会となっているんですが，教育長，学務課は職員が３名，そして生涯学習課は課長を含めて１２名でしたので各避難所（山下中学校，坂元中学校，山下第一小学校，山下小学校）に各課の職員も配置しました。両中学校には２人，山下第一小学校には最初１人だったのですがそれでは駄目だということで２人に。あと少年の

森にも避難していた方がいたのでそこにも２人。あと残りが生涯学習課，中央公民館に残っていたんですけれども，体の調子の悪い方が２人いたものですから実質１０名で動いておりました。その１０名のうち１人，課長は各避難所周りをやってました。残り２人３人で約１，０００人強，私が把握した時，１７日ごろに名簿を書いていただいたのですが，約１，４００人位ですね。その間にも車に寝泊まりしていた人が約２，４００～５００人位でしょうかね。そんな中での避難でした。一番心がけていたことは，車に乗っていた方々が凍死しないように，またエコノミー症候群にならないよう注意を促したり，情報をすぐ流すように，プラカードを作ってそれを持って４，５か所を走り回って情報伝達をしました。

やっぱりどういう形にして運営していこうと思った時に，避難所の運営はすべて行政，そしてここにいる職員だけが携わるのではだめだと思いました。最初は職員の声がけだったと思いましたけれど徐々に自分たちでやるという自立性の足掛かりをつけたいと考えました。自分でできるところは自分で，お互いにできるところはお互いにしましょうというようにしていきました。また，すぐ近くにある山下中学校と電話で連絡を取って協力していただきました。中央公民館に避難してきた方がいても，入る場所がないんですよ。中央公民館の２階の大ホールは，天井が全部落ちて使えなかったので，とにかくどうしようもないということで，すぐ近くの山下中学校に７５０名ほど送り込ませていただきました。

最初は，避難所として中央公民館と青少年ホーム，保健センターと続いている建物に入ってもらい，役場前広場にテントを張ってそこにも入ってもらいました。強風によりテントを撤去しなければならず，伝承館を開けました。大事なものは事務室に入れて，ちょっと使えそうなものは上にあげてということをして，約１２０名の方々に入ってもらいました。

２～３日経っても助けられた人たちがやって来たんですね，それで資料館の玄関の隣に会議室があるので，そこに入っていただきましょうということで，ブルーシートや段ボールを敷き，近くの人たちが持ってきてくれた古い布団を敷いて，約９０名の人たちに入ってもらいました。避難所運営上で心がけたことは，建物で言うと３か所，部屋の数でいうと約２０か所，朝か夕方には必ず１日１回は各部屋を回りましょうと自分に言い聞かせ回って歩きました。顔を見ると皆安心するんですよね。１日目，２日目はただひたすらトイレ掃除でした。流す水は町民プールから運びました。仮設トイレができるまでの約４～５日でしたが，ただひたすらやっていたら，「その仕事は私たちがしますよ」と役場ＯＢの方や公民館や資料館，伝承館を利用していた方々や，避難していたお母さんたちが言ってくださったのでお願いしました。徐々に輪が広がっていって，自分たちでやるようになりました。

その後，運営も自分たちでやりましょうということになり，班長会を持つようになったのが１７日です。１７日の夕方に各部屋から部屋長さんを選出していただき組織しました。「何でするの」「職員がすれば良い」という声もありましたが，とにかく皆で力を合わせましょうという方々が多くいたので，その形にさせていただきました。

中央公民館の特徴的な部分は，施設の中だけでは足りなかったので，国連からいただいたテントを公民館の南側に２０数基建てました。

このテント設営にあたり非常にありがたかったのは，４月１日に派遣社会教育主事が赴任してきたんですね。３月２８日に打ち合わせをしまして，先生に「４月１日は背広姿でなくてよいから，ジャージと軍手，あと寝る準備してきてね」と言ったんです。４月１日８時半に来たときに，すぐにテント設営の指導をしてもらいました。そこにも１７０名ほど入りました。ペットを飼っている方々，トイレでしょっちゅう起きるので，皆に迷惑をかけたくないという方が入りました。まだテント村は現在も使用しております。今は県外から来てくださっているボランティアの方々の宿泊場になっています。

５月２０日まで，中央公民館・伝承館・資料館の３か所に分かれて生活していたのですが，中央公民館２階の大ホールの天井を修繕しました。資料館，伝承館にいる方々に「ぜひどうぞ公民館へおいで下さい」ということでお願いをしました。そうしたら，

そこに避難していた方から「今までここで２か月培ってきたコミュニティを壊すのか」とお叱りを受けました。今まで築いてきたものを壊していいのかということでお話をいただきました。しかし，仮設住宅に行く場合でも，どこに行く場合でももう一度構成しなきゃならない，構築し直さなければならないので，まずはワンステップ，近くに移動していただけませんか？と，ただひたすら２週間頭を下げました。最初にいろいろ言ってくる人が良いですね。反応を示す人をキャッチすることが大事だということをその時学びました。その人のところに行って話などをして，徐々に徐々に心を開いていただき，それで資料館，伝承館の人たちが入ってきてくださいました。その時に，いつかはまた出て行かなきゃならないんだという自分の住処を探してくるという事実へ一歩進んでくれた方もおりました。

徐々に落ち着いてきた７月３０日，山元町で協働教育の一番の目玉としている，「子どもも大人もみんなで遊び隊」という事業を本年度第１回目を開催させていただきました。いろんな支援をして下さる多くの方々がおりましたので，山下中学校を会場に，その方々に支援をしていただきながら遊び隊を実施しました。その前に，地元も頑張るぞというノロシを上げなければならないということで，５月１０日少年の森で，太鼓団体が災害で被害を受けていないので俺たちがノロシを上げたいということでイベントを実施して下さいました。その時も，「何でこんな時期に」と上からもお叱りを受けたのですが，やってくれるというなら誰だっていいんですよね。「やってみっぺ！」と言うその時に断ってしまったらもう２度とやりたくないとなってしまうと思っているので，やりましょうということでやっていただきました。６００人位の方々が参加して下さり，炊き出しをして下さった方々等おりまして１１時から午後の３時まで実施していただきました。「子どもも大人もみんなで遊び隊」今年度２回やってます。１回目が先ほど申し上げました７月３０日，そして９月１０日にキャンドルを灯してみんなで冥福を祈りましょうということで，山下中学校に楠があって，その下のところにキャンドルを灯させていただいて。岐阜県からいただいた和蝋燭，１メートルちょっとの大きさのもので，それも灯させていただきながら実施させていただきました。次の日は地元，全国から支援して下さる方々，音楽のサークルの方々が音楽を流しながら，室内には約２０ブース位の体験ブースを設け，地元の演歌歌手の方にも参加していただきました。そんな中で，肝心要なのは「人は育てておくべきだ」とつくづく思いました。社会教育関係団体を大事にしながら育てていかなきゃならないと痛切に感じた時でもありました。

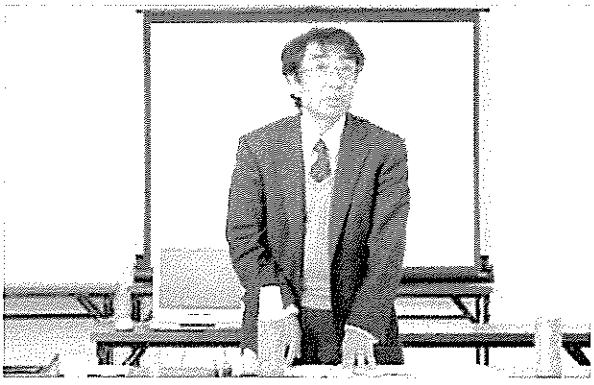
今までだと，無いものをいっぱい探しておりましたが，今は何にもないのだから，無いものをねだるよりあるものだけ探そう。人でも物でも何でも良いからともかくあるものを探しましょう，あるものを生かしていきましょう！ということで今，教育・学校・家庭，そして地域というところをつなぎ，共生していかなければと考えております。

今，私は８月１日から辞令が出まして坂元公民館に勤務させていただいております。被災を受けた方々は皆さん仮設住宅に入りました。そこは自分の城なのでなかなか出てきません。公民館事業も再開しましたが，公民館事業にもなかなか出てきません。そこで地域の方々を呼び出すのにどうしたらいいかなと考えていたところ，中浜小学校の校長先生から地域の方々みんなで「山元音頭」を踊ろうという声が出ました。十数年ぶりに山元音頭が復活し９月４日に坂元小学校と中浜小学校の合同の運動会で踊りました。私は，仮設住宅を歩き回りました。土曜日とか日曜日は日中，夜も行ける時に行ったら，みなさん足を運んで来たんですね。娘さんと幼い孫をなくしてしまい自分の仮設の部屋から全然出て来ない人で踊りの得意な方がいたんです。私は，あそこにはこんな人，あんな人が住んでいるというのがインプットしているので，「実は私２日目いけないのでみんなに踊りを教えてください。お願いします」とお願いしたら，その人が来てくれて教えてくれたんです。また小学校の運動会で神楽を舞うために使う衣装縫いがあったんですが，縫い物はおばあちゃんたちのお手の物ですよね。それで，校長先生が頼んで

縫ってもらうようお願いしたら，おばあちゃんたちは喜んで縫ってくれました。

今度は，団体の再構築の事例です。坂元地区には柴田町の太陽の村に大変にお世話になりました磯の方々が多く住んでいる中山の仮設住宅です。土曜日は，中山の仮設集会所，サポートセンターがありますのでそこで，役員や地域の方々とお話をすることにより「やめっか」と言っていた磯の老人クラブも，今度の２７日に総会を開いて復活することに決めました。坂元中学校の仮設住宅に多く住んでいる中浜区の方々とも話し合いをしながら中浜老人クラブも復活させたいと考えております。そんなことで地域の人たちを引っ張り出して，学校とつないで，家庭とつないでという役割をこれからもやって行こうかなと思っております。最初の一歩をみんなで力強く踏み出して行きます。

山元町立山下中学校　校長　渡邉修次　氏



皆さんこんにちは。今年度で退職をする年になってしまったんですけれども，１年前に退職していればこういうことにしなかったんだろうなと思いつつ，役割分担だということで今できること，校長の肩書としてやれること，そしてほかの先生がやらないこと，そこをやろうと。他のやれるものはほかに回るという考え方で立ってやっておりますので，その話だけを先にやりたいというふうに思います。

こういう講演はもう６回目です。愛媛県に行かせていただいて２回させていただきました。愛媛県から約７００名山元町に来ています。３月２５日から約５名体制で，今は１名ですが延べ７００名。宮崎県から来ていただいた方もいました。全国的な支援をいただきながら，私たちは現実のためにどういう活動をしたかという話をさせていただこうと思います。

１日目の夜に私が決定をして，私がここ避難所の総合責任者になるということですね。これはやはり先ほど岩佐さんが言ったように，役場職員が２名しかいない，役割分担として私がその２名に野菜や米を調達するようにということで毎日まわっていただいて米を持ってきてもらった。うちは調理場があるので調理人が６名いた。その６名に水をためなさい，それからガスボンベがあるので，それを調理場から家庭科室に持っていきなさいという話をして，あと全体には校舎内の点検をさせ，そして毛布等を５０枚しかなかったので，それをまずは１階に置きました。大体５０名くらい来るんだろうなと考えていましたが，それは１年前，３月２７日にチリの地震がありました。その時の避難が２３名でしたので大体それくらいかとタカをくくっていたら，入ってきたのは７５０名以上，駐車場に２５０名ということが発覚したので，正確な人数把握はその時まだしていませんでした。ガラスが１枚も割れていない耐震ガラスでしたし，地震でひびも入っていません，学校としては最良の避難所だというふうに思っています。児童生徒を安全・安心に出すための校舎ですので，学校を避難所にするのが第一だと思います。もう一つは，各教室があります。教室では一般的には４０名か５０名しか入りません。それが一番コミュニティが取れやすいという人数ではないでしょうか。うちの学校は２９教室と廊下も使って避難生活をさせました。

生活の中で一番最初に困ったのが，トイレ，寒い，暗い，ですね。この３つをどのように解決するかということです。体育館は卒業式が終わった３時間後に地震が起きたので，どうしても天井からいろんなものが落ちてきたという状況で体育館は使えない。１か月後に復旧して使いました。ただそこは，避難所にはしていません。体育館がだめなので，教室と廊下を使いました。７５０名が入りましたけれども，まだ余裕はありました。いくつかの部屋はインフルエンザ対策室として空けておきました。当然３月で

すのでインフルエンザが発生するだろうということで，案の定，２１名が発症しましたけれども，愛媛県の保健師，それから福岡県の保健師が校舎の床，手すり，全部消毒を毎日したので，２１名ということで部屋に隔離をし，そこから出入りをし，マスクをさせ，拡大をしないように活動しました。１か所嘔吐したところがあったのですが，そこにはブルーシートを敷いて，消毒薬をまいて拡大を防ぎました。山下中学校の職員は皆帰っていません。女性は約２週間，男性は３週間，私は２か月半学校に寝泊まりをしました。最初はゴロンと職員室で２週間。あとは校長室に２か月半。一番良かったのは，行政と，社教主事と，学校の先生とこの３つの棲み分けをしたということ。２日目に私が指示したのは，職員が前に出なさいということです。指導力とかコミュニケーションですとかいろんなところが上手いですのでそれを前面に出しました。行政さんは２人しかいません。２００名以下ですから山元町の職員は。この人たちは何をしたかというと，パソコンを持って，この住民，山下中学校の行政区の中に何人いるか，誰がいるか，どこの地区から来たか，その人たちが出ていくときにどこに出ていくのか，それを把握してもらいました。教育委員会の２名は物の調達。前面に出たのはうちの中学校の職員という形。トイレ掃除も女性職員が３名。職員はこのような体制をとりました。それから生徒のボランティアは当然います。それに追随したのが小学生であり高校生です。

地震直後は，水は少し使えました。テレビは１５分間電気が通っていました。それでこっちが判断したのは「津波が来る」それなら沢山避難者が来るだろうということで，職員に安全点検をさせ，廊下に全部机・椅子を出して，教室を避難所にするということを決定し，３０分作業させて移動しました。

３日間はどうにかなるだろうというのがありました。私たちがやらなくちゃいけないことは阪神淡路などでわかっていますので，３日間どのようにするかということを考えました。まず，行政サイドで発想がつかないのは何かというと，地区の人たちに指導することが必要になってくるということですよね。２日目からボランティアを募りました。次の日の朝におにぎりボランティアを募って，約３０数名来たのでそんなにいらない，まず１０名ということで，ビニールラップでおにぎりを作って配布しました。お昼は何もないので，米を持ってきた教育委員会の方が大きい鍋で雑炊にして食べさせました。朝昼晩と１日目から食べさせました。この学校は他地区からのボランティアは一切入っていません。自分たちでやるということで，職員が前に出てトイレ掃除をしました。それから周りで泥棒が流行っているということだったので，避難している人たちから自警団を２４時間設置しようということで４０人集まりました。うちの職員も入っていて，それでローテーションで２４時間，懐中電灯を持って見回りをしました。泥棒１件も無し，車の破損も無しということになりました。それは何かというとやはり，私たちにしかできない・私にしかできないということを植え付けたということですね。６時半に各部屋から連絡員を集めて会議を開き，会議の一番最後に私が道徳性の高いものをお話しします。「皆さん，歩み寄りませんとここは生活できません。共同生活ですから」という話をします。拍手するもの，泣くもの，いろんなものを毎日毎日，コントロールするような道徳性の高いものをお話ししました。役場職員からはいろんな方面から来た情報をまとめてお話ししました。その連絡員が各教室に行くということです。連絡員とは何かというと，班長ではありません。取りまとめをせず，とにかく連絡するだけということをしてもらいました。

トイレ掃除は学校の先生方がやります。それを見た中学生，小学生が追随します。うちはプールが２階にあるので２階のプールから汲んでトイレをやります。それを見ていた地域の人たちは，「俺もやろう」となるんですが，そこはいいよとうまく止めます。生徒が積極的にやりだしたのでそこは任せます。あなたたちはやれることがあるでしょう？ということを始めました。結局はいろんなボランティアが出てきました。

ご飯については７５０名に対し，約１，０００食作りました。全員に配れるので競争しなくていいです。競争の原理は廃止しました。競争しなくなるの

で隣の人が敵ではなくなる状況を作りました。それから受付も自分たちでやる。学校の先生方，行政の方が１人入る，そしてあと，ボランティアとか地域，避難の人たちが受け付けをする。そうするとどこにだれがいるか，地区名は完全に頭に入っているので，どこどこの誰さんはここにいますよ，ここですよ。教室の前に全部名前が貼ってあり，出るときは斜線で消していく。そうすると誰が入って誰が出たのか，車のナンバープレートで携帯電話を探せるように一覧表に書いてあって，それを受付で持っている。電気がついたら携帯に電話をするなりしてその人に知らせる。それから，不審車がいたらその車をちょっと見てみて，メモしておく。

一番大変なのは７５０名が棲み分けをした時に，校舎の中をペットが歩きます。それのアレルギーの人もいます。ということでどうしようかとなりました。そうした時に，結局私が使ったのは連絡員なのです。連絡員皆に集まってもらい「どうするんですか？皆が住んでいるので住みよいようにみんなで決定してください」というふうにしたら，その中から代表者が１人決まったのです。司会者です。この司会者がみんなをリードします。私たちは司会しない。避難してきた人たちが全部やります。そのあと校長先生のお話です，教頭先生のお話です，というふうになって運営がうまくいくようになりました。その代り時間はかかります。「ペットどうしますか？皆で好きなように決めていいですよ」「じゃあ廊下は歩かないようにしましょう」「じゃあ皆各教室にペット居るので大変だから，理科室にペットを飼っている人たちは入ってもらえませんか？」と皆で決まっていく，皆納得して理科室に入っていきます。最終的に国連からテントをもらったので，そこに移動することになりました。

４月１９日には学校が１週間後に始まるという連絡をしました。避難者は各教室に入っていましたので，そこから体育館の広い場所に変わりました。広い場所に行くと必ず文句が出るのです。そこで文句を言わせないためには，やはり自立をした人たち，「自分たちが連絡員になったらどうしますか？学校が始まるので広い場所に変わっていくことになります。場所はどのように決めても結構です。皆さんで話し合ってください」３日間かかりました。でも，３日間皆で納得する位話し合って，皆移動しました。そして２５日を迎えることになりました。２５日が始業式で２６日が入学式。その前には，避難した人たちがみんな掃除をして綺麗にしていただいて，何一つ，匂いも一つ残っていませんというような状況で，今度は学校の中に，学校と避難所と，運営を２つにしてやりました。

中学校なので部活があります。部活は３月１１日からプラス７日で始めました。とにかく子どもたちの声を聞かせようということで，近場で声を聞かせました。これは一番効果があったようです。電気は５日後に来ました。電気が来れば，避難所の中に電気工事士の免許持っている人がいます。１，０００人以上避難しているわけですから，声をかけると「いいよ」と手を挙げてくれます。「すいません，体育館の点検をしてください」とお願いしますと，全部チェックしてくれました。それですぐ，運転開始。運転開始すると，室温は１２度から下がりません。暖房が入ったので１８度です。廊下も１８度，教室も１８度。２２度まで上がりますから，そうするとそこは止めます。職員室で全部温度管理ができます。最初に寒い時はどうしたかというと，柔道場から畳を取る，カーテンを取る。毛布は５０枚しかありません，それを半分にして，１枚で２人とか３人でやりました。弱いものに回します。２日目３日目に上から下まで濡れてきた人はストーブの前に行く，という指示をしました。電気が来るまでに５日かかったわけですけれども，３日間は自衛隊が来ません。３日目まで我慢するということですね。

最終的にはやはり，自分たちの自立を考えたという方法が一番いいのかなというふうに考えています。私の方に来るのは，外からの支援物資。支援物資は役場職員が全部整理します。それから他の町からの支援職員が管理します。集まったら今度は，そこの代表者に「こういうのがあるんですけどどう使いますか？」と投げかけて，抽選やったりジャンケンやったり楽しくやっていました。

７月３１日をもって中学校の避難所がなくなって，皆仮設住宅にいきました。最後の日は晩餐会をやって，私，大家さんですからお呼ばれしました。刺身が初めて出ました。生ものは食べられませんでしたからね。凄いご馳走が出てびっくりしましたね。びっくりして私，５日目に倒れました。１日遅れたら死んでいたろうと言われて。まあ，ほっとして倒れたんですよね。それで１か月後に復帰しようと思ったら，また倒れて，絶食して１週間で退院して，９月２６日に復帰しました。それは校長としては失格です。それからリーダーとしては失格です。それはなにか，「燃え尽き症候群」ですよね。ほっとした，避難所がなくなり，仮設住宅にみんな行った，そこで倒れてしまった。これが「燃え尽き症候群」こういうことあっちゃだめなんです。そうならないように私はみんなに，こういうふうに感謝の気持ちを私の講演で，体験談を話しています。なので，ぜひ市町村に帰られたらそれを皆さんに伝えてほしいと思っています。こういう指導者とかリーダーは必要じゃないだろうと。私もほどほどにやっていたらもっともっとつなげられたわけです。同じようなことを繰り返ししないようにしてもらえると，素晴らしい避難所の運営になるのかなぁと思います。疲弊しないようにみんなで話し合わせるというのが私の指導でした。

山下中学校では，７５０名いるのでそれでどうしたかというと，生徒と，保護者と避難者の人たちを一堂に会していろんなものを作らせてきました。たとえば，卵の殻で作ったカエル。岩手ファームというところから生卵をもらって，殻の中にシリコンを入れて「よみがえる」というカエルにしました。左側は避難所と避難者と子どもと保護者のメッセージが入っています。それをみんなで作って，いろんな支援物資が来たときにこれをプレゼントする。今は感謝の形はこれしかないのですみませんけれどもこれでよろしくお願いしますというふうに言って渡す。生徒も渡しているのがわかるし，避難している人もわかります。ここに「どんどん癒される　復幸山元よみがえる」という仕様書もあります。こういうダジャレも入れています。こういうことをやっています。それから今やり始まったのは，ストラップ。四葉のマークでこれは山下中学校のマークです。これを作るために避難所の人たち，生徒，先生方，保護者に集まってもらって，みんな頭寄せ合って作ります。それをずーっと積み重ねていって，今は避難所，仮設住宅で作ってもらってこれを最終的には販売します。１００円で買って，それを６００円で売ってそういうところを今調整しています。調整役は私。そういうところまではやる。だけど順序的には私から話さなきゃいけない。避難所と同じです。先生方が最初メインです。ここから順に講師になってこの人たちがメインになる。ということを学校の先生はできるのです。でも行政の方々はなかなかこれが難しい。社教主事がそういう発想でやれるということを私はつくづく今回の災害で感じましたね。ですから，そういう発想を持てる行政の人たち。でも行政の人たちって仕事沢山あるんですよね。報告文書とか，どこにだれがいるとか，被災証明とか，いろんなものを発行しなくちゃいけない。それだけで避難所の人たちに対応できないです。そこを学校の先生が肩代わりする，ということですね。最終的にガソリンがなかったので帰せませんでした。学校の先生方も，男も女も全部残ってもらった。それがやっぱり正解だったというふうに思います。今では問題ですけれど，最終的にはこのようになっていくでしょうということではないかと思います。

座　談　会

大内：それでは，座談会を始めたいと思います。

八島：生徒自身も亡くなったということで，生き残っている，今必死で生きぬいている人たちの心のケア，学校の中での心のケアそれから社会教育現場の住民に対する心のケアをどのようにしているのかをお聞かせいただければと思います。

岩佐班長：家族全員亡くしたという方は１人います。その方は，地域の方のお宅でお世話してくださっております。周りの人たちもいろんな意味で支援をしています。特に同級生がいろんな声掛け等をしてくださっています。私も，家族が亡くなったんだという話を聞いたときに，いろんな話を昔の話をしたりしていますし，仮設住宅に行ったときはどんな感じでいるのかなと話をさせていただいています。実は１１月５日，坂元中学校で，花火を打ち上げました。「下ばっかり向いていたら駄目だよね」という声が小学生からありましたので，上を向いたなら自然と笑顔が出てくるんじゃないかなということで打ち上げ花火をしました。その時に高野山の真言宗の方々が２５名来てくださって供養させてくださいということがありまして，みんなの気持ちに一区切りつけたいということでお話をさせていただきました。坂元地区だけにチラシを配り，お焚き上げの供養を坂元中学校の校庭で実施しました。何かの形で一区切り一区切りつけていくようなものを地域の方々と作り上げていきたいと思っております。仮設住宅には保健福祉課でサポートに入っていますが，仮設住宅にいる方に「出てきてください」と言ったって，知らない顔だとなかなか出て来れないんですよね。顔見知りである私に「仮設住宅にお茶飲みに来い」と言われるので，極力時間を作りながら，土曜日とか日曜日には行くようにしております。坂元公民館が小学校から近いので，子どもたちは学校帰りに回りますので，その時子どもたちといろんなお話をさせていただいています。学校では言えないこともあるかも知れないので，そういうところにちょっと，目と心を配るということで今やっています。あとは何かというと気づいた時には，子どもさんであれば特に学校とすぐ連絡するようにしております。

渡邉校長：中学校としては，４分の１が被災をしています。約１００名が仮設住宅に入っています。全部個人面談，本人と１対１での二者面談を４月の後半，始業式終わった後すぐ１週間取って行い，心の奥底が見えるような指導をしながら聞く役をしていました。その前にはカウンセラーに来ていただいたり，先生方がカウンセラーの役割を勉強したり，外部のカウンセラーもいらっしゃったので，その人たちに講師になってもらって，日本心理士会の方から指導をいただいて，それをもとに二者面談をしました。生徒の中で，きょうだいで下が亡くなったものはいます。両親が亡くなったものはいません。そういう生徒間の温度差があったり，家があるものと無いもの，地震で何も傷がつかなかった。傷がついている家がある。と色々なことがあるので大雑把な話はしないように心掛けて，一番底で一番下のレベルで話を聞きます。今は非日常的なことではなくて日常的なこと，毎日淡々と１時間目から５時間目までこなす。そういうことを今積み重ねてやっています。当然，被災しているところとしていないところ関係なく入試があるので，夏休みから塾の先生やゼミナールの人たちに協力をもらって，勉強会を学校でやりました。中学３年生としては８８講座全部単元を取って塾の先生に無料で来てもらって，今年の冬も６日間ですけれども，栄光ゼミナールとベネッセコーポレーションに入ってもらって，１年２年３年と棲み分けをして校舎の中でしてもらいます。私立高校の入試については私が全部電話をして，６つの学校に出前で入試をしてもらいます。山下中学校を会場に坂元中学校と吉田中学校を入れ込んで入試を実施するという形で設定しています。電車で仙台まで行くだけで２時間かかるので，子どもたちの目線，子どもたちの喜ぶ，それから保護者が喜ぶ姿を描き

ながら私は音頭を取っていますけれども，日常生活に戻すためには，日々，淡々とするのが一番いいのではないかなと思います。

八島：ありがとうございます。最後にもう一つお聞きかせいただきたいのですけれども，地域と学校，教育委員会がお互いに一緒になって活動するようなことができているのか。そういったこともあればお話しいただければと思います。

渡邊校長：岩佐班長が生涯学習課にいらっしゃったとき私は教育事務所にいたのですが，その時，学社融合連携事業というのがあって，そういう活動の中で立ち上げた遊び隊は１５年ほどやっています。地域の人材を発掘するのと，地域の連携を図るのと，リーダーの線と線を結んで，面にするというそういう活動を担っているということです。最初に７月３１日にやって，次に９月１１日。ちょうど６か月後ですね。１２月１１日に今度日曜日ですけど，９か月後。３月１１日はちょうど１年です。ということで今のところやりたい。皆の力を借ります。地域の力がどこまで生きているかの一つの量として，どこまで自立したかの指標であると私は思っています。そのためにみんなの力を借りたい，という性質であるとお話をしています。何年か後には私たちが独立独歩でやっていく。復興という言葉があまり好きではないのですが，私の家が復興するわけじゃなくて，地域も復興するわけじゃなくて，無くなったものは無くなったのですよ。だから新しい幸せを求めなくちゃない。そういうところを構築したいということですね。ボランティアも新しくということで新しい幸せ「新幸」という字を私は俗語ですが使っていきたいと思っています。連携というのは地域だろうが学校だろうがということで，避難所の中でもそういう意識は持ってないのですけれども，皆さんは持っている。今年派遣の方が来て連携を進めていくということになって，こっちも社会教育の会議の座長やっていますけれども，やはりそれは今まで点でやっていたものを結ぶのが協議会だというふうには思っています。それを面にできるかどうかというのは，今からの投げかけや地域の意識，１人１人の意識が面になっていくのではないかと思っています。面にしないとできないので，やはり面にすべくリーダーがしっかりしていかないといけないと思います。そこまでできたら私はいいかなと思っています。

岩佐班長：社教主事をしていて，学校にひまだれをしに行かなきゃならないと思います。お茶のみをしながら，事務的に「お願いしますね」じゃなくて，なにか引き出しながら次につなげていくものを見出すというのがいいのかなと思います。やっぱり学校と手を組むというのが一番ですね。子どもたちにもお世話になったし，そこに避難させてもらったという感謝の気持ちもあるので。じつは，この見ていただくとわかると思いますが（Ｔシャツのデザイン）手と手をつないでいます。これも地域のボランティアが作ってくれました。デザインしました。そして，これを私たちが買うことによって，その気持ちをいただくことによって，これを中浜小学校の子どもたち，山下第二小学校の子どもたちにこのＴシャツ，何もなかったときに，一緒にみんなで何かする時に来てほしいということでこれを提供したり，あとは保育所・幼稚園にも提供させてもらいました。そういうこともやっております。先日，石巻市雄勝町に行ってきました。雄勝中学校は生徒５４人だということだったので５４枚届けさせていただきました。皆さんから支援していただいた気持ちを，それを今度は私たちがどこかへ届けるというようなことで，昨日，石巻市立大須中学校の校長先生から連絡があって「大須中学校のホームページを見てください，この間届けていただいたことへの感謝ということで子どもたちが着ているところもホームページに掲載しました」という連絡をいただきました。少しずつですけれども，私たちも支援をいただくだけではなくて，何かの形で恩返しをしたいなということを考えております。なので，ぜひ１２月１１日にはどんな感じでやるのか，遊びに来ながら見ていただけたらと思います。

佐藤：岩佐先生にお聞きしたいのですけれども，先生のお話を聞いていると土・日がないのではないか

なと思えるのですが，お休みになってらっしゃるのでしょうか。

岩佐班長：私は，楽しみながらやっているので。一町民であるというのもありますし，日曜日は１０時から５時までりんごラジオのスタッフでやっています。基本的には，メインのアナウンサー高橋先生が，土曜日か日曜日どちらかが休みということなので，そこに入らせていただいて，お茶のみをさせていただきながら。いろんな方，結構土曜日・日曜日になるとお客さんいらっしゃるんですね，そこで窓口のところでピシャッとしてしまったら次の時には来てくれないので。それだけのためにお茶のみに行かせていただいています。楽しみながら。

渡邊校長：岩佐さんはどこが仕事かどこが遊びなのかという関係が，ぼやけているわけです。これは何かというと，学校でもそうなのですけれども，意欲の問題なのです。意欲って何かというと興味・関心なのです。興味・関心で一生懸命やっていると，それが多忙感に繋がってないのです。やらされているという意識と，やっているという意識の違いです。やっているというと達成感が出てきます。「やったー！じゃあ次」となるじゃないですか，これがこの人。やらされ仕事で行くと，「またか」という多忙感で達成感は無いのです。そこの違いかというふうに思います。こういうふうにならないようにした方がいいです。やはり土曜日・日曜日は趣味の世界ですよね，子どもと遊ぶのが趣味なのです。私もそうなのだけど。子どもの笑顔が見られれば楽しい。でも勤務は厳しいですよね，仕事は楽しくても。そういうことで，職員室はうちは明るい方，勤務は厳しいですから，そういう中でピシッと皆やっているので，私も歯車の１つなので職員に言うと「校長先生，いまおれ忙しいから校長室に戻ってて」って言われますから。その位のレベルの組織力です。私の役割分担は外に発信したり，それから立場的に校長という立場，中に入った時には職員という１つの歯車なので。それで私はいいと思っています。でもやはり，出るときには私が責任取ったりそういうのは私の役割。それはちゃんと分けてとやっていくと多忙感は無くなるのかなと。達成感がある。それは意識だと思います。見えないですよね。それが一番大事ですね，この震災の時もそうです。見えない物の方が大事です。

岩佐班長：やらされている意識から，やってみたいという意識へ変えていくというのも，それは自分自身にしていかなきゃならないことかなと思います。

佐藤：お話をお伺いして，そういうお二方がトップにいるからこそ，周りの皆さんも協力というかついてくるのかなと思いました。ありがとうございます。

山下：子どもたちの震災前と震災後の様子の変化について教えていただければと思います。

渡邊校長：やっぱり変わったのは思いやりや感謝の気持ち，道徳性が高まったというふうに思っています。震災直後はそれどころではなくてもう顔が硬直していて何も言わない。能面づらと言いましょうかね。そういうところから音楽で癒されて，笑いを取って，涙を流し，どんどんどんどん表情が変わっていった姿を見ていくと非常に感動的です。そういうものにしていかなければならないというふうに思います。ですから来年再来年と，まあ私は地域のおんちゃんでいるわけですけど，そういう成長を見ていきたいなと思っています。素晴らしい３年生だというふうに思っています。そういうふうに保護者にも伝えました。

齋藤：今日は貴重なお時間をいただいて，貴重なお話を聞かせていただいてありがとうございます。先ほどのお話の中で最後の方に，社会教育団体，いわゆる人材はやっぱり育てていくべきだというお話が

ありました。新たな人脈なりコミュニティが出来ているとは思うのですけれども，今後この社会教育組織をどのような形で再構築していくというか，イメージをお持ちなのかお聞かせいただければ。現状と勘案しながらいろいろ考えていらっしゃると思いますので，その辺参考にさせていただければと思います。

岩佐班長：実はこの震災前からですね，各種団体崩壊寸前になっていました。老人クラブも２３行政区あったのですけれども，６行政区しか残ってなかったというような状況でした。私は２０，２１年度と生涯学習から外れていたのですが，崩れるというのはすごく速いなってつくづく感じていたんですけれども，作り上げるにはなかなか労力がかかりますよね。老人クラブもですし，婦人会も無くなってしまっていました。たった２年しか外れていなかったんですよ。それで２２年度から頑張ろうというようなところなのですが，老人クラブも６つあったところの会長さんで亡くなった方もいましたし，６団体のうちで被害をほとんど受けてないというのは１地区だけでした。あとの５地区は壊滅状態というようなところだったのですが，１人は，「やっぱり戻って来てやっかなー」というようになってきました。もう一つの地区は８６歳の方が会長をしてくれたんです。今，震災で仕事がなくなって，６０代の人たちも家にいるようになったんですよ。「それで今まで８０過ぎて頑張ってきてけったんだもの，ここで引き継がなかったら引き継ぐ暇がないよ」という話をしたら「じゃあ，やってみっか」という地域も出てきました。というところで少しずつではありますけれども，今だからこそやらなきゃいけないというところもあるので，ちょこちょこと歩きながら，やっていきたいと思います。あとは子ども会もですね，皆がばらばらになってしまったということなのですけれども，子どもが少なくなったから父ちゃん母ちゃんまとまらなきゃならないんじゃない，という話をさせてもらって，お父さんお母さんが子どもたちを迎えに来たときには，「ちょっとここで今度集まってみない？」という話をさせてもらっています。なので，子ども会ももう一度構築したいと思いますし，婦人会の方も山手の方はほとんどなくなっていたのですが，磯地区は存続することに決定しました。中浜地区も今ちょっと動けそうな人を発見したので，その人にアタックをかけております。子ども教室，子育てサポーターをずっと発掘しながらやってきてたのですけれども，仕事辞めたよという人たちには，子育てサポーターで放課後教室に支援に入ったりしてますし，あとはその人たちが読み聞かせをして下さるとか，そんな感じで徐々にひっぱりながら，自分が大変だと違う人も連れて来てくれるので，それを狙いながら組織を強化していきたいなと思っています。

齋藤：ありがとうございます。大変でしょうけれども頑張ってください。

佐藤：本日はお忙しいところ，貴重なお話をいただき，本当にありがとうございました。

1　各市町等毎社会教育主事在任期間

年度	白　石　市				蔵　王　町			
S34	永野昌一							
S35	永野昌一				小柴　敏			
S36	永野昌一				小柴　敏			
S37	太齋　亨				小柴　敏			
S38	太齋　亨				小柴　敏			
S39	太齋　亨				小柴　敏			
S40	太齋　亨				小柴　敏			
S41	太齋　亨				小柴　敏			
S42	太齋　亨				小柴　敏			
S43	太齋　亨				小柴　敏			
S44	太齋　亨				小柴　敏			
S45	太齋　亨				小柴　敏			
S46	太齋　亨				小柴　敏			
S47	太齋　亨				小柴　敏			
S48	太齋　亨	伏見光龍			小柴　敏			
S49	太齋　亨	伏見光龍			小柴　敏			
S50	太齋　亨	伏見光龍			佐藤和夫			
S51	太齋　亨	伏見光龍			佐藤和夫			
S52	相原　秀							
S53	相原　秀							
S54	相原　秀							
S55	相原　秀	佐藤重仁			佐藤雄司			
S56	相原　秀	佐藤重仁			佐藤雄司			我妻　一
S57	相原　秀	佐藤重仁		遠藤康幸	佐藤雄司	北沢広男		我妻　一
S58	相原　秀	佐藤重仁	清野俊太朗	遠藤康幸	佐藤雄司	北沢広男	芦立敏彦	我妻　一
S59	相原　秀	佐藤重仁	清野俊太朗	遠藤康幸	佐藤雄司	北沢広男	芦立敏彦	
S60	相原　秀		清野俊太朗	遠藤康幸	佐藤雄司	北沢広男	芦立敏彦	
S61	相原　秀	佐藤恒雄	清野俊太朗	遠藤康幸	佐藤雄司	北沢広男	芦立敏彦	
S62	相原　秀	佐藤恒雄	清野俊太朗			北沢広男	芦立敏彦	
S63	相原　秀	佐藤恒雄	清野俊太朗	小室徹彦	阿部　宏		芦立敏彦	
H1		佐藤恒雄	清野俊太朗	小室徹彦	阿部　宏		芦立敏彦	日下朝男
H2			清野俊太朗	小室徹彦	阿部　宏		芦立敏彦	日下朝男
H3			清野俊太朗	小室徹彦	阿部　宏		芦立敏彦	日下朝男
H4			清野俊太朗	小室徹彦	阿部　宏		芦立敏彦	日下朝男
H5			清野俊太朗	小室徹彦	阿部　宏		芦立敏彦	日下朝男
H6		小野輝彦					芦立敏彦	日下朝男
H7		小野輝彦			砂金　毅	宍戸光晴	芦立敏彦	日下朝男
H8		小野輝彦			砂金　毅	宍戸光晴	芦立敏彦	
H9		小野輝彦			砂金　毅	宍戸光晴		伊藤康彦
H10		小野輝彦			砂金　毅	宍戸光晴		
H11			村上忠敏		砂金　毅	宍戸光晴		
H12			村上忠敏		砂金　毅			我妻　一
H13			村上忠敏					我妻　一
H14			村上忠敏		佐藤雄司			
H15			村上忠敏			佐藤洋一		
H16			村上忠敏			佐藤洋一		
H17		小野輝彦			阿部　宏		芦立敏彦	
H18		小野輝彦			阿部　宏		芦立敏彦	
H19		小野輝彦				川井由美		
H20		小野輝彦				川井由美		
H21		小野輝彦		小室徹彦		川井由美		
H22		小野輝彦		小室徹彦		川井由美	玉手美絵	日下朝男
H23		小野輝彦		小室徹彦		川井由美	玉手美絵	日下朝男

年度	角　田　市					七ヶ宿町		
S34								
S35	南部信吉							
S36	南部信吉							
S37	大友今朝治							
S38	大友今朝治							
S39	大友今朝治							
S40	大友今朝治							
S41	大友今朝治							
S42	本田達夫							
S43	本田達夫							
S44	門馬敏男							
S45	門馬敏男							
S46	門馬敏男							
S47	門馬敏男							
S48	門馬敏男					根元邦美		
S49	門馬敏男					根元邦美		
S50						根元邦美		
S51						根元邦美		
S52						根元邦美		
S53	咲間庄三					根元邦美		
S54	咲間庄三					根元邦美		
S55	齋藤　久					根元邦美		
S56	齋藤　久					根元邦美		
S57	齋藤　久					髙橋正雄		
S58	齋藤　久					髙橋正雄		
S59	齋藤　久	大友喜助				髙橋正雄		
S60	齋藤　久	大友喜助				髙橋正雄		
S61	齋藤　久	大友喜助				髙橋正雄		
S62	齋藤　久	大友喜助				髙橋正雄		
S63	太田文夫					髙橋正雄		
H1	太田文夫	小野隆男	角張　力			山田益広		
H2	太田文夫	小野隆男	角張　力			山田益広		
H3	太田文夫	小野隆男	角張　力	笠松隆行		山田益広		
H4	太田文夫	小野隆男	角張　力	笠松隆行	齋　敬一	山田益広		
H5	太田文夫		角張　力	笠松隆行	齋　敬一	山田益広		
H6	太田文夫		角張　力	笠松隆行	齋　敬一	山田益広		
H7			角張　力	笠松隆行	齋　敬一	小林辰弥		
H8			角張　力		齋　敬一	小林辰弥		
H9	宍戸　徹		角張　力			小林辰弥		
H10	宍戸　徹		角張　力			伊藤貴子		
H11	宍戸　徹	齋藤　修	角張　力			伊藤貴子		
H12	宍戸　徹		角張　力			伊藤貴子		
H13	宍戸　徹		角張　力			伊藤貴子		
H14	宍戸　徹	佐藤琴江	角張　力	亀谷久美			髙橋慎太郎※	
H15	日下由美	佐藤琴江	角張　力	亀谷久美			髙橋慎太郎	
H16		佐藤琴江	角張　力	亀谷久美			髙橋慎太郎	
H17		佐藤琴江	角張　力	亀谷久美			髙橋慎太郎	
H18	八島利美						髙橋慎太郎	
H19	八島利美					伊藤貴子	髙橋慎太郎	
H20		佐藤奈美				伊藤貴子	髙橋慎太郎	
H21		佐藤奈美				伊藤貴子	髙橋慎太郎	
H22			大内克典			伊藤貴子		
H23			大内克典			伊藤貴子		

※印は社会教育主事補

年度	大河原町			村田町			川崎町		
S34									
S35									
S36				丹羽道博					
S37				丹羽道博					
S38	千葉礼次郎			丹羽道博			大沼幸治		
S39	千葉礼次郎			丹羽道博			大沼幸治		
S40	千葉礼次郎			丹羽道博			大沼幸治		
S41	千葉礼次郎			丹羽道博			大沼幸治		
S42	千葉礼次郎			丹羽道博			大沼幸治		
S43	千葉礼次郎			丹羽道博			大沼幸治		
S44	千葉礼次郎			丹羽道博			大沼幸治		
S45				丹野広伸			大沼幸治		
S46	竹川定夫			丹野広伸			大沼幸治		
S47	竹川定夫			丹野広伸			大沼幸治		
S48	竹川定夫			丹野広伸			大沼幸治		
S49	竹川定夫			丹野広伸			大沼幸治		
S50				丹野広伸			大沼幸治		
S51	目黒敏明			大沼 忠			髙山惠弘		
S52	目黒敏明			大沼 忠			髙山惠弘		
S53	目黒敏明			大沼 忠			髙山惠弘		
S54	目黒敏明			大沼 忠			髙山惠弘		
S55	目黒敏明			大沼 忠			髙山惠弘	大宮 昭	
S56	目黒敏明			大沼 忠	村上利仁			大宮 昭	
S57	目黒敏明			大沼 忠	村上利仁	髙橋徳夫		大宮 昭	
S58	目黒敏明				村上利仁	髙橋徳夫		大宮 昭	
S59	目黒敏明	佐々木寿信				髙橋徳夫	佐々木勝		
S60		佐々木寿信				髙橋徳夫	佐々木勝		
S61		佐々木寿信				髙橋徳夫	佐々木勝		
S62		佐々木寿信		遠藤裕悦郎		髙橋徳夫	佐々木勝		
S63		佐々木寿信		遠藤裕悦郎		髙橋徳夫	佐々木勝		
H1	目黒敏明	佐々木寿信	尾形 彰	遠藤裕悦郎			佐々木勝		
H2	目黒敏明	佐々木寿信	尾形 彰	遠藤裕悦郎	髙橋定光		佐藤貞二		
H3	目黒敏明		尾形 彰		髙橋定光		佐藤貞二		
H4		佐々木寿信	尾形 彰		髙橋定光		佐藤貞二		
H5	八島良隆	佐々木寿信	尾形 彰	山家孝弘	髙橋定光		佐藤貞二	小林志郎	
H6	八島良隆	佐々木寿信		山家孝弘			佐藤貞二	小林志郎	
H7		佐々木寿信	黒田雅子	山家孝弘			佐藤貞二	小林志郎	
H8			黒田雅子	山家孝弘			佐藤貞二	小林志郎	丹野靖則
H9		佐藤圭一	菊地雅子	山家孝弘			佐藤貞二	小林志郎	丹野靖則
H10	八島良隆	佐藤圭一	菊地雅子		平間香代				丹野靖則
H11	八島良隆	伊藤敏之	菊地雅子		平間香代				丹野靖則
H12	八島良隆	伊藤敏之	菊地雅子		平間香代		須藤正樹	小林志郎	
H13	八島良隆	伊藤敏之			髙橋香代		須藤正樹		
H14	八島良隆		櫻田 尚	山家孝弘	髙橋香代				丹野靖則
H15	八島良隆	小野 宏		山家孝弘	髙橋香代	鎌田浩孝			丹野靖則
H16		小野 宏	尾形 彰	山家孝弘	髙橋香代	鎌田浩孝			丹野靖則
H17		小野 宏	尾形 彰		髙橋香代	鎌田浩孝		佐藤伸一郎	
H18		小野 宏	尾形 彰		髙橋定光	鎌田浩孝		佐藤伸一郎	
H19			尾形 彰		髙橋定光	鎌田浩孝		佐藤伸一郎	村上 透
H20			尾形 彰	佐藤隆法	髙橋定光	鎌田浩孝		佐藤伸一郎	村上 透
H21			尾形 彰	佐藤隆法		鎌田浩孝			村上 透
H22			尾形 彰	佐藤隆法	佐藤裕史				村上 透
H23	八島良隆		尾形 彰	佐藤隆法	佐藤裕史		冨田丈靖		

年度	柴田町								
S34									
S35									
S36	加藤昭吉								
S37	加藤昭吉								
S38	加藤昭吉								
S39	加藤昭吉								
S40	加藤昭吉								
S41	加藤昭吉								
S42	加藤昭吉								
S43	加藤昭吉								
S44		荒井一男							
S45		荒井一男							
S46		荒井一男							
S47		荒井一男							
S48		荒井一男							
S49		荒井一男							
S50		荒井一男							
S51		荒井一男							
S52		荒井一男							
S53	澁谷孝之								
S54	澁谷孝之								
S55	澁谷孝之								
S56	澁谷孝之								
S57	澁谷孝之								
S58	澁谷孝之		安部俊三						
S59	澁谷孝之		安部俊三	高橋 譲					
S60	澁谷孝之		安部俊三	高橋 譲					
S61	澁谷孝之		安部俊三	高橋 譲	小林 功				
S62	澁谷孝之		安部俊三	高橋 譲	小林 功				
S63	澁谷孝之		安部俊三	高橋 譲	小林 功	加茂和弘			
H1	澁谷孝之		安部俊三	高橋 譲	小林 功	加茂和弘			
H2	澁谷孝之		安部俊三	高橋 譲					
H3			安部俊三	高橋 譲					
H4		鈴木照二	安部俊三						
H5		鈴木照二	安部俊三						
H6		鈴木照二	安部俊三					大川原真一	
H7	佐々木啓	鈴木照二	安部俊三	高橋秀之	亀井和招		木村正人	大川原真一	
H8	佐々木啓	鈴木照二		高橋秀之	亀井和招		木村正人		
H9	佐々木啓	鈴木照二		高橋秀之	亀井和招		木村正人		
H10	佐々木啓			高橋秀之			木村正人		
H11	佐々木啓			高橋秀之	遠藤 稔		木村正人		
H12	佐々木啓		大石恵美		遠藤 稔	杉本龍司	木村正人		齋藤良美
H13			大石恵美			杉本龍司			齋藤良美
H14			大石恵美	高橋秀之		杉本龍司			
H15	石上幸弘		大石恵美	高橋秀之					
H16	石上幸弘			高橋秀之					
H17	石上幸弘			高橋秀之	沖館淳一				
H18	石上幸弘	鈴木照二		高橋秀之					
H19	石上幸弘	鈴木照二		高橋秀之				大川原真一	
H20	石上幸弘							大川原真一	
H21	石上幸弘					杉本龍司		大川原真一	
H22	石上幸弘	鈴木照二		高橋秀之		杉本龍司		大川原真一	齋藤良美
H23	石上幸弘	鈴木照二		高橋秀之		杉本龍司	木村正人	大川原真一	齋藤良美

年度	丸森町					仙南広域		
S34								
S35								
S36	平田行雄							
S37	平田行雄							
S38	平田行雄							
S39	平田行雄							
S40	平田行雄							
S41	佐藤 正							
S42	佐藤 正							
S43	佐藤 正							
S44	佐藤 正							
S45	平田行雄							
S46	平田行雄							
S47	平田行雄							
S48	平田行雄					齋藤英俊		
S49	平田行雄					齋藤英俊		
S50	阿部義郎					齋藤英俊		
S51	阿部義郎					齋藤英俊		
S52	阿部義郎					齋藤英俊		
S53	阿部義郎					齋藤英俊		
S54	阿部義郎					齋藤英俊		
S55	阿部義郎							
S56	阿部義郎							
S57	阿部義郎							
S58	阿部義郎							
S59	鈴木悦郎							
S60	鈴木悦郎	岡崎勝志						
S61	鈴木悦郎	岡崎勝志						
S62	鈴木悦郎	岡崎勝志						
S63	鈴木悦郎	岡崎勝志					岡田定一	
H1	鈴木悦郎	岡崎勝志					岡田定一	
H2	鈴木悦郎	岡崎勝志					岡田定一	
H3	鈴木悦郎	岡崎勝志				齋藤英俊		
H4		岡崎勝志		伊藤博道		齋藤英俊		
H5		岡崎勝志	菊地浩二	伊藤博道		齋藤英俊		
H6	鈴木悦郎			伊藤博道		齋藤英俊		
H7	鈴木悦郎			伊藤博道			加藤弘一	
H8	鈴木悦郎			伊藤博道			加藤弘一	
H9	鈴木悦郎	齋藤公男		伊藤博道		黒澤 良	加藤弘一	
H10	鈴木悦郎	齋藤公男	菊地浩二	伊藤博道		黒澤 良	加藤弘一	
H11	鈴木悦郎	齋藤公男	菊地浩二	伊藤博道		黒澤 良		
H12	鈴木悦郎	齋藤公男	菊地浩二	伊藤博道	窪田高広	黒澤 良		横田一彦
H13	鈴木悦郎	齋藤公男	菊地浩二	伊藤博道	窪田高広		岡田定一	横田一彦
H14	鈴木悦郎	齋藤公男	菊地浩二	伊藤博道			岡田定一	
H15	鈴木悦郎			伊藤博道			岡田定一	
H16	鈴木悦郎			伊藤博道		黒澤 良		渡部勇造
H17	鈴木悦郎			伊藤博道		黒澤 良		渡部勇造
H18	鈴木悦郎			伊藤博道		黒澤 良	加藤雅章	渡部勇造
H19	鈴木悦郎	齋藤公男		伊藤博道		黒澤 良	加藤雅章	
H20		齋藤公男		伊藤博道		黒澤 良	加藤雅章	
H21		齋藤公男		伊藤博道				渡部勇造
H22	齋藤洋寿※	齋藤公男		伊藤博道	窪田高広	佐々木洋佑		渡部勇造
H23	齋藤洋寿	齋藤公男	荒井優作※	伊藤博道	窪田高広	佐々木洋佑	塚野あい子※	

※印は社会教育主事補

2　市町等派遣社会教育主事在任期間

年度	白石市	角田市	蔵王町	七ヶ宿町	大河原町	村田町	柴田町	川崎町	丸森町	仙南広域
S34										
S35										
S36										
S37										
S38										
S39										
S40										
S41										
S42										
S43										
S44										
S45										
S46										
S47										
S48										
S49				大友勝彦		奈良昭男				
S50		米竹賢一	高橋康之	大友勝彦		奈良昭男				
S51		米竹賢一	高橋康之	大友勝彦		奈良昭男				
S52		米竹賢一	高橋康之	小関八郎					本木征雄	水上　誠
S53				小関八郎	大沼　威		尾形　勲		本木征雄	水上　誠
S54				小関八郎	大沼　威		尾形　勲		本木征雄	水上　誠
S55	長山忠男				大沼　威		尾形　勲	古山　稔		富川晴男
S56	長山忠男			川村邦彦			佐伯洋昌	古山　稔		富川晴男
S57	長山忠男			川村邦彦			佐伯洋昌	古山　稔		富川晴男
S58				川村邦彦		高橋　久	佐伯洋昌			及川義行
S59		桜田正志	佐々木知明			高橋　久				及川義行
S60		桜田正志	佐々木知明			高橋　久				及川義行
S61	加藤正光	桜田正志	佐々木知明						伊達宗男	今野　凱
S62	加藤正光							高橋　守	伊達宗男	今野　凱
S63	加藤正光							高橋　守	伊達宗男	今野　凱
H1	大野　博				佐々木安彦		高橋信夫	高橋　守		服部和憲
H2	大野　博		高橋典士		佐々木安彦		高橋信夫			服部和憲
H3	大野　博		高橋典士		佐々木安彦		高橋信夫			服部和憲
H4	山本　玲			小泉　仁						横塚正己
H5	山本　玲			小泉　仁		砂金甚一			佐山正則	横塚正己
H6	山本　玲			小泉　仁	阿部明彦	砂金甚一			佐山正則	横塚正己
H7			松崎　隆		阿部明彦	砂金甚一		佐藤広之	佐山正則	鈴木登志彦
H8			松崎　隆		阿部明彦		高橋祥朗	佐藤広之		鈴木登志彦
H9			松崎　隆				高橋祥朗	佐藤広之		鈴木登志彦
H10				佐藤　繁			高橋祥朗		庄司　毅	笹森泰弘
H11				佐藤　繁		伊藤浩一			庄司　毅	笹森泰弘
H12				佐藤　繁		伊藤浩一			庄司　毅	笹森泰弘
H13			植木　薫		齊藤　直	伊藤浩一				
H14			植木　薫		齊藤　直			小野寺修		齋藤和志
H15			植木　薫		齊藤　直			小野寺修		齋藤和志
H16				高橋文雄			石河秀一	小野寺修		齋藤和志
H17				高橋文雄			石河秀一		小野寺徹	
H18				高橋文雄			石河秀一		小野寺徹	
H19			池田尚人						小野寺徹	森　智弘
H20			池田尚人			藤原秀光				森　智弘
H21			池田尚人		平林　健	藤原秀光				森　智弘
H22					平林　健	藤原秀光		我妻聡美		
H23					平林　健		後藤忠宏	我妻聡美		

3　大河原教育事務所・蔵王自然の家　社会教育主事在任期間

年度	大河原教育事務所生涯学習担当			蔵王自然の家						
S34	伊藤輝男	木村　博		（所長）	（社会教育主事）					
S35	八島元悠	木村　博								
S36	渡辺永光	堀内　正								
S37	渡辺永光	堀内　正								
S38	澁谷政男	樋口桝二	＊職務上の配列が順不同です。予め、ご了承願います。							
S39	澁谷政男	樋口桝二								
S40	澁谷政男	樋口桝二								
S41	佐々木わく里	樋口桝二								
S42	佐々木わく里	青沼房雄								
S43	佐々木わく里	引田犂耕								
S44	加藤ひさこ	引田犂耕								
S45	加藤ひさこ	佐藤尚義								
S46	加藤ひさこ	佐藤尚義		佐藤富夫	小島亮治	大沼六郎				
S47	半沢清衛	佐藤尚義		佐藤富夫	小島亮治	大沼六郎				
S48	半沢清衛	永井忠雄		佐藤富夫	小島亮治	大沼六郎				
S49	半沢清衛	永井忠雄		佐藤富夫	小野寺哲男	大沼六郎				
S50	大野宏人	永井忠雄		早坂哲郎	小野寺哲男	橋本　進	三浦二郎			
S51	大野宏人	我妻智郎		早坂哲郎		橋本　進	三浦二郎			
S52	大野宏人	我妻智郎		早坂哲郎		橋本　進	三浦二郎			
S53	大野宏人	我妻智郎		玉手憲二		針生長之助	三浦二郎			
S54	大宮力男	我妻智郎		玉手憲二		針生長之助	吉野　薫			
S55	大宮力男	我妻昭六		玉手憲二		針生長之助	吉野　薫			
S56	大宮力男	我妻昭六		越後勝郎		阿部忠弘	吉野　薫			
S57	大宮力男	我妻昭六		越後勝郎		阿部忠弘	佐藤利夫			
S58	佐藤陸郎	我妻昭六		須藤泰将		阿部忠弘	佐藤利夫			
S59	佐藤陸郎	永山成一		須藤泰将		小関八郎	佐藤利夫			
S60	丹野敏夫	永山成一		舟山敏雄	古山　稔	小関八郎				
S61	丹野敏夫	一條員男		舟山敏雄	古山　稔	小関八郎				
S62	竹野晃平	一條員男		鈴木則郎	佐竹伸彦	小関八郎				
S63	竹野晃平	八巻宏征		鈴木則郎	佐竹伸彦	西村吉之				
H1	玉田豪芳	八巻宏征		丹野敏雄	高橋　久	西村吉之				
H2	玉田豪芳	八巻宏征		丹野敏雄	高橋　久	丸山春夫				
H3	玉田豪芳	小関八郎		一條員男	高橋　久	丸山春夫				
H4	岩間哲雄	小関八郎		一條員男	佐々木知明	渡邊良悦				
H5	岩間哲雄	井上　晃		長山忠男	佐々木知明	渡邊良悦	百足俊一	加藤正光		
H6	岩間哲雄	井上　晃		長山忠男	佐々木知明	渡邊良悦	百足俊一	加藤正光		
H7	岩城敏夫	井上　晃		玉田豪芳	軍司　啓	伊藤公一	服部和憲	加藤正光		
H8	岩城敏夫	渡辺文雄		玉田豪芳	軍司　啓	伊藤公一	服部和憲	森　幹彦		
H9	岩城敏夫	渡辺文雄		岩間哲雄	熊谷和穂	日下　享	服部和憲	森　幹彦		
H10	加藤正光	渡辺文雄		岩間哲雄	熊谷和穂	日下　享	高橋典士	森　幹彦		
H11	加藤正光	伊藤　誠		高橋宏一	佐々木知明	日下　享	高橋典士	横塚正己		
H12	加藤正光	伊藤　誠		高橋　久	佐々木知明	嶺岸　篤	高橋典士	横塚正己		
H13	服部和憲	伊藤　誠		高橋　久	佐藤茂廣	嶺岸　篤	阿部明彦	横塚正己		
H14	服部和憲	森　和久		井上　晃	佐藤茂廣	山本　玲	阿部明彦	麻生川敦		
H15	服部和憲	森　和久		井上　晃	永山伸樹	山本　玲	我妻哲雄	麻生川敦		
H16	加藤　昇	森　和久		渡邊良悦	永山伸樹	山本　玲	我妻哲雄	佐藤尚利		
H17	加藤　昇	太田一江		渡邊良悦	阿部明彦	稲田　壽	我妻哲雄	佐藤尚利		
H18	加藤　昇	太田一江		江刺義夫	阿部明彦	稲田　壽	植木　薫	佐藤尚利		
H19	高橋典士	太田一江		江刺義夫	阿部明彦	稲田　壽	植木　薫	浅川光喜	木口秀樹	
H20	高橋典士	山本　玲		服部和憲	佐藤博明	近藤和夫	植木　薫	浅川光喜	木口秀樹	高橋　亮
H21	横塚正己	山本　玲		服部和憲	佐藤博明	近藤和夫	永沼昌一	小野寺徹	木口秀樹	高橋　亮
H22	横塚正己	山本　玲		小畑幸彦	佐藤博明	針生一之	永沼昌一	小野寺徹	田中　充	高橋　亮
H23	横塚正己	加藤敏充	山下正人	小畑幸彦	稲田　壽	針生一之	永沼昌一	小野寺徹	田中　充	高橋　亮

4　管内社会教育主事研究協議会　歴代役員名簿

年度	会長			副会長			研修委員長	
S34	初代	千葉礼次郎	大河原町	初代	小柴　敏	蔵王町		
S35	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
S36	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
S37	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
S38	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
S39	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
S40	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
S41	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
S42	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
S43	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
S44	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
S45	第2代	小柴　敏	蔵王町	第2代	大沼幸治	川崎町		
S46	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
S47	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
S48	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
S49	〃	〃	〃	〃	〃	〃	太齋　亨 伏見光龍	白石市 白石市
S50	第3代	大沼幸治	川崎町	第3代	門馬敏男	角田市	伏見光龍	白石市
S51	第4代	門馬敏男	角田市	第4代	荒井一男	柴田町	阿部義郎	丸森町
S52	第5代	荒井一男	柴田町	第5代	丹野広伸	村田町	髙山惠弘	川崎町
S53	第6代 10月の異動により 第7代	丹野広伸 阿部義郎	村田町 丸森町	第6代 第7代	阿部義郎 髙山惠弘	丸森町 川崎町	咲間庄三	角田市
S54	〃	〃	〃	〃	〃	〃	根本邦美	七ヶ宿町
S55	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
S56	〃	〃	〃	第8代	澁谷孝之	柴田町	澁谷孝之	柴田町
S57	〃	〃	〃	〃	〃	〃	齋藤　久	角田市
S58	〃	〃	〃	〃	〃	〃	大宮　昭	川崎町
S59	第8代	澁谷孝之	柴田町	第9代	髙橋徳夫	村田町	佐藤重人	白石市
S60	〃	〃	〃	〃	〃	〃	鈴木悦郎	丸森町
S61	〃	〃	〃	〃	〃	〃	髙橋徳夫	村田町
S62	〃	〃	〃	〃	〃	〃	大友喜助	角田市
S63	〃	〃	〃	〃	〃	〃	佐々木寿僧	大河原町
H1	第9代	清野俊太朗	白石市	第10代	鈴木悦郎	丸森町	太田文夫	角田市
H2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	岡崎勝志	丸森町
H3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	髙橋定光	村田町
H4	第10代	太田文夫	角田市	第11代	山田益広	七ヶ宿町	尾形　彰	大河原町
H5	〃	〃	〃	〃	〃	〃	小林志郎	川崎町
H6	第11代	山田益広	七ヶ宿町	第12代	芦立敏彦	蔵王町	日下朝男	蔵王町
H7	第12代	鈴木悦郎	丸森町	第13代	角張　力	角田市	山家孝弘	村田町
H8	〃	〃	〃	〃	〃	〃	小野輝彦	白石市
H9	〃	〃	〃	〃	〃	〃	山家孝弘	村田町
H10	〃	〃	〃	〃	〃	〃	砂金　毅	蔵王町
H11	第13代	角張　力	角田市	第14代	齋藤公男	丸森町	八島良隆	大河原町
H12	第14代	八島良隆	大河原町	〃	〃	〃	村上忠敏	白石市
H13	〃	〃	〃	〃	〃	〃	伊藤貴子	七ヶ宿町
H14	第15代	齋藤公男	丸森町	第15代	山家孝弘	村田町	菊地浩二	丸森町
H15	第16代	八島良隆	大河原町	〃	〃	〃	伊藤博道	丸森町
H16	第17代	村上忠敏	白石市	第16代	伊藤博道	丸森町	小野　宏	大河原町
H17	第18代	伊藤博道	丸森町	第17代	丹野靖則	川崎町	鎌田浩孝	村田町
H18	第19代	髙橋定光	村田町	第18代	尾形　彰	大河原町	髙橋慎太郎	七ヶ宿町
H19	〃	〃	〃	〃	〃	〃	八島利美	角田市
H20	第20代	尾形　彰	大河原町	第19代	小野輝彦	白石市	村上　透	川崎町
H21	〃	〃	〃	第20代	髙橋慎太郎	七ヶ宿町	大川原真一	柴田町
H22	第21代	大川原真一	柴田町	第21代	伊藤博道	丸森町	小室徹彦	白石市
H23	〃	〃	〃	第22代	窪田髙広	丸森町	大内克典	角田市

まとめと課題

今年度の研修テーマは「大河原教育事務所管内社会教育６０年のあゆみ」として，「５０年のあゆみ」以降１０年間（実質平成１２年度から平成２２年度の１１年間）の各市町等の社会教育の移り変わりを取りまとめるとともに，「協働教育」について視察と座談会の開催による研修を行った。

全国的に，この１０年の社会教育を取り巻く環境の変化は非常に大きく，報告書の冒頭で当協議会長が述べたとおり教育基本法の全面改定，それに伴う社会教育法等の一部改正がなされたことのほか，平成１５年の地方自治法改正による指定管理者制度の導入は，公民館を代表とする社会教育施設に大きな影響を与えた。また，長期にわたる景気低迷，少子高齢化，高度情報化の波も社会教育行政に波紋を起こしており，大河原教育事務所管内においても同様の状況にある。

様々な変化の中，特筆すべきは指定管理者制度の導入ではないかと思う。白石市では平成１７年度に地区公民館がその対象となり，丸森町では平成２２年度から公民館自体が廃止され，それに代わる「まちづくりセンター」は各地区の住民団体が指定管理者となり，社会教育事業の一部を受託する形態へと変化した。指定管理者制度ではないものの，角田市においても平成１９年度に中央公民館の廃止と地区公民館の名称変更が行われた。全国的に見ても長年社会教育の拠点で有り続けた「公民館」が，ここ数年でその姿を変えるところが増えており，公民館の有るべき姿を改めて見つめなおす時期が到来したものと思われる。現在，管内においてそれ以外の市町の公民館指定管理へ向けた変更等の予定はないようだが，今後，そのような動きが無いとも限らず，注視していかなければならないと考えている。

また，高度に情報化が進む社会は，高齢者人口の増加と相まって生涯学習ニーズを多様化させるほか，これまで視聴覚教育の主役であった「１６ミリ映写機」の需要を減少させるなど，社会教育の現場に様々な影響を与えている。直接的ではないものの，情報化の進展は青年教育事業への参加者減少にも影響していると考えられ，特に白石市と角田市，柴田町では勤労青少年ホームが廃止となるほか，事業を縮小している市町が多くなってきている。

そんな中，充実された点もあった。平成１２年に大河原町駅前図書館が開館，蔵王町では平成１６年に新設した「ふるさと文化会館」に図書館が併設され，柴田町でも平成２２年に郷土館内に図書館が開館した。また，角田市でも図書館の付随施設（子ども図書館）が今年度完成するなど，管内に多くの図書館ができ，管内の読書環境がより一層充実した。

また，平成２０年の改正により社会教育法の中で「学校，家庭および地域住民の連携協力推進」が謳われ，各市町において「学社連携」をさらに充実させる「協働教育」へのシフトが図られている。地域の宝である子どもたちを地域全体で育むことを目標とする協働教育は，学校など関係機関や地域住民ボランティアとどう連携していくかが大きな鍵であり，その協働教育について学ぶために実施した視察研修では，富谷町の取り組みから自治体毎に地域性に合った事業推進が大切であることを学び，また，座談会においては，東日本大震災で大きく被災した山元町の状況を伺って，いかに様々な垣根を取り払い，地域が一体となることが重要であるかを改めて認識した。

社会教育主事講習で「学校教育」に含まれない教育が「社会教育」であると教わったが，学校教育現場へ地域住民が乗り込み，地域活動に学校が乗り込んで，共に学び合い，支え合う社会を目指していきたいと，研修委員一同，改めて意を決した次第である。

おわりに

今年度の研修テーマ「大河原教育事務所管内社会教育６０年のあゆみ」は，本来であれば昨年度が該当の年でしたが，当時の研修委員の熱意により平成２１年度に引き続き「総合型地域スポーツクラブ」についての研修が継続され，次年度へと持ち越すこととなっていました。その経緯はあったものの，人事異動で研修委員の半数が入れ替わったため，第１回目の研修委員会で改めてテーマを検討してみましたが，やはり「３０年のあゆみ」以降，１０年毎に変遷をまとめてきた流れを継承すべきとの総意により，時期的に１年遅れることになっても「６０年のあゆみ」をテーマとすることとなりました。

また，研修委員会にその内容を一任されている協議会の研修視察については，テーマ検討の候補にも挙がった「協働教育」の先進地ということに即決しました。富谷町教育委員会の皆様には，快く視察を受け入れていただき，事業立ち上げの経緯から現在の推進状況の詳細，及び各担当者の生の声をお聞かせいただきましたこと，深く感謝申し上げます。

研修視察とは反対に，座談会をどのような内容にするかは，かなり悩みながら話し合ったのを記憶しています。協議の結果，震災による津波の被害があった沿岸部において，学校が避難所となったことを受け，学校と地域住民がどのように連携したのか，そこにも協働教育を推進する上でのヒントがあるのではないかと考え，未だ復旧へ向けて多忙であることは承知しながらも，山元町より岩佐孝子氏、渡邉修次氏を講師として迎えることとしました。お二人には，本当にお忙しい中お越しいただいたことに、改めて深く感謝申し上げます。

管内において，スタートラインに立ったばかりの「協働教育」をこれから推進していくための一助となる報告書にしたいという想いから，視察研修と座談会の内容を組み込み，過去を振り返りつつ今後の社会教育推進に繋がる研修報告書に仕上がったのではないかと自負しております。

最後になりましたが，震災後で何かと落ち着かない中，一年を通して通常業務の合間を縫って，熱心に研修に取り組んだ研修委員に敬意を表するとともに，ご協力いただきました多くの方々に心より感謝を申し上げ，おわりの言葉といたします。本当にありがとうございました。

平成２４年３月

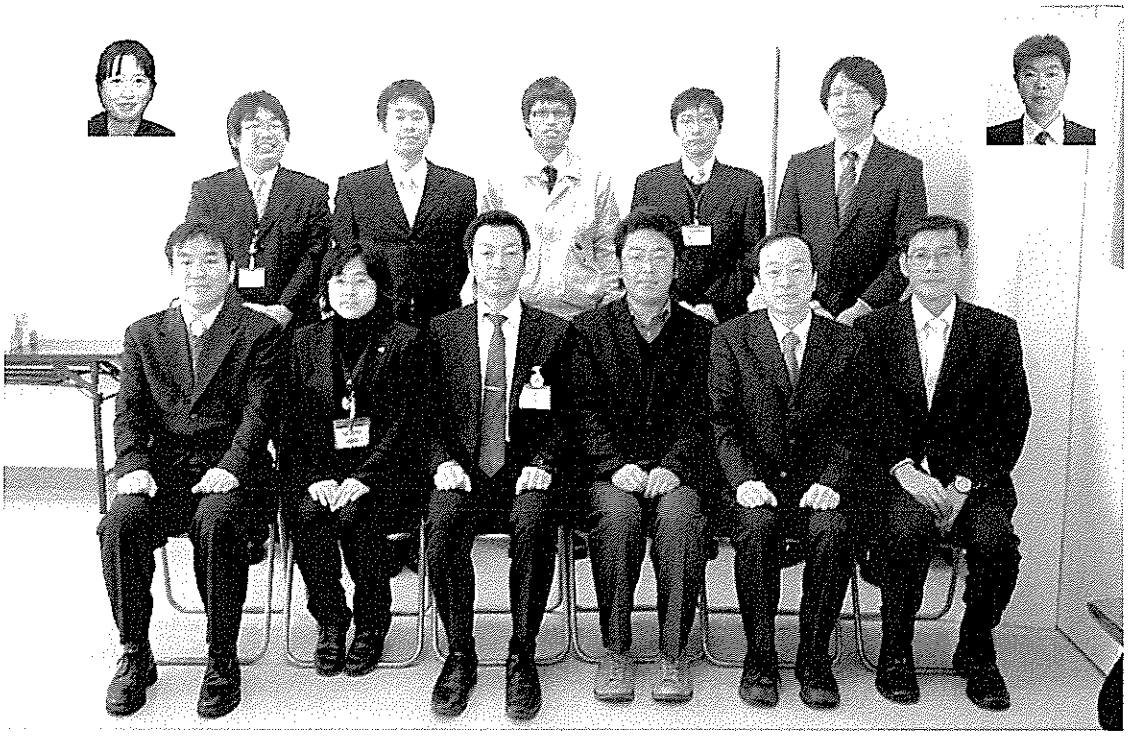
大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会
研修委員長　角田市社会教育主事　大内　克典

【大河原地区社会教育主事研究協議会研究同人】

白石市	※小室　徹彦	小野　輝彦			
角田市	◎大内　克典				
蔵王町	日下　朝男	川井　由美	※玉手　美絵		
七ヶ宿町	※伊藤　貴子	※高橋　陸			
大河原町	尾形　彰	※八島　良隆	平林　健		
村田町	※佐藤　裕史	※佐藤　隆法			
柴田町	鈴木　照二	石上　幸弘	☆大川原真一	齋藤　良美	
	高橋　秀之	杉本　龍司	木村　正人	○後藤　忠宏	
川崎町	我妻　聡美	※冨田　丈靖			
丸森町	◇窪田　高広	齋藤　公男	伊藤　博道	齋藤　洋寿	※荒井　優作
仙南広域	※佐々木洋佑	塚野あい子			
教育事務所	横塚　正己	※加藤　敏充	山下　正人		

☆研究協議会長
◇研究協議会副会長
◎研修委員長
○研修副委員長
※研修委員

【平成23年度　研修委員】



大河原町　八島　良隆
村田町　佐藤　隆法
仙南広域　佐々木洋佑
七ヶ宿町　高橋　陸
川崎町　冨田　丈靖
丸森町　荒井　優作
七ヶ宿町　伊藤　貴子

白石市　小室　徹彦
研究協議会長　柴田町　大川原真一
研修委員長　角田市　大内　克典
研修副委員長　柴田町　後藤　忠宏
蔵王町　玉手　美絵
教育事務所　加藤　敏充

研修報告書　第38号

大河原教育事務所管内社会教育60年のあゆみ

～　変わり続ける時代を生きる　～

平成２４年３月３０日発行

編集　大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会

発行　大河原地区社会教育主事研究協議会

〒９８９－１２４３　宮城県柴田郡大河原町字南１２９－１（宮城県大河原教育事務所内）

印刷　株式会社　津田印刷

研修委員会のあゆみ【これまでの研修報告書一覧】

No	年度	タイトル	研修代表者
1	S48	宮城県における父母教師会活動に関する実態 ー調査報告書ー	県教育部長会編・社会教育主事担当
2	S49	仙南地域における母親の幼児教育に関する実態 ～3・4歳児を第一子に持つ母親～ 調査報告書	研修班長 白石市 太齋 亨 白石市 伏見 光龍
3	S50	乳幼児教育の学習内容の研究 ～学習計画立案のために～	研修班長 白石市 伏見 光龍
4	S51	文化財保護行政をすすめるために	研修班長 丸森町 阿部 義郎
5	S52	生涯教育を推進するために	研修班長 川崎町 髙山 惠弘
6	S53 S54	大河原教育事務所管内社会教育30年のあゆみ ～住民のこころに灯をともして～	研修班長 角田市 咲間 庄三 七ヶ宿町 根元 邦美
7	S55	学習プログラムの立案(婦人学級・高齢者教室・家庭教育学級)	研修班長 七ヶ宿町 根元 邦美
8	S56	青少年及び親の意識 調査報告書	研修班長 柴田町 澁谷 孝之
9	S57	社会教育推進上の諸問題と社会教育主事の果たす役割 ～教育委員会と公民館のあり方を中心として～	研修班長 角田市 齋藤 久
10	S58	社会教育における学習内容を充実させるための工夫 ～視聴覚教材の効果的な活用をとおして～	研修班長 川崎町 大宮 昭
11	S59	少年教育の充実をめざして ～管内における現状と課題～	研修班長 白石市 佐藤 重仁
12	S60	青年教育の充実をめざして・Ⅰ ＝青年活動の実態＝	研修班長 丸森町 鈴木 悦郎
13	S61	青年教育の充実をめざして・Ⅱ 「青年の生活意識と余暇活動についての調査」報告書	研修班長 村田町 髙橋 徳夫
14	S62	青年教育の充実をめざして・Ⅲ ー青年教育事業の進め方を考えるー	研修班長 角田市 大友 喜助
15	S63	スポーツ人口の拡大を図る一方策 高齢者向けニュースポーツの開発を通して	研修班長 大河原町 佐々木寿信
16	H元	スポーツ人口の拡大を図る一方策Ⅱ 高齢者向けニュースポーツの普及を通して	研修班長 角田市 太田 文夫
17	H2	大河原教育事務所管内社会教育40年のあゆみ 新しい学習社会への架け橋	研修委員長 丸森町 岡崎 勝志
18	H3	生涯学習の鼓動 青年・家庭・高齢者教育の充実をめざして	研修委員長 村田町 髙橋 定光
19	H4	生涯学習の鼓動part2 成人・少年・婦人教育の充実をめざして	研修委員長 大河原町 尾形 彰
20	H5	学校週5日制と社会教育のあり方	研修委員長 川崎町 小林 志郎
21	H6	青年教育の充実をめざして・Ⅳ ー昭和61年度調査結果との比較・考察を通してー	研修委員長 蔵王町 日下 朝男
22	H7	生涯学習のまちづくりをめざして 生涯学習推進の現状と課題	研修委員長 村田町 山家 孝弘
23	H8	生涯学習の課題と展望 学社連携をめざして	研修委員長 白石市 小野 輝彦
24	H9	生涯学習の課題と展望 学社連携から学社融合へ	研修委員長 村田町 山家 孝弘
25	H10	生涯学習の課題と展望 よりよい公民館活動をめざして	研修委員長 蔵王町 砂金 毅
26	H11	生涯学習の課題と展望 よりよい公民館活動をめざしてⅡ ～公民館入門ーつどう・まなぶ・つながる～	研修委員長 大河原町 八島 良隆
27	H12	大河原教育事務所管内社会教育50年のあゆみ 新世紀・きえない虹をおいかけて	研修委員長 白石市 村上 忠敏
28	H13	学社融合の課題と展望 総合的な学習の時間における社会教育のアプローチ	研修委員長 七ヶ宿町 伊藤 貴子
29	H14	学社融合の課題と展望 学校教育と社会教育の協働をめざして	研修委員長 丸森町 菊地 浩二
30	H15	学社融合へのアプローチ 知って得する！文化財・その活用法	研修委員長 丸森町 伊藤 博道
31	H16	ヤング・エボリューション ～青年の意識調査をとおして、今の青年たちを考える～	研修委員長 大河原町 小野 宏
32	H17	ヤング・エボリューションⅡ ～青年教育の活性化をめざして～	研修委員長 村田町 鎌田 浩孝
33	H18	動き出した次世代育成支援 ～これからの子育て支援の在り方を考える～	研修委員長 七ヶ宿町 髙橋慎太郎
34	H19	時代を映してきた視聴覚教育 ～使ってみよう自作視聴覚教材～	研修委員長 角田市 八島 利美
35	H20	がんばってます！ジュニア・リーダー ～過去 現在 そして未来へ～	研修委員長 川崎町 村上 透
36	H21	生涯スポーツの振興をめざして ～総合型地域スポーツクラブの可能性をさぐる～	研修委員長 柴田町 大川原真一
37	H22	生涯スポーツの振興をめざして vol.Ⅱ ～仙南型総合スポーツクラブへのアプローチ～	研修委員長 白石市 小室 徹彦
38	H23	大河原教育事務所管内社会教育60年のあゆみ ～変わり続ける時代を生きる～	研修委員長 角田市 大内 克典